

# 日本の統計制度と人口センサス・鑛工業指數

— 韓日統計技術交流 日本訪問 歸國報告書 —

1986. 3.

經濟企劃院 調査統計局

020584

## 일 러 두 기

日本訪問 修行事項中 第3次 産業活動指數의 作成方法에 對하여는 우리나라에서는 現在 開發이 안된 統計이므로 여기에서는 除外하였으며(追後 別途 研究報告書 發刊豫定), 또한 景氣指數에 對하여는 指數作成上의 諸問題에 對한 意見交換을 위주로 하였으므로 日本의 景氣指數 作成方法에 關한 報告는 여기에서 除外하였는 바, 日本의 DI, CI에 對하여는 當局(統計分析課)에서 發刊한 “日本의 縣民所得統計 및 景氣指標統計(1984.11)”, “日本의 景氣綜合指數(1985.4)”를 參照하시기 바랍니다.

統計分析課長

## 韓・日統計技術交流 日本訪問 報告

○ 定期交流 沿革

	時 期	內 容	人 員
第 1 次	1982. 4.26-30	日本代表團 韓國訪問	4 名
	1982. 6. 5-11	韓國代表團 日本訪問	3 名
第 2 次	1984. 9. 3- 7	日本代表團 韓國訪問	4 名
	1984. 9.24-28	韓國代表團 日本訪問	3 名
第 3 次	1985. 6.17-22	日本代表團 韓國訪問	4 名
	1986. 3.10-15	韓國代表團 日本訪問	5 名

### 〈第 3 次 日本訪問〉

○ 訪問團

經濟企劃院	調查統計局	統計計劃官	李康斗
經濟企劃院	調查統計局	統計分析課長	金民卿
서울特別市	統計擔當官		李政利
釜山直轄市	統計擔當官		柳千奎
京 畿 道	統計擔當官		南重書

○ 討議主題

- 人口센서스 評價方法 및 資料處理
- 生産指數 및 景氣指數 編製上 問題點 討議
- 地方統計 組織斗 活動

○ 旅行日程

1986. 3.10 : 서울出發 - 東京到着

1986. 3.11 : • 統務廳 事務次官 禮訪

- 1985年 人口센서스 評價方法 및 資料處理에 對한 討議  
(統計局)

1986. 3.12 : • 日本의 統計制度 및 調整業務에 對한 討議(統計局)

- 産業生産指數 作成에 對한 諸問題點 討議(通産省)
- 第3次 産業活動 指數 作成方法 說明(通産省)
- 東京都 統計部 統計活動 現況 討議(東京都)

1986. 3.13 : • 統計研修所 運營現況 視察(統計센터)

- 景氣指數 作成上的 諸問題點 討議(經濟企劃廳)
- 東京出發 - 奈良市到着

1986. 3.14 : • 奈良縣 企劃部 統計課 業務現況 視察(奈良縣)

- 奈良縣 知事禮訪
- 奈良市出發 - 大阪市到着

1986. 3.15 : • 大阪府 企劃部 統計課 活動現況 視察(大阪府)

- 大阪出發 - 서울到着

# 目 次

I. 日本의 統計制度 概要 .....	3
1. 政府統計組織 .....	5
2. 統計專任(擔)職員數 .....	9
3. 統計事業豫算 .....	10
4. 統計調査의 區分과 實施現況 .....	14
5. 中央政府의 統計調査體系 .....	16
6. 地方公共團體의 統計調査現況(東京都例) .....	18
II. 總務廳 統計局·統計센터 組織 및 機能 .....	23
1. 統計局·統計센터沿革 .....	25
2. 統計局·統計센터組織表 .....	26
3. 統計局·統計센터機能 .....	27
4. 統計研修所의 概要 .....	37
III. 日本의 1985年 人口센서스 事後調査 및 資料處理 .....	49
1. 1985年 人口센서스(國勢調査) 概要 .....	51
2. 1985年 人口센서스 評價方法 .....	54
3. 1985年 人口센서스 資料處理概要 .....	67
4. 人口센서스 OMR 利用에 對하여 .....	90
IV. 日本의 鑛工業 關聯指數 .....	109
1. 作成機關 .....	111

2. 鑛工業 指數 作成沿革 .....	111
3. 指數 作成方法 .....	112
4. 指數系列의 維持管理問題 .....	139
5. 出荷指數의 出荷內譯表 .....	150
V. 蒐集資料 目錄 .....	157
〈參 考〉	
1. 日本의 指定統計一覽 .....	163

# I. 日本의 統計制度 概要

# I. 日本의 統計制度 概要

## 1. 政府 統計 組織

- 各 行政機關이 所管行政部門에 關한 統計를 作成하는 分散型 統計制度로서, 統計의 綜合調整業務는 總務廳(統計局 統計基準部)이 擔當함.
- 政府統計機構를 보면 다음과 같음.

### ① 中央政府

#### ○ 局·部組織이 있는 機關

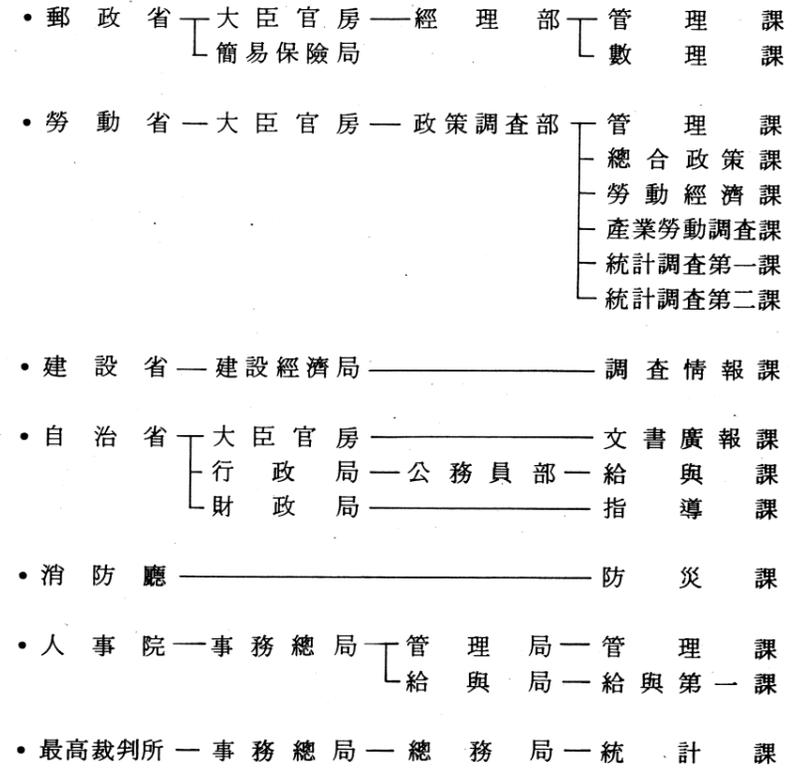
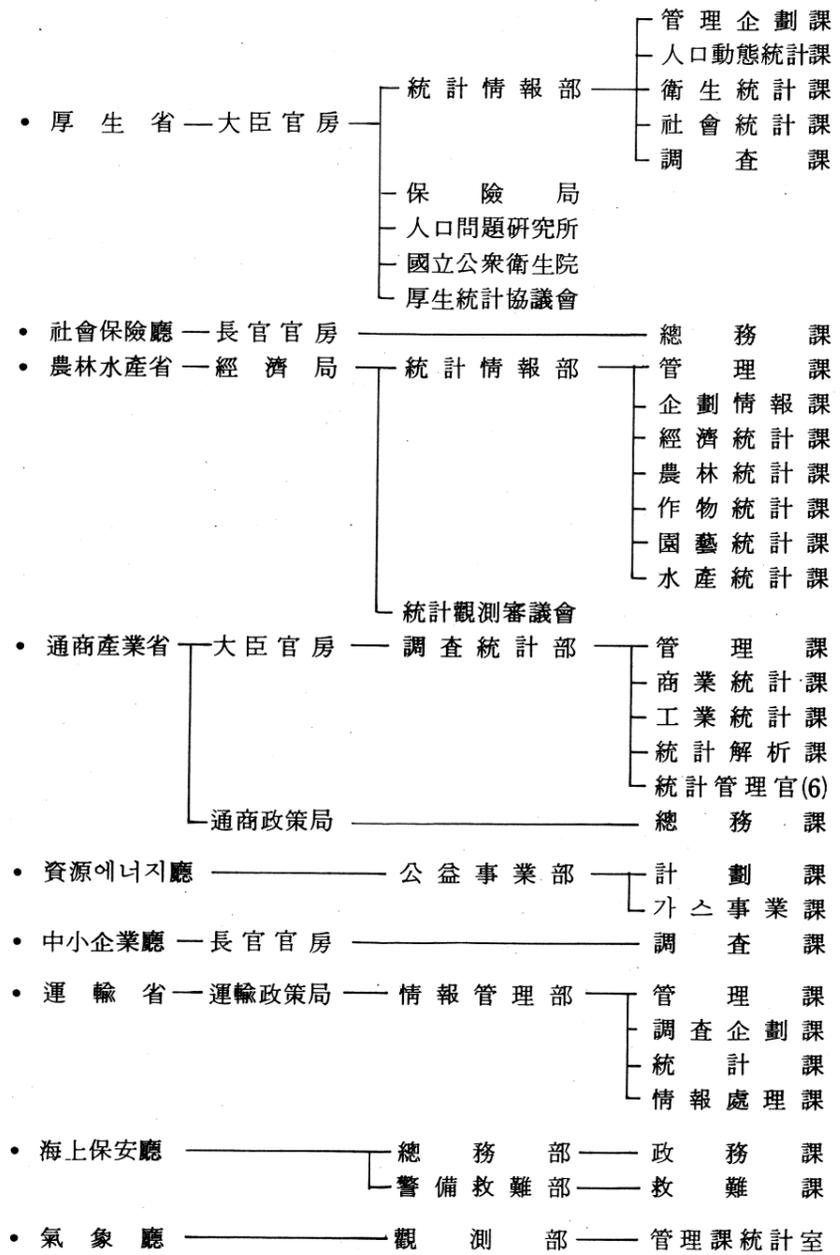
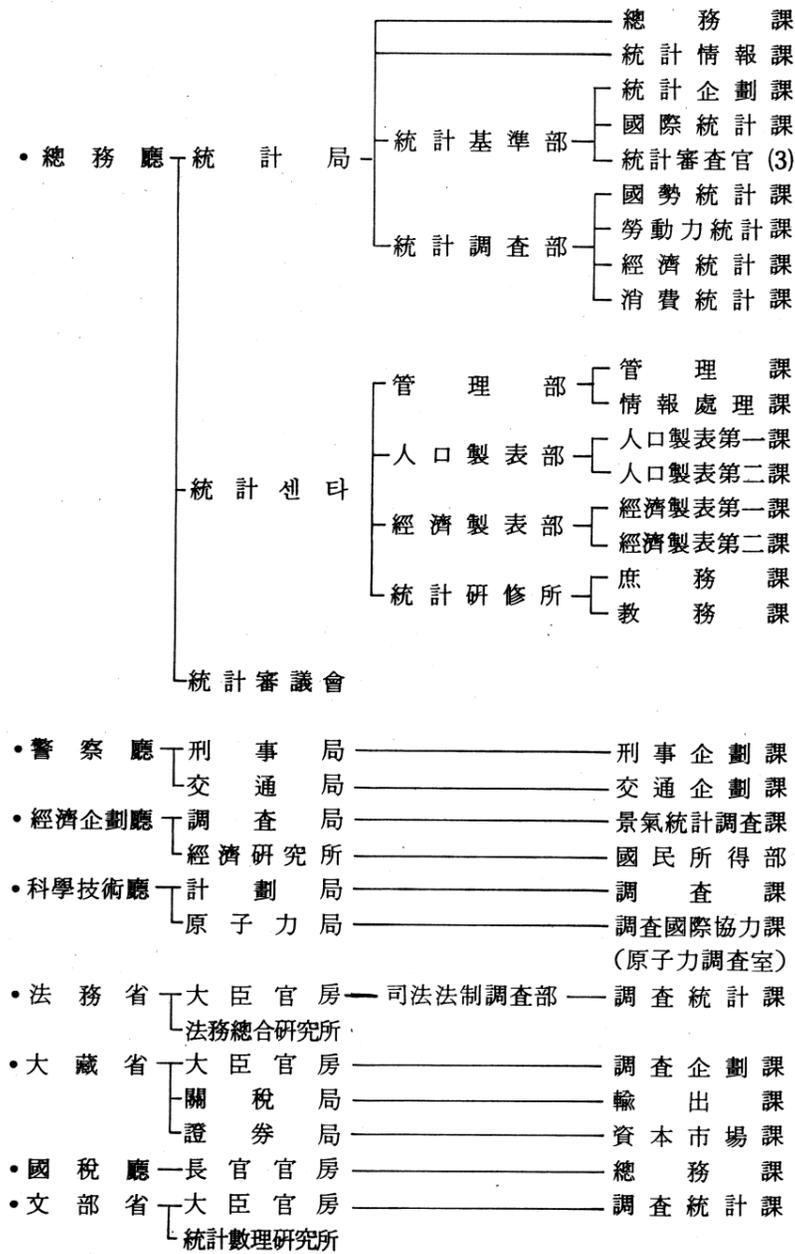
- 總務廳: 統計局·統計센터(6部19課)
- 經濟企劃廳: 調查局, 經濟研究所
- 厚生省:
  - 統計情報部(5課)
  - 保險局 調查課
  - 人口問題研究所
  - 厚生統計協議會
- 農林水産省:
  - 經濟局 統計情報部(7課)
  - 農林水産統計規則審議會
- 通商産業省: 調查統計部(10課)
- 運輸省: 情報管理部(4課)
- 勞動省: 政策調整部(6課)

※ 省廳에 따라 地方組織도 別途로 있음.

#### ○ 其他 17省廳

- 課組織(機關當 1~3個課)

〈 中央 政府 의 統 計 機 構 一 覽 〉



② 地方公共團體

- 都道府縣
  - ┌ 東京都 : 統計部(5課)
  - └ 46個縣 : 統計課
- 市町村
  - ┌ 10政令市 : 統計課
  - └ 市町村 : 統計係

③ 其 他

- 各省廳<sup>㉑</sup> 統計協會・聯合會 等 統計團體 設置
- 都道府縣<sup>㉒</sup> 統計協會 設置

2. 統計專任職員數(調查員 除外)

- 中央政府

(1985.4.1 現在)

省 廳	本 部	地方・支部	合 計	構 成 比
總 務 廳	1,930	—	1,930	15.8
經 濟 企 劃 廳	84	—	84	0.7
厚 生 省	484	—	484	4.0
農 林 水 產 省	420	7,996	8,416	68.9
通 商 產 業 省	416	140	556	4.5
運 輸 省	115	54	169	1.4
勞 動 省	149	90	239	2.0
大 藏 省	22	152	174	1.4
其 他	124	45	169	1.3
合 計	3,744	8,477	12,221	100.0

○ 都道府縣

(名)

	1980	1981	1982	1983	1984	1985
總數	2,829	2,805	2,777	2,749	2,721	2,693

• 地域別 配置定數(1985)

北海道 123, 東京 197, 愛知 117, 大阪 123  
 神奈川 79, 廣島 66, 福岡 75 等 47 都道府縣에 配置

○ 市町村

• 專任 2,311 名, 兼任 8,868 名('84.4.1 現在)이 統計業務에 從事

3. 統計事業豫算

○ 1985 統計豫算

(百萬円)

		'84	'85	人口센서스
統計事業	統計調査	21,300	49,302	32,996
	統計關聯事業	3,651	5,947	-
	計	24,951	55,249	32,996
都道府縣職員人件費		10,741	10,859	-
合計		35,692	66,108	-

※ ( 各省廳의 職員 人件費  
 • 經常的인 電算機運營・管理經費  
 • 經常的인 事務處理經費 ) 는 除外되어 있음.

○ 統計調査 豫算推移

(10 億円)

	1980	1981	1982	1983	1984	1985
統計調査豫算	48.3	17.8	17.8	20.0	21.3	49.3

○ 統計關聯事業 主要内容 (1985 年 5,947 百萬円)

- '85 農業센서스 資料處理等 2,643 百萬円(農林水産省)
- 事業體 基本調査區 設定 160 (總務廳)
- 商業實態 基本調査準備 88 (通産省)

○ 都道府縣 統計專任職員 人件費 負擔額

(百萬円)

	1980	1981	1982	1983	1984	1985
統計調査事務地方公共團體 委託費	9,246	9,633	9,734	10,142	10,741	10,859
(豫算定數)(人)	2,829	2,805	2,777	2,749	2,721	2,693

- 都道府縣 統計專任職員의 給與는 委託費로서 全額을 國費로 負擔함.
- 市町村의 統計專任職員에 對한 給與도 國費에서 直接 負擔하였으나 1950 年부터 地方交付稅로 措置 變更됨.

※ 1947 年 「地方統計機構 整備要綱」에 의거 都道府縣, 市町村에 統計專任職員 配置

○ 統計調査員 手當

- 統計關聯省廳의 協力下에 每年 統一시키고 있음.
- '85 調査員 4,450 円, 指導員 4,500 円
- 統計調査員 手當總額 34,556 百萬円(統計調査豫算의 70.1%)

〈 1985年度 各省廳의 統計事業歲出豫算額 및 地方公共團體委託費一覽 (政府原案) 〉  
(百萬元)

省廳等名	1984 豫算額 (當初)		1985 豫算 額				
	統計調查 總額	關聯事業 總額	計	統計調查 地方委託費	關聯事業		計
					總額	地方委託費	
人事院	43	-	43	-	-	43	-
總務廳	4,398	1,403	5,801	31,213 (2,331)	213	36,014 (3,018)	31,426 (2,544)
北海道廳	6	6	13	-	-	12	-
防衛廳	0.1	-	0.1	0.1	-	0.1	0.1
經濟企劃廳	257	194	451	161	19	364	181
科學技術廳	1	-	1	-	-	1	-
環境廳	75	-	75	31	-	59	31
國土廳	69	1	70	3	-	21	3
法務省	41	-	41	-	-	41	-
大藏省	489	-	489	-	-	551	-
文部省	173	6	179	109	6	175	109
厚生省	1,095	30	1,125	605	15	1,146	605
農林省	8,537	2,641	11,178	82	2,284	7,742	2,365
通商運輸省	2,909	555	3,465	4,413	67	5,686	4,480
郵政省	382	-	382	76	-	580	76
勞動省	3	-	3	-	-	70	-
建設省	1,154	142	1,296	622	11	1,330	633
自治省	312	14	326	184	-	1,401	184
合計	19,957	4,993	24,951	37,499 (8,617)	2,594	55,249 (22,254)	40,093 (11,211)

註) 1. 沖繩開發廳의 豫算額은 通商産業省 및 運輸省의 調查經費에 計上  
 2. 民間委託調查에 必要한 調查額은 計上않음.  
 3. ( )의 額은 國勢調查의 實施經費(事後調查包含)를 除外한 金額  
 4. 上記以外的 省廳等에는 該當事業計劃이 없음.

〈地方公共團體（都道府縣）委託事業〉

- 中央政府 統計事業中 地方公共團體에 委託하여 實施하는 統計調査 및 關聯事業을 말함.

- 1985年 總委託件數 80件, 委託費總額 40,093百萬元

┌ 統計課 委託 44件 39,016百萬元(統計事業 總豫算의 70.6%)  
└ 統計課外委託 36件 1,077 //

- 統計課 委託事業 主要內容(1985)

① 統計調査

- 總務廳：勞動力調査, 小賣物價統計調査, 個人企業經濟調査, 家計調査, 人口센서스 等
- 企劃廳：消費動向調査, 法人企業動向調査
- 文部省：學校基本調査, 學校保健統計調査
- 通產省：工業統計調査, 商業動態統計調査, 特定서비스産業實態調査, 生産動態統計調査, 商業統計調査, 商鑛工業石油 등 消費統計調査
- 勞動省：每月勤勞統計調査 等

② 統計關聯事業

- 總務廳：事業體 基本調査區 設定事業, 統計調査員 確保對策事業
- 通產省：商業實態基本調査 準備事業
- 勞動省：每月勤勞統計調査(甲) 對象抽出交替事業 等

- 統計課以外 都道府縣 委託事業 主要內容(1985)

① 指定統計調査

- 厚生省：人口動態調査, 厚生行政基礎調査
- 運輸省：港灣調査
- 建設省：建設着工統計調査, 建設工事統計調査 等

② 其他 承認, 申告 統計調査

#### 4. 統計調査의 區分과 實施現況

##### 가. 統計調査의 區分

① 指定統計調査(統計법에 規定하는 調査)

- 統計體系上 重要な 統計에 限하며, 「中央政府나 地方公共團體가 作成하는 統計 또는 다른 機關에 委託하여 作成하는 統計로서 總務廳長官이 指定하여 公示한 統計」를 말함.
- 1985.3月末 現在 136 種임.
- 調査對象者에는 申告義務가 있으며, 調査實施機關은 調査票를 當該 統計目的 以外에 使用할 수 없으며, 또한 調査結果를 公表하지 않는 경우에는 總務廳長官의 承認 必要
- 指定統計를 實施하기 위해서는 統計實施者는 미리 調査目的, 事項, 範圍, 期日, 方法, 集計事項, 集計方法, 結果의 公表方法 및 期日, 關係書類의 保存期間과 保存責任者등 必要事項에 對하여 總務廳長官의 承認을 얻어야 함.
- 承認을 받은 후 指定統計調査의 中止, 變更時에도 總務廳長官의 承認을 必要로함.

② 申告(届出)統計調査(統計법에 規定하는 指定統計 以外の 統計調査)

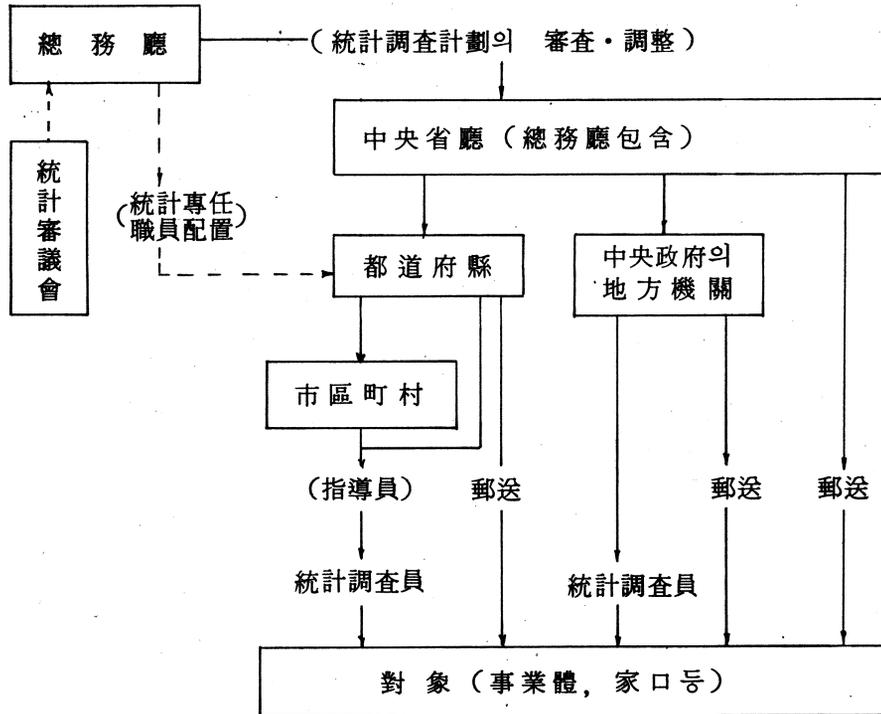
- 中央政府, 地方公共團體가 實施하는 指定統計, 承認統計 以外的 統計調查
  - 中央政府, 地方公共團體, 指定都市, 日本專賣公社, 日本國有鐵道, 日本電信電話公社, 日本銀行, 日本商議가 集計製表를 目的으로 申告, 報告, 資料의 提出을 要求하는 統計調查
  - 指定都市 以外的 市가 實施하는 土地, 家口, 住宅, 物價, 生計費, 公衆衛生, 雇傭, 失業, 賃金, 商品販賣額, 商品購入額, 企業生産高, 原料, 動力, 燃料消費量 및 在庫量에 관한 統計調查
- ③ 承認統計調查(統計調整報告法에 規定하는 統計報告)
- 中央政府가 10人 以上の 사람, 法人, 團體로부터 直接 또는 地方公共團體를 通하여 報告樣式을 提示하여 提出을 要求하는 報告로서 總務廳長官이 承認한 統計調查
  - 統計法에 依한 指定統計制度가 基本統計를 積極적으로 整備하기 위한 것이라면, 調整報告制度는 統計에 關하여 報告者의 負擔輕減이 主된 目的임.
  - 總務廳長官은 承認決定時 經濟團體 聯合會等에 報告者側을 代表하여 意見을 要求하는 경우가 있음.

나. 年度別 實施現況

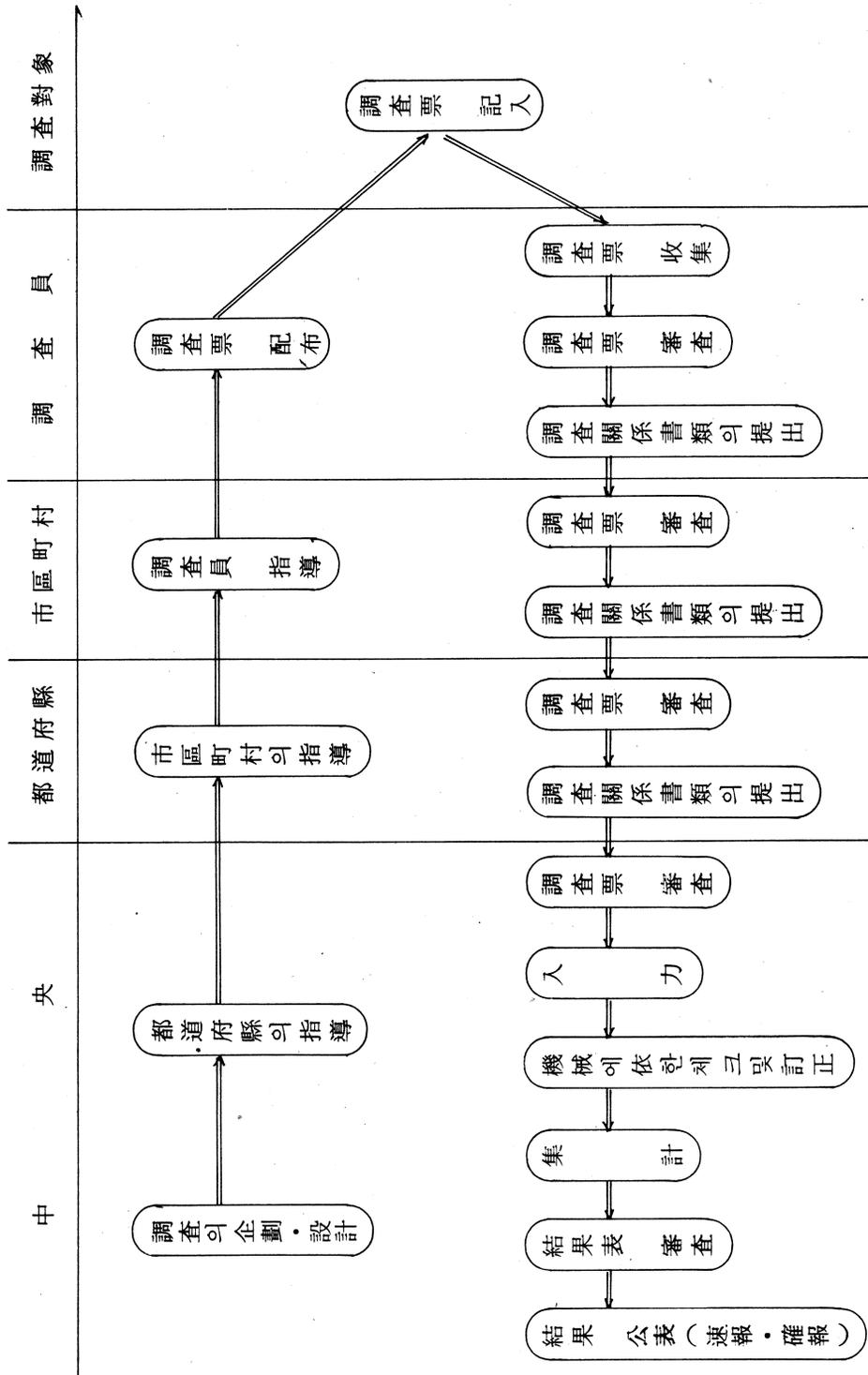
	1981	1982	1983
指定統計調查	54	53	53
┌ 總務廳	6	7	6
├ 農林水産省	7	7	8
├ 通産省	15	15	14
├ 運輸省	8	8	7
└ 厚生省	6	6	6
申告統計調查	543	554	560
承認統計調查	267	261	258

## 5. 中央政府的 統計調查 體系

### ○ 調查體系



○ 統計調査業務의 흐름



## 6. 地方公共團體의 統計調查現況(東京都 統計部の 例)

### ○ 統計部 業務

- ① 統計調査의 實施：中央政府委託 및 都 單獨調査實施
- ② 統計의 分析加工：社會指標，人口推計，所得推計，成長率豫測，生産指數 등
- ③ 統計資料의 刊行 및 資料提供
- ④ 統計調査의 企劃調整
- ⑤ 統計解析의 助言指導
- ⑥ 統計情報管理：物價，情報管理，data tape 의 保管管理 등
- ⑦ 統計思想의 普及
- ⑧ 統計調査員 確保對策事業
- ⑨ 其他 地方政府 機關과의 關係業務

### ○ 86年 實施 統計調査

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 統計調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>國委託</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 總務廳 8種</li> <li>• 文部省 2 "</li> <li>• 勞動省 1 "</li> <li>• 經濟企劃廳 3 "</li> <li>• 通產省 10 "</li> </ul>	計 40種
	東京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 "</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 分析加工統計 7 "</li> <li>• 其他 統計業務 6 "</li> </ul>			

〈主要地域の 統計組織〉

	東京都	大阪府	奈良縣	岐阜縣
名稱	統計部	企劃部 統計課	企劃部 調査課	企劃部 統計課
組織	5課 <sup>1)</sup> 29係	10係 <sup>2)</sup>	6係	7係
専任職員數	202名	125名	40名	59名

1) 管理課, 統計調整課, 人口統計課, 商工統計課, 經濟統計課

2) 管理係, 企劃係, 人口係, 資料係, 勞動係, 經濟1係, 經濟2係, 商業係, 工業係, 農林學事係

〈 1986年實施 統計調查一覽 (東京都) 〉

區分	主管機關	統計名	擔當課	調查體系		都集計
				都直轄	區市經由	
統計調查 (27)	總務廳 (8)	勞動力 調查 社會生活 基本調查 家計調查 貯蓄動向調查 小賣物價 統計調查 個人企業 經濟調查 社會人口 統計體系 整備 事業所 統計調查	人	○	○	
			人	○	○	
			經	○	○	
			經	○	○	
			經	○	○	
			經	○	○	
			調	○	○	
			整	○	○	
			濟	○	○	
			經	○	○	
文部省 (2)	學校基本調查 學校保健 統計調查	人	○	○(일부)	○	
		人	○	○	○	
勞働省 (1)	每月 勞働統計調查	人	○		○	
		經	○			
經濟企劃廳 (3)	法人企業 動向調查 消費動向調查 民間非營利 團體 實態調查	經	○			
		經	○			
		經	○			
		經	○			
通商產業省 (10)	商業統計調查 商業動態 統計調查 特定서비스 產業實態調查 商業實態 基本調查 工業統計調查 工業動態 統計調查 ┌ 生產動態 統計調查 ├ 機械器具 流通統計調查 ├ 纖維流通 統計調查 └ 工業實態 基本調查 石油等 消費統計調查	商	○	○(일부)	○	
		商	○			
		商	○			
		商	○			
		商	○			
		商	○			
		商	○			
		商	○			
		商	○			
		商	○			
商	○					
東京都 (3)	東京都 生計分析調查 住民 基本臺帳 人口調查 東京都 居住環境等 移動理由別 人口調查	經	○		○	
		人	○		○	
		人	○		○	
加工統計 (7)	東京都 (7) 東京都 豫測人口作成 都民所得 推計分析 都民 經濟成長率 豫測 東京都 社會指標 作成 東京都 鑛工業 指標 物價情報 管理事務 事業所 데이터 화일	調	○		○	
		整	○		○	
		調	○		○	
		整	○		○	
		調	○		○	
		商	○		○	
		經	○		○	
濟	○		○			
其他事務 (6)	總務廳 (2) 統計調查員 確保對策 事業 統計環境 整備事業 東京都 (3) 統計調整事業 統計情報管理 統計資料編輯 農林水產用 (1) 1985年 農業센서스	管	○		○	
		理	○			
		調	○			
		整	○			
		調	○			

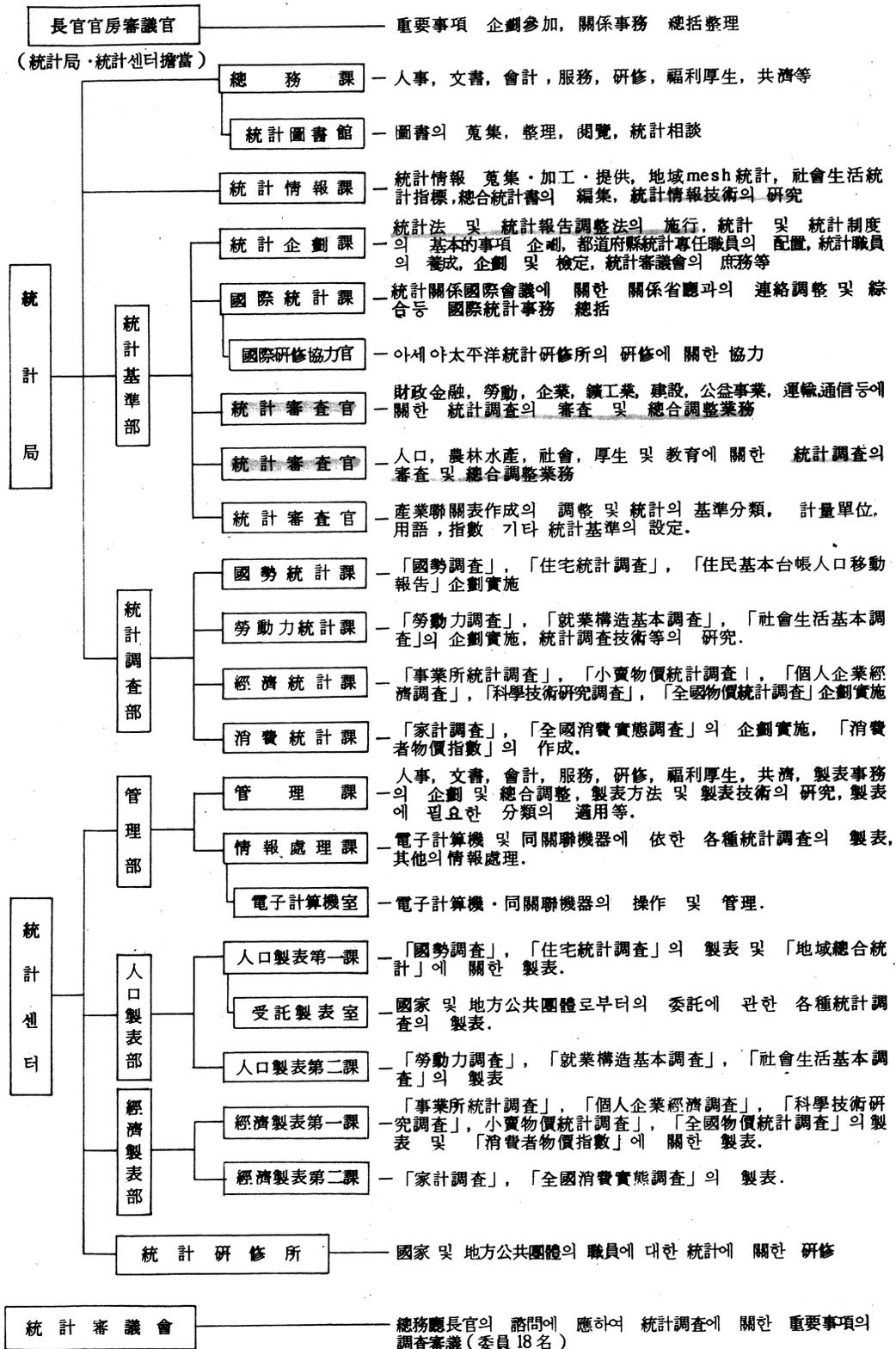
## II. 總務廳 統計局・統計센터 組織 및 機能

## Ⅱ. 總務廳 統計局·統計센터의 組織 및 機能

### 1. 統計局·統計센터 沿革

- 1871年(明治4年)12月:太政官 政表課 設置
- 1881年(明治14年)5月:統計院 設置
- 1885年(明治18年)12月:內閣統計局으로 變更
- 1947年5月:總理府 統計局으로 變更
- 1946年7月:統計制度의 改善에 關한 委員會 設置
- 1947年7月:地方統計 機構整備 要綱에 따라 都道府縣·市町村 統計 組織 整備補強
- 1921年 : 統計職員 養成所 設置(國勢院 所屬)
- 1949年6月:統計職員 養成所 所屬變更(統計局 所屬)
- 1971年4月:統計 研修所로 名稱變更
- 1946年12月:統計委員會에서 統計綜合調整
- 1952年8月:行政管理廳 統計 基準部로 變更
- 1957年8月: // 統計 基準局으로 變更
- 1968年6月: // 統計 主幹으로 變更
- **1984年7月:**•總理府 本부와 行政管理廳 組織과의 機能 統合 再編 成으로 總理廳 統計局과 行政管理廳 行政管理局 統計 基準부가 統合, 現在의 統計局·統計센터로 變更
- 統計局은 國勢의 基本에 關한 統計調査의 企劃·實施 以外에 國家全體의 統計企劃·綜合調整業務를 擔當하는 機關이 됨.

## 2. 統計局・統計센터 組織表



### 3. 統計局·統計센터의 機能

- 統計行政의 中長期 發展計劃 樹立 및 推進
- ◎ 國家統計의 基準設定과 綜合 調整
- 統計調查環境의 整備
- 統計에 關한 國際協力
- 國勢의 基本에 關한 統計調查의 企劃 및 實施
- 各種 統計情報의 蒐集, 加工, 提供
- 統計技術의 研究
- 統計 圖書館 業務
- 統計調查의 製表業務
- 統計研修의 實施

#### 가. 統計行政의 中長期 構想의 樹立과 推進

- 統計審議會에서 總務廳 統計局의 發足を 契機로 앞으로의 統計行政 推進을 爲한 指針으로서 「今後的 統計行政의 方向에 對하여」를 行政管理廳長官에 建議(1984.4月)

#### <主要內容>

- 統計行政의 中長期 構想의 樹立과 推進
- 統計調查의 計劃 段階에서의 運營의 充實
- 統計調查 實施 段階에서의 運營의 充實
- 統計利用의 促進으로 利用價値의 提高
- 統計調查의 改善·補完

- 統計行政의 基盤整備
- 同建議內容中 「統計行政 推進을 爲한 中長期 構想」에 對하여 具體的인 推進計劃을 統計審議會內 working group, 硏究會 등을 通하여 檢討하고, 그 結果를 總務廳長官에 提出 (1985.10月)

〈主要內容〉

- 서어비스業 統計整備
- stock 統計整備
- 環境統計의 整備
- 法規制의 對象이 되는 統計의 範圍의 再檢討
- 主要統計調査의 實施 時期 豫定
- 調査結果의 公表·提供 方法
- 統計調査의 正確性 確保와 效率化를 爲한 技術開發·應用
- 統計調査結果 data의 多角的 利用
- 統計專門職員의 育成才 配置
- privacy의 保護對策
- 앞으로, 統計審議會의 諮問會 등을 通하여, 總務廳의 中長期 構想을 確定, 策定하여 推進할 것임.

4. 統計의 基準設定과 綜合調整

(1) 統計調査의 審査, 承認, 調整

- 總務廳(統計局 統計基準部)은 總務廳設置法, 總務廳組織法, 統計法 (1947年 制定), 統計報告 調整法(1952年 制定) 및 其他 法令의 規定에 의하여 國家統計의 綜合企劃, 調整業務 遂行

- 지정統計의 指定, 變更承認
- 申告統計調査의 受理 및 承認, 變更, 中止
- 統計報告 徵集에 對한 承認

(2) 各種 統計基準의 設定

- ① 標準分類作成 :
  - 日本 標準産業分類
  - 日本 標準職業分類
  - 日本 標準商品分類
  - 日本 標準建築物 用途 分類
  - 疾病, 傷害 및 死因統計分類
  - 地方公共團體 地域 code

② 各種 經濟指數의 基準時 統一 및 加工統計에 關한 調整業務

③ 統計用語의 統一

(3) 統計豫算등의 調整

- 統計의 整備合理化와 豫算의 效率的인 利用의 見地에서 各省廳의 統計調査 計劃案에 對하여 大藏省에 審査 意見을 提出
- 各省廳이 概算要求하는 統計調査員 手當 單價등에 對한 調整

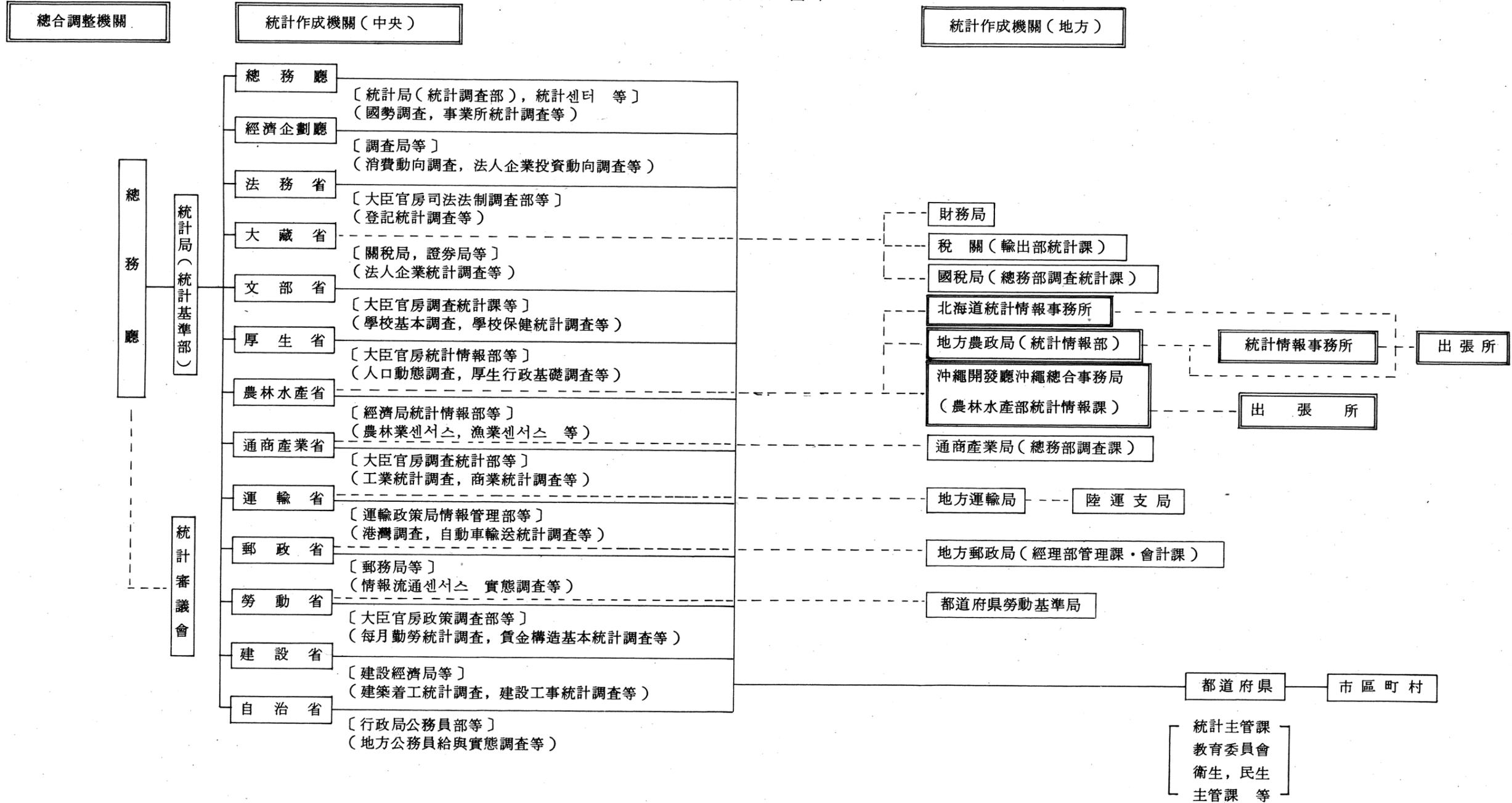
(4) 産業聯關表 作成의 推進 調整

- 11 個 省廳의 共同作業을 調整하며 結果 公表
- 都道府縣의 「地域 I-0 表」 作成을 指導

(5) 地方統計 機構의 整備 및 指導

- 都道府縣 統計專任職員의 人件費 交付 및 研修
- 人口 10 萬名以上 市에 對한 統計調査員 確保對策事業 實施
- 統計調査對象 事業體에 對한 協力 促進 業務

〈統計行政機構圖〉



## 다. 統計調査 環境의 整備

### (1) 統計知識의 普及 및 公報活動

- 「統計의 날」(10月 18日)을 前後하여 諸行事를 實施
  - 統計의 重要性에 對하여 國民의 關心과 理解를 圖謀하기 爲하여 1973年 7月 3日 閣議 決定

※ 「統計의 날」은 日本의 近代의 生産統計인 「府縣 物産表」에 關하여 太政官布告가 公布된 날인 明治 3年(1870年) 9月 24日(太陰曆)을 太陽曆으로 換算한 10月 18日로 定함.

- 行事內容
  - 統計功勞者에 對한 各省廳長官 表彰
  - 講演會
  - 統計 그래프(포스타)全國 콩쿨 開催
  - 全國 統計大會 後援
  - 심포지움의 開催
  - 總理府 廣報室의 協力에 의한 廣報등

### ○ 統計環境 整備事業

- 調査對象 事業體 등에 對한 協助 促進業務
- 統計相談業務

## 라. 統計에 關한 國際協力

### (1) 國際 統計事務의 總括

- UN, ESCAP, OECD, ISI 등 國際機關 會議參加, 日本政府 意見提出, 國際統計의 改善·開發을 위한 協力等
- 國際機關에 專門家 派遣, 交流 및 中國, 韓國, 美國과의 統計視察團 交換

### (2) SIAP에 對한 協力

### (3) 統計에 關한 技術協力の 推進

## 마. 國勢의 基本에 關한 統計調査의 企劃 實施

### (1) 統計調査( 14 種 )

- 人口·就業: 國勢調査, 住民基本臺帳 人口移動 報告  
勞動力調査, 就業構造基本調査
- 企業活動: 事業體統計調査, 個人企業經濟調査, 科學技術研究調査
- 家計·物價: 家計調査, 全國消費實態調査, 貯蓄動向調査,  
小賣物價統計調査, 全國物價統計調査
- 住宅·社會生活: 住宅統計調査, 社會生活基本調査

### (2) 加工統計

- 消費者 物價指數
- 人口推計
- 地域 Mesh 統計
- 社會生活 統計指標

바. 各種 統計情報의 蒐集, 加工, 提供

- 調査結果의 Data Base 化, 磁氣 tape 의 提供
- 各種 刊行物 發刊 등

사. 統計技術의 研究

- 標本理論 등 統計理論의 研究
- 統計 data 의 編成, 加工技法의 開發
- 調査方法, 調査技術에 관한 研究
- 統計情報 提供 system 의 研究

아. 統計 圖書館 業務

- 約 37 萬卷 統計 및 統計學 關聯 文獻과 資料備置

자. 統計調査의 製表 (統計센터)

- 製表事務: 都道府縣 등에서 送付된 調査票를 接受하여 記入內容의 檢査, 主要事項의 符號化 및 電子計算機 등에 의한 集計 事務임.

- 大型컴퓨터 2 system (IBM 3083, ACOS 950)  
光學式 마-크 Reading 裝置  
漢字 프린터  
其他 周邊裝置 등이 設置됨.

○ 業務內容

- 國勢의 基本에 關한 統計調査 (統計局實施) 의 製表 業務
- 受託製表業務
- 製表技術의 研究

- 製表技術에 關한 國際協力

차. 統計 研修의 實施(統計센터)

- 統計研修所에서 中央政府, 地方公共團體 等の 職員에 對하여 統計의 作成과 利用, 統計技法의 應用 등에 關한 研修를 定期的으로 實施( 85.3 까지 修了生은 約 7,400名)
- 研修過程

過 程		內 容	期 間	定 員	回 數
本 科 課 程		統計作成, 利用 등 綜合基礎課程	6 個月	50 名	年 2 回
專 科	調查·分析	統計調查企劃, 實施, 分析	5 週	40 名	年 1 回
	分 析	統計分析, 利用	6 週	40 名	年 1 回
	中堅管理者課程	統計實務 全般	5 週	40 人	年 1 回
	上級課程	新開發 分野	5 週	20 人	年 1 回
特 別 講 座		特定테마, 短期研修	4~5日	80 人	年 3 回

※ 統計研修所의 具體的 內容은 「4. 統計研修所의 概要」參照

#### 4. 統計研修所(總務廳 統計센터)의 概要<sup>1)</sup>

##### 가. 統計研修所の 目的

國家(政府關係機關을 包含) 및 地方公共團體의 職員에 대하여 統計에 관한 研修를 實施하는 것을 目的으로 함.

##### 나. 統計研修所の 沿革과 現在の 性格

統計研修所の 研修活動은 1921년에 國勢院 第一部(後의 內閣統計局)에 設置되었던 統計職員養成所에서 實施했던 것이 最初이며 1949년에 總理府의 附屬機關이 되고 1971년에는 統計研修所로서 새로운 研修目的下에 再出發하여 오늘에 이르렀음.

특히 1984년에는 總務廳의 設置에 따라 舊總理府統計局의 一部와 統合하여 새로이 設立된 同廳 統計센터에 두게 되었음.

統計研修所の 前身, 統計職員養成所는 創設以來 1943年~1946年 사이의 一時的 中斷을 除外하고는 戰前, 戰後에 걸쳐 統計研修活動을 계속함과 同時に 組織制度를 漸次 整備하여 왔는데 統計業務에 從事하는 國家行政機關 및 地方公共團體의 職員에 대하여 統計業務에 必要한 理論과 그 利用을 教育하고 將來幹部職員이 될 수 있는 人材를 養成하는 것을 目的으로 하며 研修對象은 統計職員으로 制限되어 있었음.

또한 여기서 말하는 統計業務도 統計調査의 實施等 오늘날에 比하면 좁은 範圍를 指摘하였음.

그러나 其後 行政의 高度化, 複雜化, 情報化社會의 進展, 統計理論 및 技術의 發達は 統計의 作성과 利用의 一貫化, 統計가 모든 行政活動에 浸透되어 왔으며 統計는 特殊한 專門家가 取扱하는 것이 아니고 모든 問題

1) 日本統計局·統計센터提供 資料를 번역, 掲載함.

解決을 위한 不可缺의 手段으로 되었고, 統計職員의 業務도 統計의 一次 生産뿐만 아니라 各各 그 機關의 業務에 必要한 統計情報의 蒐集·管理· 提供이나 行政意思 決定등을 위한 加工處理가 重視되어 넓은 視野를 가져야 하는 것이 要請되게 됨과 동시에 統計主管組織 以外的 各分野 行政部 門에서도 統計에 대한 깊은 理解가 要求되고 또 相互의 計劃的 人事交流도 旺盛하게 이루어져 왔음.

이와같은 背景下에서 새로운 時代的 要請에 부응하기 위하여 1971년에 總理府設置法이 改正되어 統計職員養成所가 統計研修所가 되고 統計職員을 包含해서 一般職員도 研修對象으로 擴大되게 된것임.

즉 統計研修所의 現在의 性格은 統計데이터 및 各種의 統計技法을 通하여 近代的, 科學的인 行政을 推進할 수 있는 人材를 養成하는 것을 目的으로 하고 그 研修는 어떠한 行政分野에도 共通되는 基礎的인 職員研修로서 公務員研修體系 全體가운데에서 重要的 役割을 占하고 있음.

#### 다. 研修의 內容

現在의 研修內容은 統計데이터를 作成·管理·提供하는 立場과 이것을 行政을 위하여 利用하는 立場에 共通되는 基本的인 理論 및 實務에 關한 科目을 有機的으로 編成하고 있는데 主된 內容을 紹介하면 다음과 같음.

##### (1) 統計調査

統計調査의 企劃 및 實施等 報告에 依하여 統計를 作成하기 위한 技法을 內容으로 하고 있는데, 直接 本格的인 統計調査業務에 從事하거나, 業務資料에서 必要한 데이터를 얻기 위한 경우 등은 勿論 統計利用面에 있어서도 그 데이터가 어떻게 作成되었는가를 알아야 精度의 評價, 其他 利用上의 注意를 할 수 있음.

## (2) 各分野의 統計데이터

統計를 利用하거나 調査를 企劃하기 위해서는 數 많은 既存 統計 데이터의 所在와 이들 相互間의 體系的 關聯이나 各各의 利用方法을 알아야 할 必要가 있음.

人口統計, 經濟統計 등 各分野의 統計外에도, 刊行物이나 磁氣테이프 등 各種 媒體에 의한 統計情報의 流通, 各 分野別로 實態를 나타내며, 原데이터에 access 하는 橋梁役割을 하는 統計報告書의 役割, 統計 데이터베이스利用, 經濟 및 社會分析, 豫測과 計劃을 위한 모델에 使用되는 國民經濟計算, 社會·人口統計體系, 地域mesh 統計等 綜合加工統計의 構造에 대한 理解를 內容으로 하고 있음.

## (3) 基礎統計數理 및 解析

平均, 分散, 回歸, 相關, 確率과 誤差法則, 推定이나 檢定等 統計分析이나 標本設計의 基礎가 되는 數理 - 回歸나 相關의 概念에 따라 多元的 要因의 모든 짜임새 가운데에서 因果關係를 解明한다던가 데이터의 背後에 있는 共通點을 發見한다던가 高度화된 現代社會事象의 複雜한 關聯속에서 正確한 判斷이나 豫測을 얻기 위한 多變量解析法 - 費目(投人)最少, 效果最大를 尺度로 하여 政策資源의 最適配分이나 最適事業規模를 求하는 等, 組織體의 科學的 意思決定을 뒤받침하는 Operation research의 技法 - 等を 內容으로 하고 있음.

情報量等 情報理論의 基礎나 國民經濟計算에 의한 經濟計劃, 產業關聯分析, 地域分析等 各種統計利用모델 등도 여기에 包含되어 있음.

## (4) 情報處理

集計나 分析等 統計에서는 일찌기 컴퓨터를 利用하여 왔으나 컴퓨터利用

技術의 發達이나 모든 業務分野에의 普及, 情報나 組織의 管理에서 統計의 技法의 適用에 따라 새로운 視野로서 컴퓨터利用을 생각해야 할 必要가 나오게 되었는데, 情報處理關聯科目에서는 現在의 技術水準을 前提로 하고 그 機能을 活用하여 統計情報를 效率的으로 管理함과 동시에 組織의 管理 運營을 支援하는 토달시스템이나 各種의 시스템構築과 運用에 必要한 知識을 教育內容으로 함.

#### (5) 統計總論

行政活動에 있어서의 統計位置의 確立, 統計調査의 根據法인 統計法 其他, 統計나 情報關聯의 行政組織·行政作用과 그 實相, 統計思想이나 統計事業의 歷史的 背景 등이 包含되고, 있음.

以上 研修內容 個個의 科目構成은 行政 needs 의 發展이나 理論, 技術의 進步에 따라 끊임없이 改善補完하고 있으며.

또한 研修는 講義와 實習으로 基礎를 充分히 익히고 修了後 從事하게 될 各分野의 業務, 將來 技術開發에 對應할 수 있는 應用力을 具備케 하는 것을 方針으로 하고 있음.

### 라. 研修코스

#### (1) 本科課程

前記 「다. 研修의 內容」의 全分野에 걸쳐 統計의 理論의 實務를 綜合的으로 研修하는 當研修所의 가장 基本的인 코스로서 研修期間은 約 6個月, 每年度 4月~9月, 10月~3月, 2回 實施하고 있음.

#### (2) 專科課程

前記 「다. 研修의 內容」가운데 特定分野에 대한 研修를 實施하는 것으로서 現在, 다음 5個코스가 設置돼 있으며 研修期間은 各코스 어느 것이든 3 내지 6週間임.

① 短期綜合課程

統計行政에 關係할 경우에 必要한 調査의 企劃·設計, 데이터의 利用, 分析等 統計全般에 걸친 研修를 短期間 實施하는 코스임.

② 統計分析課程

政策立案等を 위하여 널리 統計를 使用하는 職員을 對象으로, 記述統計에 의한 分析, 모델構成에 의한 分析, 多變量解析 등의 計算方法理論과 實務를 研修하는 코스임.

③ 統計에 있어서의 마이크로·컴퓨터利用課程

(略稱: 統計마이컴課程)

統計의 基礎적인 知識을 가지고 있는 職員을 對象으로 마이컴에 의한 集計 및 데이터 蒐集, 蓄積, 編輯, 提供 그리고 分析利用方法을 研修하는 코스임.

④ 專門課程

主로 統計主管課 職員을 對象으로 統計의 特定테마에 대하여 專門적으로 研修하는 코스로서 테마는 時宜適切하게 選定하고 있음. 1986年度는 「人口分析」을 테마로 하여 實施함.

⑤ 上級課程

本科課程 또는 專科課程을 修了한 者 또는 이와 同等한 程度의 知識, 學力을 가진 者를 對象으로 하고 새로히 開發된 分野나 行政上 特히 重要해진 課題를 테마로 하는 研修임.

이제까지는 人口나 經濟의 分析을 테마로 한 外에도, 最近에는 多變量解析法에 대하여 研修를 實施하고 있음.

특히 1985년부터는 地方公共團體의 要望에 부응하여 「地域分析」을 테마로 擇하여 實施하고 있음.

#### 마. 研修生

本科課程 및 專科課程코스의 研修生은,

- 年齡이 20歲以上일 것
- 心身이 健全하고 研修意欲이 있을 것
- 研修에 專念할 수 있을 것
- 高等學校에서 履修하는 教科·科目을 마스터했을 것

의 要件(各課程共通)을 具備한 職員으로서 各機關의 長이 推薦한 者 가운데에서 入所가 決定됨.

研修生の 數는 現在로서는 實習等の 環境이나 研修效果等を 考慮하여 各期 本科課程은 約 50名, 專科課程코스는 約 20名 내지 40名程度를 標準으로 하고 있음.

1986年 3月末까지의 當研修所 修了生數는 戰前 985名, 戰後 本科課程 4,234名, 專科課程 2,353名임.

#### 바. 特別講座

上記研修코스外에 公務員으로서 알아두어야 할 統計關係 知識에 대해서 그때마다 테마를 定하여 短期間的 特別講座를 實施하고 있음.

最近의 代表的인 例는 「人口統計의 利用과 分析」, 「雇傭·失業統計」, 「物價統計의 基礎」, 「消費統計와 分析」등임.

特別講座의 受講生은 80名以內를 基準으로 하고 있으며,

特別講座는 1976년부터 實施되어 1986年 3月까지의 受講生數는 2,648名에 이룸.

〈 統計研修所の 研修一覽 〉

研修課程名		內 容	期 間 (回數)	定員
本科	本 科 課 程	統計의 作成, 利用 및 統計技 法の 應用等에 對한 綜合的인 研修	6 個 月 (年 2 回)	50 人
專科	短期綜合課程	統計調査의 企劃·設計, 데이터 의 利用, 分析 등 統計 全般 에 對한 短期間의 研修	5 週 間 (年 1 回)	40 人
	統計分析課程	統計의 分析, 行政을 위한 各 種 統計데이터의 利用등에 重 點을 둔 研修	6 週 間 (年 1 回)	40 人
	統計에서의 마 이크로컴퓨터利 用課程(略稱: 統計마이컴課程)	마이컴에 의한 集計 및 데이 터蒐集, 蓄積, 편집, 提供 또는 分析利用方法을 研修	5 週 間 (年 2 回)	20 人
	專 門 課 程	統計의 特定테마에 對한 專 門的인 研修. 테마는 時 宜에 맞추어 選定(1986 年度는 人口分析 3 週間)	3~4 週間 (年 1 回)	20 人
	上 級 課 程	새로 開發된 分野 등 高度의 研修. (最近例: 多變量分析, 地域分析)	5 週 間 (年 1 回)	20 人
特 別 講 座		特定테마에 의한 短期研修 (最近例: 人口統計의 利用과 分析, 消費統計와 그 分析)	4~5 日 (年 3 回)	80 人

1. 總務廳組織令 (抄)

第3章 施設等 機關

(統計센터)

第41條 總務廳에 統計센터를 둔다.

2. 統計센터는 다음事務를 管장하는 機關으로 한다.

一~三 (省略)

四. 國家 및 地方公共團體의 職員에 對하여 統計에 關한 研修를 實施할 것.

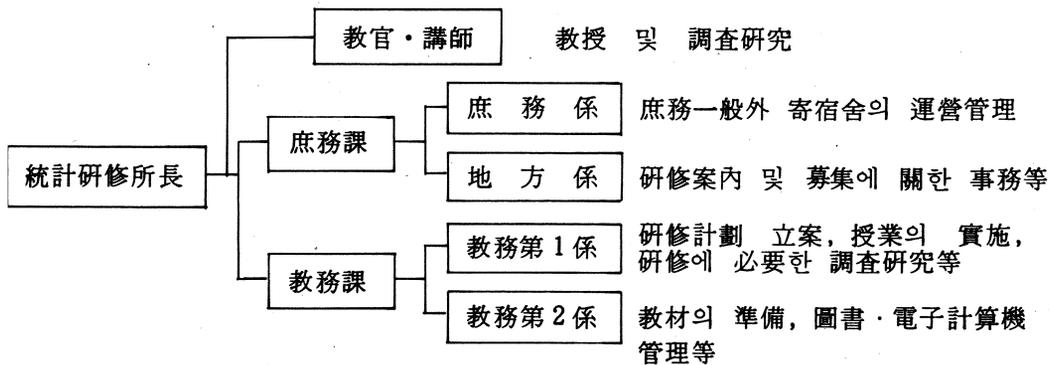
五. 前各號에 揭載한 事務에 關하여 必要한 資料蒐集을 行할 것.

3. 統計센터에 統計研修所를 두고 前項 第四號에 揭載한 事務 및 이에 關한 同項 第5號에 揭載한 事務를 行하게 한다.

4 및 5 (省略)

6. 前3項에서 定한 것 外에 統計센터 및 統計研修所의 位置 및 內部 組織은 總理府令으로 定한다.

2. 統計研修所의 組織



### 3. 統計研修所 研修規則

1976年 7月 19日  
總理府告示 第27號

(目的)

第1條 이 規則은 統計研修所(以下 「研修所」라고 함)가 實施하는 研修에 關해 必要한 事項을 定하는 것을 目的으로 한다.

(研修課程)

第2條 研修所의 研修課程은 本科 및 專科로 하고 그 研修內容은 다음과 같다.

1. 本科에서는 統計에 關한 學理研修外에 統計의 作成, 利用, 解析 其他 統計實務에 關한 綜合的인 研修를 行한다.
2. 專科에서는 統計研修所長(以下 「所長」이라고 함)의 定하는 바에 따라 前號에서 規定하는 研修가운데 特定한 分野에 關한 研修를 行한다.

(研修期間)

第3條 研修期間은 本科에 對해서는 六月, 專科에 對해서는 一月以上 三月以內로 한다.

(研修의 科目 및 時間數)

第4條 研修科目 및 時間數에 對해서는 所長이 定한다.

(研修生의 定員)

第5條 研修課程을 受講하는 者(以下 「研修生」이라고 함)의 定員은 一 研修期間에 對해 本科 70名, 專科 40名으로 한다. 단, 所長은 特히 必要하다고 認定할 때에는 이것을 增減할 수가 있다.

(研修生の資格)

第6條 研修生은 國家, 地方公共團體 또는 이에 準하는 機關의 職員으로서 다음 各號에 揭示된 要件을 갖춘者로 한다.

- (1) 年齡 20 歲以上일 것
- (2) 高等學校卒業 또는 이와 同等以上の 學力이 있다고 認定되는 者
- (3) 心身 共히 健全하고 研修意欲이 있을 것
- (4) 研修에 專念할 수 있을 것
- (5) 研修內容을 勘案하여 所長이 定하는 要件에 該當할 것

(研修生の決定)

第7條 研修生の 決定은 그 管轄廳의 長 等の 추천에 따라 所長이 行한다. 이 경우 必要하다고 認定될 때에는 試驗을 課할 수가 있다.

(研修效果의 測定)

第8條 所長은 適宜, 研修效果의 測定을 行하는 것으로 한다.

(修了證書의 授與)

第9條 所長은 研修生이 所定の 課程을 修了했을 때에는 그 者에게 修了證書를 授與하는 것으로 한다.

(研修結果의 通知)

第10條 所長은 研修生の 研修結果를 그 推薦者에게 通知하는 것으로 한다.

(表彰)

第11條 所長은 研修成績이 特히 優秀한 研修生을 表彰할 수가 있다.

(退所)

第12條 所長은 研修生이 다음 各號의 一에 해당할 때에는 退所를 命하

고 또는 退所를 承認할 수가 있다.

- (1) 出席狀況이 不良할 때
- (2) 規律을 亂亂케 할 때
- (3) 疾病으로 因하여 研修를 감당할 수 없을 때
- (4) 其他 特別한 事情이 있을 경우

2. 所長은 研修生이 退所했을 때에는 그 취지를 當該研修生의 추천자에게 通知한다.

(資格의 取得)

第 13 條 研修課程을 修了한 者는 統計法(1947年 法律第 18 號) 第 10 條에서 規定하는 統計官 또는 統計主事로 될 수 있는 資格을 가진다.

(聽講)

第 14 條 所長은 特別히 必要하다고 認定될 때에는 研修生以外的 者에 對해 研修課程의 聽講을 許可할 수가 있다.

(特別講座)

第 15 條 所長은 研修課程外에 必要에 따라 統計에 關한 特別講座를 設置할 수가 있다.

(其他)

第 16 條 이 規則에서 定하는 것 外에 研修實施에 關해 必要한 事項은 所長이 定한다.

(附則)

1. 이 規則은 1976年 7月 19日부터 施行한다.
2. 統計研修所規則(1971年 12月 28日 總理府告示 第 49號)은 廢止한다.

#### 4. 修了生の 特典 (特別昇級)

一般職國家公務員 (給與法の 準用을 받는 特別職의 경우도 包含) 으로서 本科課程의 研修成績이 良好한 者 (上位 20%) 는 人事院規則 9-8 (初任 給, 昇格, 昇級等 基準) 의 規定에 따른 研修, 表彰等에 의한 特別昇級을 시킬 수가 있다.

### Ⅲ. 日本의 1985年 人口센서스 事後調査 및 資料處理

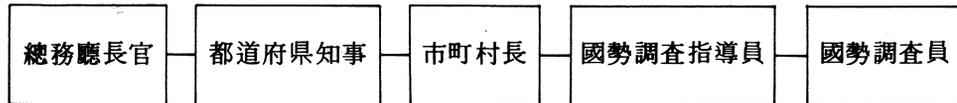
### Ⅲ. 日本의 1985年 人口센서스 事後調査 및 資料處理

#### 1. 1985年 人口센서스 (國勢調査) 概要

- 主管機關：總務廳 統計局 統計調査部 國勢統計課  
(企劃係, 指導係, 調査區係, 地圖係, 審査發表係, 研究係, 住民登錄人口移動係, 住宅係)
- 調査沿革：1920年以後 每5年마다 實施, 1985年 센서스는 第14回 調査이며, 統計局 設立(1885年) 100周年제의 調査임.
- 調査時點：1985.10.1 0時現在
- 調査對象의 決定：
  - 常住地 概念(3個月)
  - 常住地主義로 바뀐 것은 1950年 調査부터
- 調査事項
  - 家口員에 관한 事項
    - 11個項目
    - 이름, 性別, 生年月日, 家口主와의 關係, 配偶關係, 國籍, 就業狀態 産業, 職業, 從事上地位, 從業地·通學地
  - 家口에 관한 事項
    - 6個項目
    - 家口의 種類, 家口員數, 住居의 種類, 居住室數, 居住室크기, 住宅의 形態
- 調査方法
  - OMR 調査票에 依한 自計式

- OMR 方法이 처음 導入된 것은 1965年調査
- 兩面 Mark Sheet (兩面 OMR 調査票)가 처음 採擇된 것은 1980年 調査

○ 調査體系



- 指導員과 調査員은 市町村長 選拔, 推薦, 都道府県知事の 內申을 얻어 總務廳 長官이 任命
- 1 調査區에 調査員 1名, 調査員 15名當 指導員 1名을 配置
  - 指導員 : 7.20 - 10.31
  - 調査員 : 8.20 - 10.19
 까지 任命

○ 調査區 設定

- 1984.10.1 現在로 設定 完了
- 調査區數는 約 78 萬個
- 1個 調査區는 約 50 家口
- 1 調査區의 面積은 平均 0.5 km<sup>2</sup>
- MESH 統計가 처음 作成된 것은 1970年부터

○ 實地調査

- 1985. 9.24 - 9.30 : 調査票 配布 (調査員)
- 1985.10. 1 - 10. 7 : 調査票 回收 (調査員)

○ 調査票의 種類

- 一般調査票
- 不在家口用調査票
- 外國人調査票 (英文)
- 盲人用調査票 (點字)

○ 弘報活動

- 센서스 弘報 指針을 作成 都道府縣에 示達
- 各種 媒體 動員하여 弘報  
( TV, Radio, 新聞, Video ( 調査員 教育用 ), 포스터, 팜프렛 ( 學校 )  
Taxi, 懸垂幕, 船舶, 政府弘報刊行物 등 )

○ 1985年度 센서스豫算額

32,996 百萬円

※ 調査區 設定은 1984.10.1 完了

○ 要計表에 依한 速報結果 ( 1985.12.24 公表 )

- 人口數 121,047 千名
- 家口數 38,113 千家口
- 家口當人員數 3.2人

## 2. 1985年 人口센서스 (國勢調査)의 評價 方法

### 가. 1985年 豫定 評價方法

#### (1) 調査誤差의 發生要因

國勢調査의 調査過程에서 發生하는 誤差에는 調査漏落이나 重複調査에 의한 總人口의 範圍에 關한 誤差(完全性) 및 記入漏落 또는 거짓應答에 의한 各調査事項에 關한 誤差(正確性)가 있다. 이러한 誤差는 調査對象인 國民의 意識이나 生活樣式에 適合하지 않은 調査方法을 採擇함으로써 發生하는 것이 많다고 判斷되고 있음.

最近 日本의 狀況은 다음과 같은 變化가 있음.

#### ① Privacy 意識의 高潮

- 자신의 個人的인 情報를 他人에게 알리는 것을 拒否하는 것뿐만 아니라, 자신의 個人情報는 스스로가 control 할 權利가 있다는 privacy 意識이 점차 浸透되고 있어 이 때문에 國勢調査 자체, 또는 一部 調査事項의 記入에 應答하지 않는 경우가 많아지고 있음.
- 1970年 census 부터 부각되기 시작하였으며 앞으로 더욱 問題가 될 것으로 判斷됨.

#### ② 不在 家口員 家口의 增加

夫婦共同 就業家口, 單獨家口 등 주간 家口員 不在家口가 增加하고 있어, 國勢調査員이 調査票의 配布, 回收를 위하여 家口를 訪問하여도 面接이 困難하여, 調査漏落, 重複調査의 可能性이 높고 있음.

③ 其他 一般的인 誤差

- 0歲 人口의 漏落 可能性
- 常住 概念(3個月)에서 오는 漏落 및 重複性 등

(2) 1985 census에서 導入한 諸對應策

① census 調査員의 選拔, 配置 및 指導의 研究 強化

- 地域에 따라 地域을 잘 아는 사람은 調査員으로 非採用,  
Video를 통한 教育 등

② 調査票를 봉하여 提出할 수 있도록 「國勢調査에 對하여 부탁」

을 全家口에 配布(「國勢調査についてのお願い」)

③ 指導員 活用の 強化

- 指導員 活用の 強化는 1980年 census 부터
- 調査員 15名當 1名
- 調査員指導, 調査票審査, 不應家口說得, 家口員不在家口調査 등

④ 調査票 回收期間의 延長

- 10月1日~5日 → 10月1日 → 7日

⑤ 家口와 家口員과의 連絡에 사용할 수 있도록 「連絡メモ」의

活用

⑥ 地方에서의 審査의 強化

- 調査區別, 市區町村別 人口 및 家口數의 前回結果 等과의 比較
- 早期地方 集計(産業大分類 coding을 地方에서 記入)
- 종래는 統計局에서 하였으나 1985 census에서는 願하는 경우  
에 地方에서 coding하도록 하였음. (8個縣에서 希望)

(3) 豫定 評價方法

① 完全性 check

- 事後調査：1985.12.15 字로 實施
- 推計人口, 住民基本臺帳人口와의 比較
- cohort 分析

② 正確性 check

- 事後調査
- 勞動力調査 結果와의 比較檢討

< 參考 >

表 1. census 人口와 推計人口와의 比較 (總人口)

	census 人口 (A)	推計人口 (B)	差 (B - A)	差 率 $\frac{B-A}{A} \times 100$
1985	121,047,196 <sup>1)</sup>	120,960,000 <sup>2)</sup>	-87,196	- 0.07
1980	117,060,396	117,034,317	26,079	0.02
1975	111,939,643	111,298,011	-641,632	- 0.57
1970	104,665,171	104,832,753	167,582	0.16
1960	93,418,501	93,865,917	447,416	0.48

1) 要計表 人口

2) 概算値

表 2. census 人口와 住民基本臺帳人口와의 比較 ( 1980 )

(1) 住民基本臺帳人口 (1980.3.31)	116,194,898
(2) 自然增加 (1980.4 ~ 10)	0.0037
(3) (1) × { 1 + (2) }	116,624,819
(4) 外國人 人口 (1980.10.1)	668,675
(5) (3) + (4)	117,293,494
(6) 國勢調査人口 (1980.10.1)	117,060,396
(7) (5) - (6)	233,098
(8) $\frac{(7)}{(6)} \times 100$	0.199

表 3. cohort 에 의한 分析 ( 1975 ~ 1980 )

年 齡	census 에 의한 生殘率		生命表에 의한 生殘率	
	男	女	男	女
5- 9 歲	1.00295	1. 00334	0.99521	0. 99643
10-14	1.00243	1. 00240	0.99853	0. 99906
15-19	0.99685	1. 00087	0.99796	0. 99901
20-24	0.98016	0. 99300	0.99554	0. 99835
25-29	0.99604	0. 99732	0.99519	0. 99773
30-34	0.99913	0. 99663	0.99497	0. 99712
35-39	0.99354	0. 99690	0.99344	0. 99611
40-44	0.98728	0. 99258	0.98981	0. 99440
45-49	0.97772	0. 98981	0.98337	0. 99145
50-54	0.97004	0. 98601	0.97459	0. 98689
55-59	0.95972	0. 98016	0.96304	0. 98014
60-64	0.93885	0. 96861	0.94300	0. 96927
65-69	0.90073	0. 94596	0.90680	0. 94895
70-74	0.83862	0. 90814	0.84385	0. 90871
75-79	0.73935	0. 83194	0.75114	0. 83858
80-84	0.60687	0. 70949	0.63176	0. 73316
85 +	0.39952	0. 46472	0.43565	0. 51196

○ 推計人口(總務廳 統計局)

- 센서스 年度間的 人口(eg. '81~'84)를 推計하는 것으로서, 센서스人口를 기초로 그후의 出生兒數, 死亡者數, 入國者數, 出國者數를 加減하여 每月 1日 現在 人口 및 每年 10月 1日 現在 年齡別 人口를 推計
- 都道府縣人口는 다시 都道府縣內的 轉出入者數를 加減하여 每年 10月 1日 現在 年齡別人口를 推計
- 次期 census 結果와 差가 생길 경우에는 兩者가 接續될 수 있도록 推計人口의 系列을 遡及 補正
- 出生兒數, 死亡者數: 人口動態 調査(厚生省)  
出入國者數 : 出入國管理 統計調査(法務省)  
都道府縣間 轉出入者數: 住民 基本臺帳 人口移動 報告(總務廳)

○ 住民基本臺帳 人口移動 報告(總務廳 統計局)

- 住民票에 轉入者로 記載된 者에 對하여 市町村의 보고를, 都道府縣을 通하여 統計局에 報告
- 日本國籍을 갖지 않은 者는 除外
- 轉出者數는 報告가 된 轉入者의 從前의 住所地(都道府縣, 東京都 區部, 10大都市別에 對하여 統計局이 算出)

○ 將來 推計人口(厚生省 人口問題研究所)

- 센서스 1% 抽出集計에 依한 男女·年齡別 人口를 基礎로 各年度 10月 1日 現在의 長期人口를 推計
- 最近 推計結果는 1981.11月에 1980年 센서스 1% 抽出集計結果(1981.3月公表)에 依하여 1980~2080年까지의 長期人口를 推計 發表한 것임.

## 나. 1985年 人口센서스 事後調査 方法

### (1) 調査目的

人口 센서스의 調査對象의 把握狀況 및 一部 調査事項의 調査結果의 精度를 실제로 檢證하여 앞으로의 人口 센서스 企劃上, 人口센서스 結果 利用上의 參考資料로 活用하기 위하여 實施함.

### (2) 調査時期

1985年 12月 15日 0時現在

### (3) 調査對象

1980年 센서스 ED에서, 一般調査區(後置番號 1) 및 50人以上の 1人 居住 寄宿舍 *domitory* 등이 있는 區域(後置番號 8의 特別 調査區) 中에서 無作爲 抽出된 約 1,900個 ED에 常住하는 全員을 對象 (市部 1/350, 郡部 1/700)

### (4) 調査事項

- ① 이름,      ② 성별,      ③ 家口主와의 관계      ④ 出生年月
- ⑤ 1985.10.1 現在 居住地
- ⑥ 1985.10.1 現在 居住地 以外の 住居의 有無
- ⑦ 1985.10.1 前後의 不在 狀況
- ⑧ 센서스에 調査되었는지 與否
- ⑨ 센서스에 調査된 場所
- ⑩ 當該 家口의 住居以外에 常住하는 家族의 狀況
- ⑪ 當該家口에서 센서스에 調査되었으나 調査時期에 없는 사람 狀況

⑫ 調査漏落, 重複調査等の 理由 및 센서스時 住居以外에서 調査를 받은 理由

⑬ 家口의 種類

(5) 調査의 體系



(6) 調査方法

- 調査事項 ①~⑪: 家口에서 記入
- 調査事項 ⑫~⑬: 調査員이 質問하여 記入

(7) 其他

- 事後調査는 統計報告調整法에 의거 統計報告로서 實施
- 事後調査 對象家口 一部(1/10) 家口에 對하여 「1985 人口 센서스에 關한 양케이트」實施
- 事後調査票와 本調査票와의 Match 職業은 手作業에 依함.

(8) 調査票, 家口名簿, 調査要領書

省 略

(9) 事後調査 結果表

第1表 事後調査의 調査狀況別 家口數와 家口人員

第2表 家口員 調査 漏落・重複調査의 狀況, 家口의 種類 및 家口主의 年齡別 家口 및 家口人員

第3表 男女, 年齡・家口主와의 關係・센서스當時 居住地・2個所 以上の 居住의 有無・센서스時의 不在狀況, 調査漏落・重複調査의 狀況別 家口人員

第4表 男女, 年齡・家口主와의 關係・非同居理由, 調査漏落・重複調査의 狀況別 家口人員

第5表 센서스 調査與否, 調査場所, 調査漏落・重複調査 狀況別 家口人員

第6表 家口의 申告에 의한 調査漏落・重複調査狀況, 照會結果에 의한 調査漏落・重複調査 狀況別 家口人員

第7表 센서스 및 事後調査에 의한 男女, 出生의 年月別 家口人員

第8表 男女, 出生의 年月의 一致・不一致別 家口人員

( 結果表 樣式은 省略 )

(10) 各回 事後調査의 概要

	1950年센서스 抽出再調査	1955年센서스 抽出再調査	1960年센서스 事後調査												
調 査 日 字	1950.12.15	1955.11.15	1960.11.5												
調 査 對 象 地 域	1% 抽出集計에 使用된 調査區中 市部 1/20, 郡部 1/30 抽出, 단 市部는 여기에서 抽出된 調査區에 隣接하는 調査區를 對象地域으로 함. (計 233EDs)	一般調査區中 市部 1/300, 郡部 1/600 抽出 단, 市部는 여기서 抽出된 調査區에서 各市의 人口規模에 따라 1/2 ~ 1/5를 削減한 調査區를 對象(計 840EDs).	一般調査區中 市部 1/400, 郡部 1/600 抽出한 調査區 및 別途 指定한 施設을 對象  <table style="border: none; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="border: none;">{</td> <td style="border: none;">計</td> <td style="border: none;">959 EDs</td> <td style="border: none;">}</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">{</td> <td style="border: none;">抽 出</td> <td style="border: none;">902</td> <td style="border: none;">}</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">{</td> <td style="border: none;">指定施設數</td> <td style="border: none;">47</td> <td style="border: none;">}</td> </tr> </table>	{	計	959 EDs	}	{	抽 出	902	}	{	指定施設數	47	}
{	計	959 EDs	}												
{	抽 出	902	}												
{	指定施設數	47	}												
調 査 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調査區에 對하여               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 調査區內의 家口數</li> <li>2. 調査區內 各家口에 對하여                   <ul style="list-style-type: none"> <li>• 家口主 또는 代表者 이름</li> <li>• 家口人員</li> <li>• 10月1日0時 以後의 家口の 轉出, 轉入</li> <li>• 調査漏落 또는 重複調査有無</li> </ul> </li> <li>3. 調査區의 境界</li> <li>4. 調査區의 特色</li> </ol> </li> <li>○ 常住者에 對하여               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 이 름</li> <li>2. 10月1日0時 以後의 轉入, 出生, 死亡</li> <li>3. 調査漏落, 重複調査의 有無</li> </ol> </li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 이 름</li> <li>2. 家口主와의 關係</li> <li>3. 出生年月</li> <li>4. 人口센서스 調査場所</li> <li>5. 現在場所 以外의 場所에서 調査된 사람에 對하여는 그 理由</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調査漏落, 重複의 有無에 對하여               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 센서스漏落 家口 및 家口員 有無</li> <li>2. 重複調査 家口 및 家口員 有無</li> </ol> </li> <li>○ 調査事項의 調査誤差에 對하여               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 이 름</li> <li>2. 性 別</li> <li>3. 家口主와의 關係</li> <li>4. 出生年月日</li> <li>5. 國 籍</li> <li>6. 一年前 常住地</li> <li>7. 教 育</li> <li>8. 配偶關係</li> <li>9. 子女數</li> </ol> </li> </ul>												
調 査 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>〔調査區의 調査: 調査區 調査票</li> <li>〔常住者 調査: 家口調査票</li> <li>• 都道府縣 統計職員에서 選拔된 調査員이 實地 面接 調査</li> </ul>	抽出再調査 調査票에 의해 주로 市町村 職員에서 選拔된 調査員이 實地 面接 調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調査漏落, 重複의 有無에 對하여: 調査對象地域의 全家口, 家口員에 對하여 「調査票」, 「家口票」, 「施設票」를 使用, 센서스指導員에서 選拔된 調査員이 調査</li> <li>○ 調査事項의 調査誤差에 對하여: 抽出調査區內에서 1/5家口를 抽出, 「個人票」를 使用 調査員이 面接 調査</li> </ul>												

	1965年센서스 事後調査	1970年센서스 事後調査	1975年센서스 事後調査	1980年센서스 事後調査
調 査 日 字	1966. 2. 15	1971. 2. 1	1975. 12. 15	1980. 12. 15
調 査 對 象 地 域	一般調査區中, 市部 1/400, 郡部 1/600 抽出 調査區 및 別途指定 特別調査 區를 對象 <ul style="list-style-type: none"> <li>計 1,073EDs</li> <li>抽出 EDs 1,056</li> <li>指定 EDs 17</li> </ul>	一般調査區 및 特別調査區에서 市部 1/400, 郡部 1/600 抽出地域 <ul style="list-style-type: none"> <li>計 1,259 EDs</li> <li>一般調査區 1,233</li> <li>特別調査區 26</li> </ul>	一般調査區 및 特別調査區에서 市部 1/500, 郡部 1/750 抽出地域 <ul style="list-style-type: none"> <li>計 1,188 EDs</li> <li>一般調査區 1,167</li> <li>特別調査區 21</li> </ul>	一般調査區, 特別調査區에서 1/200 抽出 地域 <ul style="list-style-type: none"> <li>計 3,534 EDs</li> <li>一般調査區 3,486</li> <li>特別調査區 48</li> </ul>
調 査 事 項	1. 이 름 2. 家口主와의 關係 3. 出生年月 4. 센서스 調査場所 5. 센서스를 現在場所에서 調査된 사 람의 1965.10.1 現在 있었던 場所 6. 上記 5 以外の 사람은 그 理由	1. 이 름 2. 家口主와의 關係 3. 性 別 4. 出生年月 5. 職 業 6. 1970.10.1 現在の 居住狀況 7. 센서스調査與否 및 調査場所 8. 1969.10.1 ~ 1970.9.30 까지의 住居 移動狀況	1. 이 름 2. 家口主와의 關係 3. 性 別 4. 出生年月 5. 1975.10.1 現在の 場所 6. 센서스調査與否 및 調査場所 7. 調査漏落, 重複調査의 可能性 理由 및 1975.10.1 現在에 住居以外の 場所에서 調査된 理由	1. 이 름 2. 性 別 3. 家口主와의 關係 4. 出生年月 5. 1980.10.1 現在の 居住狀況 6. 配偶者有無 7. 職 業 8. 現住居에 入居 時期 9. 센서스調査與否 및 調査場所 10. 家口の 種類 11. 調査漏落, 重複調査 可能性 理由 및 1980.10.1 現在에 住居以外の 場所에 서 調査된 理由 12. 同居하지 않는 家族狀況 13. 센서스調査 家口員中 現在 없는 家 口員 狀況
調 査 方 法	事後調査 家口名簿, 事後調査 調査票에 의하여 센서스指導員에서 選拔된 調査 員이 面接 調査	事後調査 家口名簿, 事後調査 調査票에 의하여 센서스指導員, 調査員에서 選拔 된 調査員이 面接 調査	事後調査 家口名簿, 事後調査 調査票에 의하여 센서스指導員, 調査員에서 選拔 된 調査員이 家口에 調査票를 配付, 家口에서 記入(단, 7 項은 質問調査)	事後調査 家口名簿, 事業調査 調査票에 의하여 센서스指導員, 調査員에서 選拔된 調査員이 家口에 調査票 配付, 家口에서 記入(단, 10 은 調査員이, 11 은 質問調査)

### 3. 1985年 人口 센서스 資料處理 概要

#### 가. 調査票 集計體系

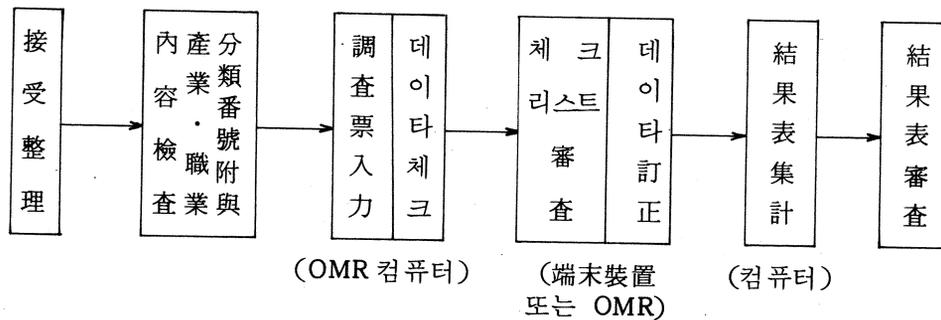
集計區分		集計의 性格		對象	公表期	表章地域
速報集計	要計表에 의한 人口集計	要計表에 의한 男女別 人口를 早期에 提供		全數	85年 12月	全國, 都道府縣, 市區町村
	抽出速報集計	基本集計 및 抽出詳細集計의 一部를 全國 및 都道府縣 段階까지 早期 提供		1%	86年 5月	全國, 都道府縣, 人口 50萬以上의 市
基本集計	第 1 次 基本集計	人口 및 家口數의 確定結果와 人口, 家口 및 住居에 關한 基本的인 結果를 市區町村 段階까지 提供, 또한 高齡者 家口에 關한 基本的인 結果도 提供		全數	86年 11月	全國, 都道府縣, 市區町村
	第 2 次 基本集計	人口의 産業別 構成에 關한 基本的인 結果를 市區町村 段階까지 提供			87年 9月	
	第 3 次 基本集計	人口의 職業別 構成 및 特定家口 狀況에 關한 基本的인 結果를 市區町村 段階까지 提供			88年 7月	
抽出詳細集計		多重 크로스表 및 産業·職業 등에 關한 基本的인 結果를 市區町村 段階까지 提供		約 20%	89年 11月	全國, 都道府縣, 市區町村
勤務地·通學地集計	第 1 次	勤務地·通學地에 의한 人口의 基本的 構成에 關한 結果 및 産業別 構成에 關한 基本的인 結果를 市區町村 段階까지 提供		全數	87年 10月	全國, 都道府縣, 市區町村
	第 2 次	勤務地·通學地에 의한 人口의 職業別 構成에 關한 基本的인 結果를 市區町村 段階까지 提供			88年 8月	
	第 3 次	勤務地·通學地에 의한 人口의 經濟的 構成에 關한 詳細한 結果를 原則으로 都道府縣 또는 市區町村 段階까지 提供		約 20%	89年 12月	全國, 都道府縣, 市區町村
調査區別集計	第 1 次	第 1 次基本集計, 第 2 次基本集計 및 調査區 特性에 關한 基本的인 結果와 標本調査用 資料를 調査區別로 提供		全數	86年 11月	調査區 또는 分割區
	第 2 次				87年 9月	

(註) 上記와 關聯하여 國勢統計調査區別集計 및 mesh別 集計를 行함.

나. 資料處理業務 概要

(1) 集計方法

各集計區分別 集計業務는 要計表에 의한 人口集計를 除外하고는 概略 다음 順으로 行함.



- 各集計區分別 集計方法의 概要는 다음과 같음 (各集計 共通部分 省略)

要計表에 의한 人口集計

市區町村要計表를 使用하여 市區町村別, 男女別 人口 및 家口數를 算出함. 단, 一部 都道府縣에 대해서는 都道府縣 要計表를 利用함.

抽出速報集計

- ① 1% 調査票와 準 調査票, 自 調査票 및 矯 調査票의 全調査票를 利用함.
- ② 男女別, 出生年月, 家口員數, 家口番號 및 이 家口 調査票 枚數에 關하여 內容 檢査를 함.
- ③ 1% 調査票 및 準 調査票에 대해서는 産業·職業小分類 符號를 記入하고, 自 調査票는 一部 調査票에 대해서는 産業分類符號를 記入함.

- ④ 1% 調査票 Data에 準 調査票, 自 調査票 및 矯 調査票 Data를 합하여 結果集計를 함.

#### 第1次 基本集計

- ① 99% 調査票를 利用함.
- ② 男女別, 出生年月, 家口員數, 家口番號 및 이 家口 調査票 枚數에 對하여 內容 檢査를 함.
- ③ 個別 Data check는 調査票 第1面에 關한 事項에 對해서 함.
- ④ 99% 調査票 Data에 抽出速報集計 Data를 合해서 結果集計를 함. 또한, 이 Data를 利用해서 調査區別 第1次集計를 함.

#### 第2次 基本集計

- ① 第1次基本集計에서 利用한 99% 調査票를 다시 利用함.
- ② 第1次基本集計의 訂正調査票를 該當調査區에 돌려 보냄.
- ③ 産業大分類 符號를 記入함.
- ④ 第1次基本集計의 Data에 이 集計에서 入力한 就業狀態, 産業大分類 및 勤務地·通學地 等の Data를 더하고 (matching 해서) 여기에 抽出速報集計 Data를 合해서 結果集計를 함. 이 Data를 利用해서 調査區別 第2次集計, 勤務地·通學地 第1次集計를 함.

#### 第3次 基本集計

- ① 第2次基本集計에서 使用한 99% 調査票를 다시 利用함.
- ② 職業大分類 符號를 記入함.
- ③ 第2次基本集計 Data에 이 集計에서 入力한 職業大分類의 Data를 더하여 (matching 해서), 여기에 抽出速報集計 Data를 合해서 結果集計

함. 이 Data 를 利用해서 勤務地·通學地 第2次集計를 함.

抽出詳細集計

- ① 調査票 抽出 list 에 의거 99% 調査票 가운데서 約 19%의 調査票를 뽑음.
- ② 産業·職業 小分類 符號를 附與함.
- ③ 約 19%分 調査票 Data 에 그 集計에서 入力한 産業·職業 小分類 Data 를 더하여 (matching 해서) 여기에 抽出速報集計 Data 를 合해서 結果集計를 함. 이 Data 를 利用해서 勤務地·通學地 第3次 集計를 함.

(2) 1985年 資料處理의 特徵

- ① 全數集計는 ① 基本的인 事項의 內容檢査, ② 産業大分類 符號附與, ③ 職業大分類 符號附與의 3段階로 나누어서 集計함.
- ② 要計票에 의한 人口集計에 있어서 從來는 都道府縣 要計票를 利用해서 수집계를 했지만 이번에는 市區町村 要計票를 利用해서 컴퓨터에 의거 集計함.
- ③ 調査票 內容檢査時 人口의 確定이나 一部 基本的인 事項에 對하여는 手作業에 依함.
- ④ 抽出速報集計에 있어서 産業·職業 小分類의 符號記入業務는 과거에는 符號와 「마크」 두 가지를 記入했지만 이번에는 直接 「마크」를 記入하는 方式으로 效率化를 圖謀하였음.
- ⑤ Check list 에 의한 ERROR Data 의 訂正은, 從來는 訂正한 調査票를 다시 OMR 로 入力했지만 이번에는 주로 端末裝置를 利用

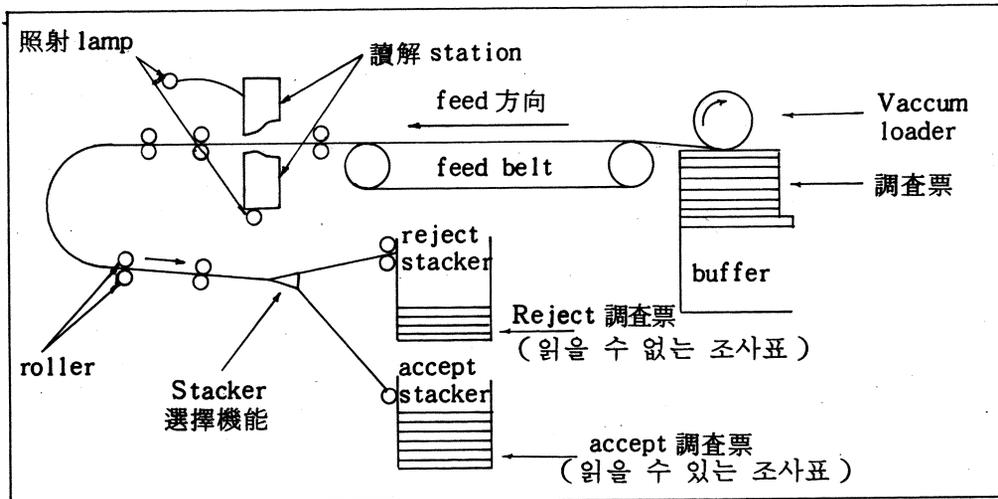
해 Data를 直接 訂正하는 技術革新을 圖謀하였음.

⑥ 結果表審査業務에 대해서도 結果表 支援 system을 利用한 結果 數値比較, 個別 Data 檢索 등 端末裝置를 活用해서 業務 效率化를 圖謀하였음.

⑦ 地方에서 産業大分類 符號를 記入하여 提出된 調査票에 대해서는 統計 CENTER에서 所定の 資料處理 外에도 地方이 必要로 하는 個別 Data Tape를 早期에 提供하기로 하였음.

(參考)

이번 調査票는 兩面印刷의 "마-크 시-트"로서, 兩面の 記入內容을 읽기 위한 (兩面同時讀解) 「光學式 마-크 讀解裝置(OMR)」 시스템은 다음과 같음.



○ Reject 調査票

入力할 때에 접히거나 더러워 지거나 해서 讀解를 할 수 없는 조사표는 Reject 裝置에서 選別됨. 이 reject 裝置에서 選別된 調査票를 「reject 調査票」라고 함.

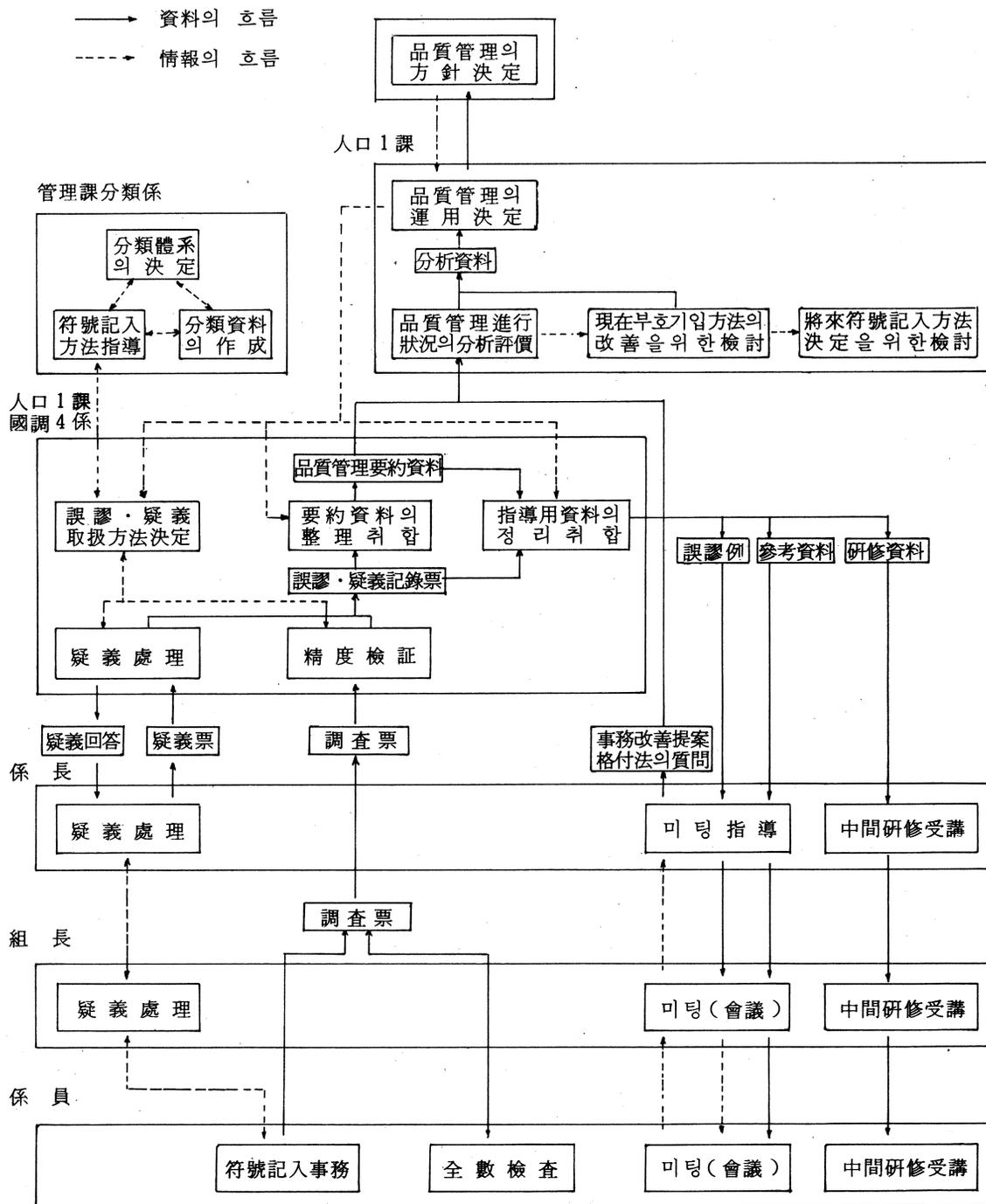
아울러, 한쪽 面만 읽혀진 調査票도 Reject 調査票가 됨.

○ Accept 調査票

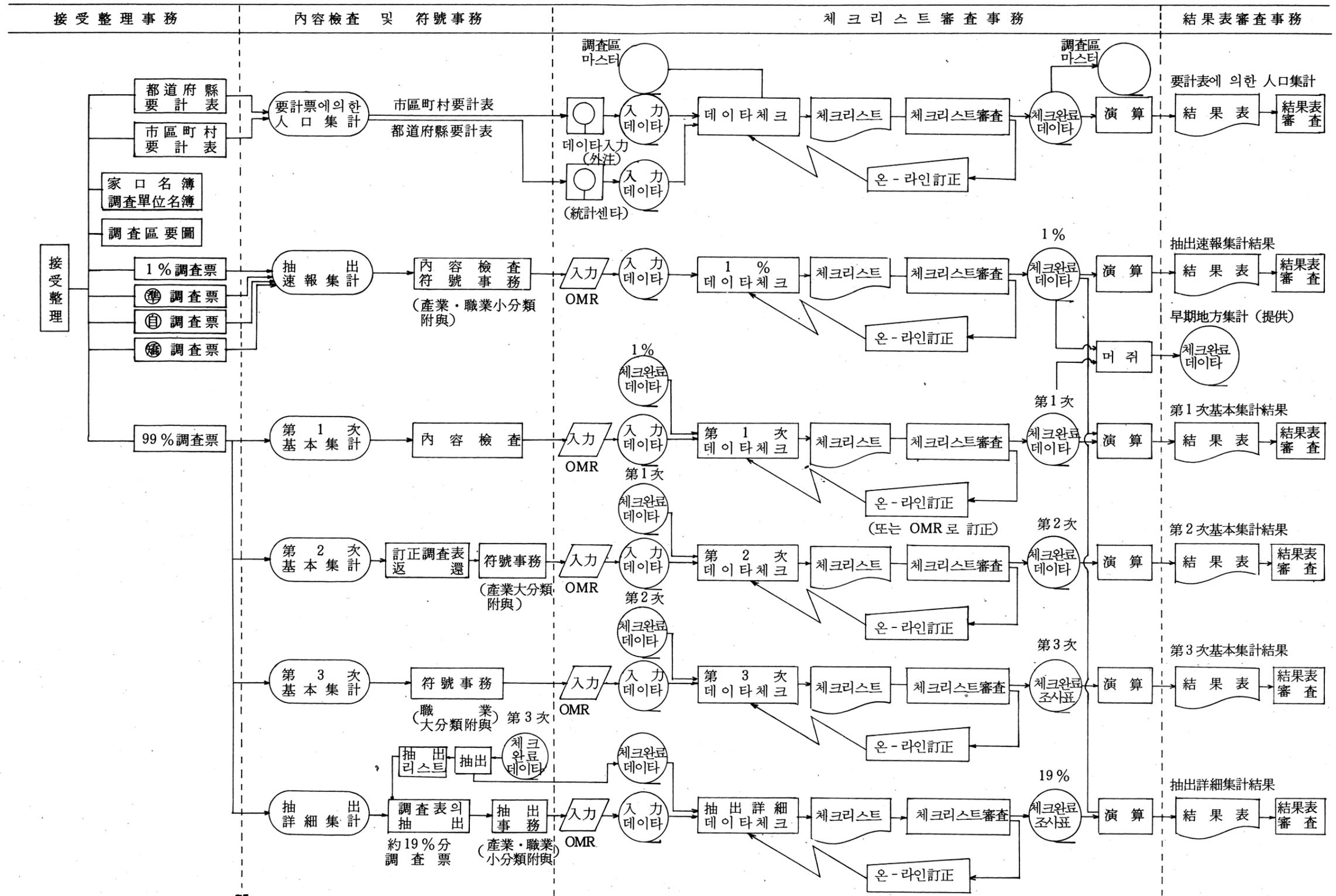
入力할 때 바르게 읽혀진 調査票는 accept 裝置에서 選別됨.

이 accept 裝置에서 選別된 調査票를 「accept 調査票」라 함.

圖 1 1985 年國勢調查抽出速報集計에 관한 品質管理組織圖



(3) 製表事務의 흐름



### 1985 年 人口센서스 資料處理 日程

	1985												1986												1987												1988												1989												備考
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1. 準備事務																																																													
2. 研修事務																																																													
3. 調査區關係事務																																																													
4. 概數集計																																																													
5. 接受整理																																																													
6. 抽出速報集計																																																													
1) 內檢・符號事務																																																													
2) OMR 入力																																																													
3) 체크리스트 審査																																																													
4) 結果表 審査																																																													
7. 第1次基本集計																																																													
1) 內檢・符號事務																																																													
2) OMR 入力																																																													
3) 체크리스트 審査																																																													
4) 結果表 審査																																																													
8. 第2次基本集計																																																													
1) 調査票의 回送事務																																																													
2) 內檢・符號事務																																																													
3) OMR 入力																																																													
4) 체크리스트 審査																																																													
5) 結果表 審査																																																													
9. 第3次基本集計																																																													
1) 調査票의 回送事務																																																													
2) 內檢・符號事務																																																													
3) OMR 入力																																																													
4) 체크리스트 審査																																																													
5) 結果表 審査																																																													
10. 抽出詳細集計																																																													
1) 調査票의 區分事務																																																													
2) 內檢・符號事務																																																													
3) OMR 入力																																																													
4) 체크리스트 審査																																																													
5) 結果表 審査																																																													
11. 附帶集計																																																													
1) 事後調査集計																																																													
2) 國調・勞調의 比較																																																													
3) 職産細分類集計																																																													
12. 其他																																																													
1) 開發處理・品質管理																																																													
2) 精度檢證・分析																																																													
3) 其他																																																													

(註1) ..... : final test  
 — : 本 審  
 ○ : 公 表

# 1985 人口 센서스 체크리스트

集計區分=速報    調査票區分=1%    都道府縣=27    市區町村=302    부록기=03    訂正回數=0    PROG.REV=1

調査表 케이스 番號	一 連 番 號	市區町村	都道府縣	市區町村	公營住宅	公團住宅	高層住宅	家人 口員	調査票 枚數	高者 齡數		
		調査區D	調査主番號	區番號	番號	分番號	住宅法				6層	11層以上
		家口番號	調査票番號	家口種類	住宅法	層數	(1) 家口員數				(2) 住居種類	(3) 居室數
	835	11		1	1	2		2	4	2	9	
	836	12		1	1	@1		4	1	5	42	
	837	13		1	1	2		3	4	2	117	
	838	14		1	1	3	3 <sub>2</sub>	2	4	3	18 <sub>18</sub>	
	839	15		1	1	1		3 @3	1	3	21	

家口員番號	1. 男女別	2. 關係	3. 出生年月				4. 配偶者有無	5. 國籍		6. 就業狀態	7. 從業地・通學地			8. 從業上地位	9. 產業	10. 職業	產業(地方)	에러의 有無		Cross-error 符號
			元	年	月	年		區	外		區	都府	市町					區	道縣	
3	2	3	3	58	2	2	1	1		8										
4	1	?	?	?		?	1	1		7								*		
1	1	1	3	27	2	33	2	1		26 2	1			6		?	?		*	
2	2	2	3	33	4	26	2	1		1	2			1		?	?		*	
1	1	1	3	15	1	45	2	1		1	2			1		?	?		*	*
2	2	2	7	17	4		2	1		2	1			6		?	?		*	
3	1	3	3	45	1	15	1	1		7	2									
4	2	8	7	?	2	?	4	1		8									*	
1	2	1	3	23	4	36	1	1		1	2			1		?	?		*	*
2	1	3	3	44	2	16	1	1		7	3 2								*	
3	2	3	3	47	3	13	1	1		7	3 2								*	
1	1	1	1	42	2	76	2	2	√	1	3 2	*	204	2		?	?		*	*
2	2	?	2	14	4	59	2	2	√	2				?					*	
1	1	1	3	31	4	28	2	2		1	1 @2								*	*
2	2	2	3	34	2	26	2	2		2				4		?	?		*	
3	2	3	3	69	?	1	1	1		?				1		?	?		*	

## 다. 産業·職業分類符號 記入에 대한 品質管理 實施

### (1) 品質管理活動의 實施

1985年 國勢調査 集計中 産業·職業分類符號 記入은 아래와 같이 함.  
이 경우 符號 記入 業務에 關해서, 品質管理(TQC)活動을 하고 있는데  
現在('86.3) 抽出速報 集計에 對하여 實施中임.

(가) 抽出速報集計(1%) : 産業·職業 小分類, '85.11 ~ '86.3,

最大約 100人

(나) 第2次 基本集計(100%) : 産業 大分類, '86.6 ~ '87.5, 約 400人

(다) 第3次 基本集計(100%) : 職業 大分類, '87.6 ~ '88.3, 約 400人

(라) 抽出詳細集計(20%) : 産業·職業 小分類, '88.4 ~ '89.11, 約 400人

### (2) 品質管理活動 體系(圖1參照)

#### (가) 組織

- ① 品質管理委員會
- ② 品質管理팀
- ③ 精確度檢證班
- ④ 疑義處理班

#### (나) 活動

##### ① 研修

- 初期研修(指導者, 一般職員別)
- 中間研修(擔當者 全員)
- 縣別로 符號記入 情報에 대한 研修(該當縣의 符號를 記入하기 直前에 그 縣의 工場 특징 등을 擔當係長에게 說明)

## ② 檢 査

抽出集計에 對해서는 全期間, 基本集計에 對해서는 符號記入業務時 등 一定期間 全數檢査를 함.

## ③ 精度檢證

專門的인 精度 檢證班이 全期間에 걸쳐서 拔取方式으로 調査票 符號記入 內容을 檢査함으로써 現在의 符號記入 錯誤率을 把握하고, 또한 指導用으로 使用기 위한 符號記入 錯誤事例을 蒐集함.

## ④ 疑義處理

擔當係에서 符號記入을 할 수 없는 內容에 對해서는 專門의 疑義處理班이 檢證하여 分類符號를 決定함.

## ⑤ 分析改善 活動

品質管理팀이 精度檢證으로 發見한 符號記入 錯誤 및 全數檢證에서의 訂正에 關하여, 그 發生率 및 內容 分析에 依據 改善案을 수립하고 施行함.

## ⑥ 미-팅(회의)

週 1回, 15分程度의 회의를 갖고, 最近 錯誤事例, 注意하지 않으면 안될 內容, 符號記入上의 疑義 및 改善 方法등에 對해서 組單位(5~6人)로 모여서 議論함.

## ⑦ 參考資料

- 精度檢證에서 發見된 錯誤事例을 記錄하고 擔當係에 配布
- 每週, 「品質管理通信」을 發刊하여 全員에게 配布(別添參照)
- 月 1回, 「分析資料」를 作成, 係長, 組長에게 配布

## (3) 評價 및 問題點

### (가) 符號記入 精度

現在까지의 符號記入 精度는 表1 과 같음. 符號記入 錯誤率에 關해서는 前회에 比해 産業에서는 상당한 程度로 낮아졌고 職業에서도 약간 낮아 지고 있어 역시, 符號記入 業務가 익숙해 짐에 따라 改善되고 있음. 그러나 全數檢査에서의 訂正率에 있어서는 거의 變化를 보이지 않음.

(나) 問題點

- ① 회의가 活潑치 못함.
- ② 係別로 符號記入 精度에 상당한 差異가 있음.
- ③ 指導해도 줄지 않는 錯誤가 있음.
- ④ 當初의 符號記入 錯誤率에 改善을 보이지 않음.

表 1. 符號記入 錯誤率 및 全數檢査에서의 訂正率

(%)

週 別	符號記入 錯誤率		訂 正 率	
	產 業	職 業	產 業	職 業
85年(11月~12月)	1.98	2.01	2.01	2.27
86 1/6 ~ 11	1.54	2.10	2.17	2.61
13 ~ 18	1.32	1.52	2.34	2.65
20 ~ 25	1.06	1.57	1.72	2.21
27 ~ 2/1	1.39	1.29	1.74	2.09
2/3 ~ 8	1.44	0.95	2.38	2.57
10 ~ 15	1.67	1.34	2.12	2.33
17 ~ 22	1.62	1.36	2.05	2.41
24 ~ 3/1	1.44	1.50	2.08	3.27
合 計	1.64	1.65	2.06	2.39
參考 80年	2.30	1.79	-	-
75年	1.56	2.42	-	-
70年	1.27	1.68	-	-

符號記入 精度

符號記入 錯誤率

	果 計	지 난 週
産 業	1.95 %	2.12 %
職 業	1.93 %	2.10 %

\* 지난 주는 주로 「愛知縣」을 체크 했음. 愛知縣은 대도시이며, 또한 自動車關係工場이 많기 때문에 符號記入에 어려움이 많았음.

지 난 週에 많았던 錯誤事例

〔産業〕 誤 正

260→259 「鑄型」이란 鑄造用的 砂型이므로 「鑄型 製造業」은 259에 분류됨.

513→512 青果・食肉은 農畜産物임.

871→872 病院은 871, 診療所는 872임.

名稱에 注意해 주십시오.

〔職業〕 誤 正

301→311 鑛工業體나 商社의 「營業社員」은 일반적으로 「商品販賣 外務社員」임.

71V→710 「나사각기」「기어절삭가공」은 특히 手加工이 아니면 工作機械工임.

730→720 아래 「今週의 話題」를 참조해 주십시오.

## 今週의 話題

〈自動車 部品에 對하여〉

自動車 部品 製造業은 部品の 種類에 따라 각각의 産業으로 分類되므로 工場 通賢등의 資料에서 확인해 주십시오.

自動車 部品 製造工 組立工으로 分類될 사람은 엔진, 후레임, 보-디, 沙시의 組立을 하는 사람에 限定되므로 그 事業所의 事業內容을 確認하지 않으면 안된다. 其他 部品 製造工, 組立工은 部品の 種類에 따라 730 以外の 各各의 職業에 分類된다.

符號記入 精度

符號記入 錯誤率

	果 計	前 前 週	前 週
產 業	1.64 %	1.62 %	1.44 %
職 業	1.65 %	1.36 %	1.50 %

前週의 符號記入 錯誤率은 前前週에 比해, 産業은 낮아졌고 職業은 上昇해서 一進一退였음. 뒷면에 大分類別로 본 符號記入 錯誤 發生 狀況을 揭載하였음. 이후의 符號記入時 參考해 주십시오.

前週 發見한 錯誤事例

〔産業〕 誤 | 正

311 → 301 自動車用 와이어 하-네스(組電線)의 製造業은 301 임(中間研修資料 No. 2 參照).

504 → 561 自動車 販賣會社에 대해서는 自動車 製造·販賣會社 list 를 參照하십시오.

511 → 501 「吳服」은 일본옷 만드는 織物의 總稱으로서 吳服 都賣業은 501 이 됨.

〔職業〕 誤 | 正

303 → 31V 中央 都賣市場內의 都賣業者는 委託 받은 物件을 原則적으로 競매 또는 入札방법에 의해 판매하는 者로서 이러한 者들은 30V로 함.

763 → 889 핸드백등 휴대용 지갑을 製造하기 위해 縫製를 하고 있는 자는 材料 여하를 不問하고 889로 됨.

## 今週의 話題

〈社長은 社長임.〉

10欄이 「社長」이라고 記入하고, 8欄이 「雇傭인이 있는 業主」로 되어 있는 경우(勤務處 名稱도 株式會社나 有限會社), 職業이 12V로 되어 있는 것도 있는데, 12V는 個人이 經營하는 企業으로 專門經營, 管理을 하는 者만이 分類되므로 실제로는 個人 經營이라도 會社組織으로 되어 있다면 12V가 아니고 110으로 됨. 또한, 이 경우 8欄을 「會社등의 任員」으로 訂正함.

(參考) 符號記入 錯誤發生狀況 (1986年 1~2月 精度檢證結果)

產業分類

錯誤符號	訂正符號														
	合計	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
合計	490	6	1	4	2	11	168	2	20	128	4	4	111	16	13
A 農業	6	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2	-	-
B 林業	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
C 漁業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
D 鑛業	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
E 建設業	17	1	-	-	-	-	6	1	2	-	-	-	6	1	-
F 製造業	163	-	1	2	1	1	125	-	1	25	-	-	7	-	-
G 電氣·가스·水道	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
H 運輸·通信業	25	-	-	1	-	2	2	-	12	2	-	-	5	1	-
I 都賣·小賣業	125	-	-	-	1	4	22	-	-	90	1	-	7	-	-
J 金融·保險業	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	1	-
K 不動產業	7	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	3	-	-
L 서비스業	99	-	-	1	-	2	6	-	2	7	1	1	66	10	3
M 公務	5	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3	1	-
N 分類不能 漏落·其他	29	3	-	-	-	-	5	-	2	4	-	-	3	2	10

- 1) 中分類 또는 小分類間的 錯誤가 많았음. 이는 自動車 部品取扱, 纖維와 衣服區分, 製品種類의 分類錯誤 때문임.
- 2) 製造業과 都·小賣業間에 錯誤가 많았음. 이는 營業所와 製造販賣 (특히, 食料品)을 잘못 分類했기 때문임.
- 3) 都·小賣業 中에서 都賣와 小賣의 區分이나 百貨店의 把握이 잘못 된 것이 눈에 띠었음.
- 4) 서비스業은 다른 大分類와의 사이에 錯誤가 생기고 있음. 서비스業으로 볼 것인가 아닌가 注意가 필요함.
- 5) 서비스業 中에서는 病院과 診療所의 區分, 專修學校 各種學校로 볼 것인가 아닌가 錯誤가 눈에 띈.
- 6) 分類 不能일 경우 符號(마크)漏落이 많았음. 이는, 職業도 마찬가지로 지임.

職業分類

錯誤符號	訂正符號												
	合計	0	1	2	3	4	5	6	7~8	9	V	N	
合計	474	67	13	29	59	12	1	8	237	7	29	12	
0 專門的·技術的	42	31	.	1	1	2	.	.	6	.	1	.	
1 管理的 職業	19	2	11	1	2	.	.	.	2	.	1	.	
2 事 務	49	8	1	12	10	.	.	2	7	3	6	.	
3 販 賣	51	.	.	3	29	.	.	.	13	.	6	.	
4 農 林 漁 業	9	.	.	.	.	7	.	.	2	.	.	.	
5 採 掘	1	.	.	.	.	.	1	.	.	.	.	.	
6 運輸·通信業	11	3	.	1	1	.	.	4	2	.	.	.	
7~8 技能工·生産	234	21	.	4	9	3	.	2	189	1	5	.	
9 保安職業	6	.	.	3	.	.	.	.	1	2	.	.	
V 서비스 職業	32	1	1	2	7	.	.	.	9	1	9	2	
N 分類不能 漏 落·其他	20	1	.	2	.	.	.	.	6	.	1	10	

- 1) 技能工, 生産·勞務作業者는 그 가운데에서 中分類 또는 小分類 間의 錯誤가 많았음. 이는 産業分類 경우의 製造業 錯誤가 같은 이유 때문임.
- 2) 技能工, 生産·勞務作業者는 其他 大分類와의 사이에도 많은 錯誤가 發生하고 있음. 이 錯誤에는 特히 두드러진 錯誤는 없고 全體的으로 發生하고 있음.
- 3) 專門的·技術的 職業 가운데는 技術者로 分類할 것인가 敎員으로 볼 것인가 與否 등의 잘못이 눈에 띈.
- 4) 販賣從事者 中에는 販賣類似와의 區分錯誤가 많이 있음.
- 5) 서비스業은 産業의 경우와 같음. 其他 大分類와의 사이에도 錯誤가 있음.

#### 4. 人口센서스(國勢調查) OMR 利用에 對하여<sup>1)</sup>

##### 가. 國勢調查에 OMR 利用 沿革

國勢調查에 있어서 OMR의 利用은 1965年 國勢調查에서 始作하여 1985年 調査는 5回째임.

國勢調查에서 OMR를 利用한 이유 및 各回 國勢調查에 利用한 OMR의 특징에 대해 개요를 記述하면 다음과 같다.

##### (1) 國勢調查 集計에서의 OMR 利用의 必要性

○ 컴퓨터에 데이터를 投入하는 인풋시스템은 크게 다음과 같이 分類됨.

① 데이터를 후룬피 디스크等 컴퓨터 readable 한 媒體로 變換하는 방법.

② 通信回線등으로 連結되어 있는 端末裝置에서 온라인으로 하는 방법.

③ 데이터가 記憶되어 있는 帳票自體를 媒體로 하는 방법.

○ 以上の 各 인풋시스템을 比較하면

①은 媒體의 變換에 打鍵(Keying) 作業이 必要하여 많은 노력을 필요로 하고, 中央에서 集中處理를 할 경우 集計期間을 크게 壓迫함.

②는 中央과 各 縣을 連結하는 專用의 通信回線이나 端末裝置를 必要로 하며 5年마다의 사이클로 실시하는 國勢調查에는 最適한 시스템이라고 할 수 없음.

註 1) 同資料는 當局에서 1985年 人口센서스 OMR 利用 檢討時, 日本統計局이 作成, 提供(1984.9)한 資料임.

이들 시스템에 比較해서 OMR(OCR)로 代表되는 ③의 시스템은 다음과 같이 많은 利點을 가지고 있음.

- 媒體의 變換等に 必要한 打鍵作業이 省略되고 또한 실수로 인한 誤差發生이 없음.
  - 必要事項을 鉛筆등으로 마크한 帳票가 그대로 인풋 媒體가 되므로 데이터 作成이 分散化됨.
  - 데이터 發生場所의 事情에 가장 精通되어 있는 사람들 손에 의해 데이터가 作成되므로 그 精度가 向上됨.
  - 全體의 集計期間이 대폭 단축됨.
- 以上 理由에서 國勢調査의 인풋 시스템은 1965年 國勢調査부터 從來의 펀치카드 시스템으로부터 OMR 시스템으로 바꾸었고 이에 따라 컴퓨터를 導入하였어도 3年 以上の 기간을 要한 國勢調査의 集計를 1965年 國勢調査에서는 不過 20個月로 完了할 수가 있었음.
- 그 後 各回 國勢調査의 集計에 利用한 OMR은 各回 마다 改良되어 왔는 바, 1965年 以後의 國勢調査에 利用한 OMR의 特徵은 다음과 같음.

## (2) 國勢調査에의 OMR 利用

### (가) 1965年 國勢調査

當時는 OMR도 黎明期로서 國勢調査와 같은 大規模의 調査에 利用될 수 있는 OMR은 極히 적었었으나, 그 가운데에서 IBM社의 1418型 OCR을 선택하여 여기에다 읍손인 OMR 機構를 부가하여 利用하였음.

### ① 마크카드 作成 方法

各 家口에서 記入한 調査票에서 全數集計에 필요한 基本調査 事項만을 個人單位로 調査員이 마크 카드에 轉記하였음.

따라서 1% 速報集計, 20% 詳細集計에서는 필요한 住宅, 勤務地, 通學地 등에 관한 調査事項 등은 從來의 punched 카드에 Key-in 方式을 採用하였음.

### ② 機種의 特徵

- 마크카드 : 90 × 175 mm 個人單位
- 解讀速度 : 300 枚 / 分
- 마크테두리 (枠) : 세로 1 mm, 가로 4 mm 固定
- 마크 形態 : 
- 마크 行數 : 13 자리
- OCR (OMR) : 併用機
- 濃淡比較機構 : 없음.

이 OMR은 고무지우개로 지운것 같은 마크 등도 解讀하는 등 解讀精度 管理에 문제가 있었으나 OMR 利用에 따라 國勢調査의 인풋 시스템을 根本적으로 改革할 수가 있었으며 그 經驗이 그 以後의 國勢調査 OMR 利用에 있어서의 여러 문제를 해결하는데 크게 공헌하였음.

#### (나) 1970年 國勢調査

1965年 國勢調査에서 얻은 經驗을 살려 일찍부터 關係製造業者와 折衝을 거듭하여 技術적으로 大幅的인 改良을 加해 完成한 日本 電氣의 N 240 P型 OMR을 利用하였음.

### ① 마크시트 作成方法

1970年 國勢調査에서는 1965年 調査에 비해 調査事項이 많아 大型마크시트 利用이 必要하게 되었음. 이 調査에 있어서는 各 家口에서 記入한 調査票로부터 모든 調査事項을 調査員이 마크시트에 轉記하였음. 그리고 OMR의 入力期間을 단축하기 위하여 2名 連記의 마크시트를 使用키로 하였음.

### ② 機種의 特徵

- 마크시트 : 210 × 297 mm 2名連記
- 解讀速度 : 220 枚 / 分
- 마크테두리 : 세로 1 mm, 가로 4 mm 固定
- 마크 形式 : 
- 마크 行數 : 34 자리 × 2名
- OMR 專用機
- 濃淡比較機構 : 있음(註).

### (다) 1975年 國勢調査

1975年 國勢調査에 利用한 OMR은 前回 1970年 國勢調査에 利用한 OMR의 改良型인 日本電氣 N 240 P-1型을 利用하였음.

#### 註) 濃淡比較機構

濃淡比較機構라 함은 錯誤로 記入한 마크를 고무지우개로 지우고 다른 마크 포지손에 새로이 마크를 記入한 경우 若干의 지운 흔적이 있어도 兩마크를 比較, 진한 마크를 읽어 들이는 機能임. 이 경우 지운 흔적이 複數個 있어도 濃淡比較는 可能하므로 全에러의 85%를 占하였던 지우기 不充分에 의한 解讀에러를 全面的으로 解消할 수가 있었음.

### ① 마크시트 作成方法

1975年 國勢調査에서 처음 마크시트 調査票를 採用하였음. OMR에 대해서도 더욱 改善을 加하고 比較的 짧은 마크나 形狀이 다른 마크의 解讀을 可能케 하였음. 더구나 從來 一定하였던 마크 테두리의 크기도 下記에 提示한 一定 規格 가운데서 任意로 選擇할 수 있도록 함으로써 調査票의 設計에서 家口가 記入하는 欄의 마크 테두리를 크게하고 마크 記入을 容易하게 할 수가 있었음. 調査票(마크시트)는 4名 連記로 하였음.

### ② 機種의 特徵

- 마크시트 : 257 × 364 mm 4名連記
- 解讀速度 : 200 枚 / 分
- 마크테두리 : 세로 1 mm ~ 4.5 mm, 가로 4 mm ~ 5.08 mm 範圍에서 任意
- 마크 行數 : 34 자리 × 4名
- 마크 形狀 :  등 自由
- OMR 專用機
- 濃淡比較機構 : 있음.

### (라) 1980年 國勢調査

1980年 國勢調査에서는 1975年 國勢調査에서 利用한 OMR에 兩面同時 解讀機能을 加한 日本電氣의 N 7815型 OMR을 使用하였음.

### ① 마크시트 作成方法

1980年 國勢調査는 大規模 調査로서 調査事項이 많아 調査票는 마크시트 兩面을 使用하는 것을 利用하였음. 兩面 同時解讀 可能한 OMR의 開發에 따라 家口에서 調査票 兩面に 記入한 마크를 1回 通過로 同時에

읽을 수 있게 되어 調査票 用紙의 節減을 비롯하여 調査票 倉庫等 保管  
스페이스의 節減, 運搬勞力等の 省力化가 이루어지게 되었음.

② 機種의 特徵

- 마크시트 : 257 × 364 mm 4名連記(表裏)
- 解讀速度 : 200 枚 / 分
- 마크테두리 : 세로 1 ~ 2 mm의 範圍內에서 任意, 가로 4 mm 固定
- 마크 形狀 : 
- 마크 行數 : 表 33 자리 × 4名 裏 34 자리 × 4名
- OMR 專用機
- 濃淡比較機構 : 마크의 濃度에 따라 3段階 레벨을 設定하고,  
解讀레벨은 호스트, 컴퓨터의 프로그램으로 選定하  
였음.

(마) 1985年 國勢調査

1985年 國勢調査에서는 1980年 國勢調査에서 使用한 것과 同一한 OMR  
을 使用할 計劃<sup>1)</sup>임. 특히 日本電氣는 이것을 最後로 이 OMR의 生産  
을 中止하기로 되어 있음으로 統計센터에서는 1990年 國勢調査 以後에  
使用할 入力機器에 대해서는 今後 檢討를 進行할 計劃임.

---

註 1) 同 資料는 1984. 9月 作成된 것임.

나. 1980年 國勢調査의 OMR 利用實績

區 分	抽出速報集計(1%)	第1次基本集計	第2次基本集計	抽出詳細集計(20%)	自衛隊地域・矯正施設
入 力 期 間	80.11 ~ 81.2	80.11 ~ 82.2	82.1 ~ 82.11	82.10 ~ 84.2	80.10 ~ 81.2
總 入 力 枚 數	837,555 枚	47,891,004 枚	43,732,826 枚	9,244,080 枚	1,923,990 枚
實行處理速度 註1)	122 枚 / 分	162 枚 / 分	172 枚 / 分	180 枚 / 分	131 枚 / 分
리젝트枚數 註2) (리젝트率)	592 枚 (0.071%)	41,903 枚 (0.087%)	27,086 枚 (0.062%)	904 枚 (0.010%)	482 枚 (0.025%)
入 力 期 間	114 : 10	4941 : 32	4258 : 02	864 : 41	245 : 17

註1) 集計區分에 따라 實行處理速度가 다른 主된 要因은 다음과 같음.

抽出速報集計(1%) 및 自衛隊地域・矯正施設은 調査票 枚數가 작으나 市町村 및 調査區 區分에 使用하는 아이덴트 시트 枚數의 混在率이 他 集計보다 높기 때문에 雙方의 比寸함이 없  
어 OMR의 解讀時에 워드(feed)상황을 惡化시키기 때문임.

\* 아이덴트 시트에 대해서는 「아이덴트 시트의 利用」을 參照.

註2) 리젝트(Reject)枚數라 함은 調査票의 刮임, 더럽힘 등에 의하여 正常으로 OMR이 읽을 수 없  
었던 調査票의 枚數를 말함. 또한 리젝트率이라 함은 總 읽은 枚數에 대한 리젝트 枚數의 率  
(%)임.

## 다. OMR 利用上의 留意點

OMR을 利用하기 위해서는 適用業務, 마크記入 對象者 等に 따라 留意點도 달라지는데 1980年 國勢調査에서 利用한 OMR을 例를 들어 調査票 紙質, 設計上의 포인트, 印刷, 裁斷등에 關한 運用上의 留意點을 說明하고자 함.

### (1) 用紙의 規格

OMR에 利用되는 用紙는 많은 特殊性을 가지고 있으므로 다른 帳票와는 달리 다음과 같은 事項에 대해 規格을 決定해야 할 必要가 있음.

#### ① 무게 (두께)

	最 大	最 小
무  重	110 kg	90 kg
두  께	0.16 mm	0.125 mm

一般的으로 調査票 사이즈가 클 경우에는 安全을 위해 무거운(두꺼운) 用紙를 使用해야 함. 1980年 國勢調査의 경우는 調査票 사이즈가 257 × 364 mm로 컸으므로 무게 110 kg, 두께 0.16 mm의 것을 使用하였음.

#### ② 剛直度

剛直度라 함은 一般的으로 종이의 허리가 強하다(빠뎃함), 弱하다 등을 말하는 경우의 종이 허리를 말함.

#### ③ 白色度

白色度라 함은 酸化 마그네슘의 白色度を 100%로 한 경우의 종이의 하얀 程度 즉 反射率인데, 一般的으로는 8% 以上이 되어야 함.

#### ④ 竪度

竪度라 함은 종이의 세로·가로의 휘어짐을 말함.

⑤ 平滑度

종이 表面의 부드러움, 摩擦係數

⑥ 破裂度

종이를 찢을 경우에 견디는 強度

⑦ 表面強度

종이 表面이 펼쳐지기의 強度

⑧ 透氣度

紙質密度的 濃度, 空氣를 浸透시키는 壓力에 견디는 強度 등의 事項에 對한 仕様 및 試驗條件이 定해져 있으며 條件을 滿足치 못했을 경우에는 解讀精度 低下를 초래하게 되는데 이 條件은 使用하는 OMR, 마크시트의 사이즈, 入力作業 環境등에 따라 달라지므로 複數의 用紙 메이커, OMR 메이커 등과 事前에 充分히 研究해서 決定할 必要가 있음.

(2) 調査票 設計上の 포인트

① 세로쓰기 폼과 가로쓰기 폼

세로쓰기 폼이라 함은 各各의 調査事項 등을 세로로 설계하고 세로 線 마크를 記入하는 것이며, 가로쓰기 폼이라 함은 各各의 調査事項 등을 가로로 설계하고 가로 線의 마크를 記入하는 것임.

兩者에는 一長一短이 있으나 一般的으로 數量, 金額등 자리수가 많은 경우는 가로쓰기 폼이 예러 마크가 적은 경향이 있음. 記入者の 쓰기 편한 것을 충분히 테스트한 다음 決定해야 할 것임.

國勢調査에서는 雙方 樣式에 대해서 테스트한 結果, 자리 數를 많이 使用하는 調査事項도 적고 또 記入者가 보기 쉽게 하는 觀點에서 가로쓰기 폼으로 하였음.

A. 조사마크시트

항목 A	항목 B	항목 C	항목 D
------	------	------	------

세로쓰기 폼

B. 조사마크시트

항목 A	—	—
항목 B	—	—
항목 C	—	—
항목 D	—	—

가로쓰기 폼

정확한 마크

에러 마크

가 구 번 호	100자리	■ □ □ □ □ □	100자리	■ □ □ □ □ □
	10 자리	□ ■ □ □ □ □	10자리	□ ■ □ □ □ ■
	1 자리	□ □ □ □ ■	1 자리	□ □ □ □ □

가로쓰기 표에 많은 에러마크 (125의記入例)

② 文字記入域의 設計

調査票 設計에서는 마크 記入域 (마크를 記入하는 場所, 자리)을 統一하고 여기에는 文字를 記入하지 않는 것이 바람직하나 실제로는 마크 記入域에 文字를 記入해야 할 必要性이 생기게 된다.(産業, 職業欄의 記載) 이 경우 記入文字가 文字記入 테두리에서 밖으로 튀어나와 隣接하는 마크 테두리와 接觸되므로 誤讀을 피하기 위하여 文字記入域의 테두리를 2重으로 印刷하였음.





아이덴트는 縣番, 市區町村 番號 및 調査區數를 마크 記入에 의해 識別하고 調査區 아이덴트는 調査區 番號, 監督數(家口數, 家口人員, 調査票枚數) 및 調査票 케이스 番號를 각각 마크를 記入함으로써 識別하고 있음.

- 아이덴트 시트는 調査票를 구별할 뿐만 아니라 調査區數의 체크 監督數의 체크 등에도 이용하고 있으며 또 訂正 使用欄을 利用함으로써 縣市區町村 番號의 訂正, 調査票의 挿入, 削除, 바꿔 넣기 등의 訂正을 할 경우에 指示하는데도 使用함. 調査區 아이덴트에 의해 訂正入力은 調査區 單位로 入力할 수가 있음. 其他 調査區 아이덴트는 OMR의 解讀精度 체크用으로서 利用하고 있음. 이와 같이 아이덴트 시트는 많은 目的으로 利用되기 때문에 記入된 마크는 반드시 정확하게 읽어 들이지 않으면 안되므로 記入은 家口에서 하지 않고 統計센터 職員이 마크 記入을 하고 있음.

#### (4) 筆記具의 選定

##### ① 筆記用具의 種類

마크記入에는 黑色鉛筆을 使用.

마크記入에 使用할 수 있는 筆記具 종류는 OMR 機種에 따라 波長感度 特性이 다름으로 一定하게 정할 수가 없지만 볼펜, 싸인펜, 萬年筆 등은 같은 黑色이지만 메이커에 따라 제품 特性이 다르기 때문에 解讀이 不良한 것도 있으므로 읽기의 확실성, 記入 錯誤가 있을 경우의 消去 容易性 등을 고려 한다면 鉛筆이 가장 適合함.

연필의 경우는 메이커에 의한 解讀의 差는 全혀 없고 筆壓 마크形狀 등에 따라 差가 있지만 問題는 硬度임.

② 鉛筆의 硬度和 解讀精度

記入마크의 解讀可能한 연필의 硬度는 B, HB, H를 들수 있는데 B는 機械的인 面에서만 본다면 적합하다 할 수 있으나 人手作業 段階에서 調査票의 摩擦에 의한 마크의 더러움 등을 생각하면 적합치 못함. 또한 H는 筆壓이 弱하여 약간 짧은 마크의 경우는 읽어 들이기가 어렵게 되므로 HB가 最適임.

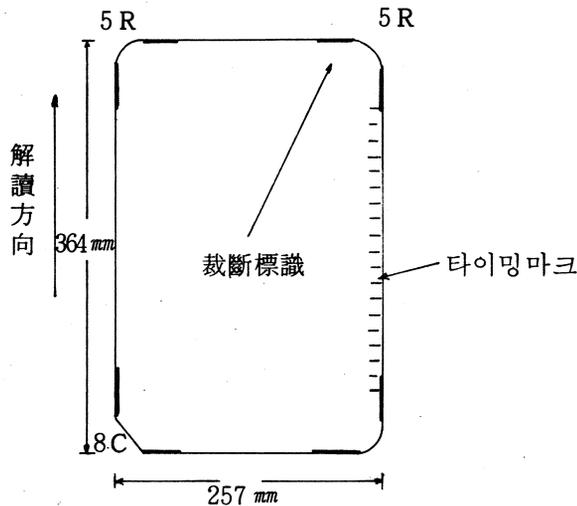
(5) 印刷·裁斷의 規格

OMR에 의한 解讀狀況은 印刷精度, 裁斷誤差 等に 크게 左右되므로 印刷·裁斷의 規格(仕様)은 매우 重要함.

① 外形치수와 코너컷

우선 外形치수를 定하고 同時에 코너 컷을 定함.

코너 컷은 마크시트를 取扱하는 모든 段階에서 發生하는 귀퉁이 꺾이 등을 防止하기 위해서 필요한데 通常 5R (반경 5mm의 円이 그리는 弧)



마크시트의 치수와 코너 컷

가 利用됨. 마크시트의 天地(위·아래)나 뒤집기 등을 判別하기 위하여 一個所는 8C(1邊 8mm 正方形의 對角線)로 하면 편리함.

#### ② 타이밍 마크의 印刷

타이밍 마크는 마크테두리에 記入된 마크를 解讀하는 데에 필요한 것으로 확실히 읽지 않으면 안되므로 반드시 黑色으로 하여야 함.

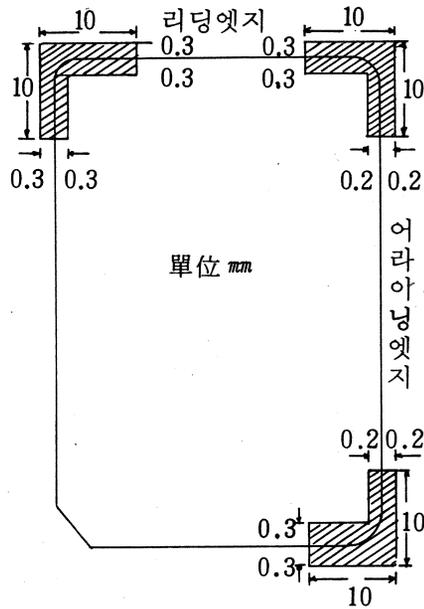
#### ③ 드롭 아웃 칼라의 決定

드롭 아웃 칼라라 함은 反射率이 높고(70% 以上) 絶對로 記入마크로 誤認될 가능성이 없는 色으로서, 一般的으로 赤, 綠, 紫色系統의 靑은 色을 利用함.

國勢調査에서는 마크記入者의 의견을 反映하여 紫色을 선택하였음.

#### ④ 裁斷 標的

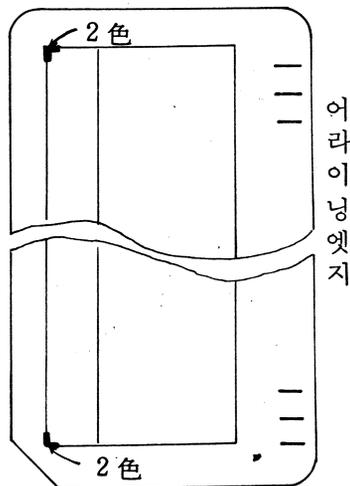
- 印刷가 끝난 調査票는 規定의 치수로 裁斷하는데 어라이닝 엷지(調査票가 OMR에 읽히어 들어갈 때의 右側)의 裁斷誤差는 解讀精度나 휘드에 惡 影響을 미칠 것이므로 충분히 檢査가 必要함.
- 裁斷誤差의 檢査를 위하여서는 調査票 各 코너에 톱보라고 하는 標的을 印刷함.
- 裁斷 後 이 標的이 남아있는 狀態를 보아 재단의 正否를 判斷하게 됨.



裁斷標的의 스펙

⑤ 2色の 標的

印刷精度를 체크하기 위하여 한번 印刷되어 있는 調査票의 特定 部分에 다시 다른 色으로 印刷하여 兩者의 印刷가 合致하는가 어떤가를 체크함. 이 경우 印刷精度를 유지하기 위해서는 2色の 標的은 어라이닝 엣지側으로부터 될 수 있는대로 떨어져 있는 場所가 좋음.



⑥ 印刷中の 環境條件

印刷中の 環境條件은 室內의 溫度  $23 \pm 5^{\circ}\text{C}$ , 室內 濕度 40 ~ 60 %를 유지할 필요가 있음.

(6) 檢收의 스펙

① 마크시트가 納品時의 檢收 요령

- 納入方法
- 調査票 봉치 單位의 指定
- 包裝方法
- 密包裝 後의 保管方法

② 製品의 檢定

納品된 調査票의 檢査要領, 檢査後 處理의 決定, 특히 不合格品이 나왔을 경우의 처치등을 정해 두어야 함.

國勢調査의 調査票에 대해 한 檢査事項은 다음과 같음.

- 用紙의 裁斷의 位置
- 2色의 標的
- 印刷色의 濃度
- 더러움
- 用紙의 右側 엷지에 대한 上部 엷지의 直角度
- 用紙의 外形 치수
- 타이밍 마크와 데이터 마크 테두리의 位置

(7) 調査票의 取扱方法

調査票와 OMR 시트를 單一化 했을 경우에는 OMR 시트가 가지는 特性 때문에 그 취급에 주의하지 않으면 안됨.

① 家口에서의 注意

一般 家口에서 記入한 調査票가 그대로 OMR에서 읽어 들이므로 家口에서 꺾는다던가, 휘게 한다던가, 더럽힌다던가 하는 일이 없도록 調査票에 注意事項을 印刷한다던가 하여 처치를 강구하여야 함.

② 調査票의 運搬(調査票 配定時)

調査票를 配定할 때에는 專用的 調査票 輸送函을 만들고 途中에서 調査票의 損傷, 더럽힘이 생기지 않도록 충분한 처치를 강구하여야 함.

③ 調査票의 保管은 盜難, 火災, 水害, 溫濕度, 直射日光等の 被害를 받는 일이 없도록 專用的 倉庫 등을 마련해 둘 필요가 있음.

④ 作業段階

作業段階에서도 調査票의 꺾임(특히 調査票 上部와 右端部가 重要함) 찍임, 더러움, 감기기, 과도의 습기, 직사일광에 비치는 일이 없도록 주의하여야 함.

라. 現存 OMR 各 機器의 概要 (84.9 現在)

① OMR 專用機

區分	仕			樣	
	機器名	製造會社	讀取速度	帳票사이즈	價格
	6351-E	富士通 (株)	250 枚 / 分	7018 (MCS OMR시트판) (株) 시-에스시	MR 246 島田理化工業 (株)
				100 枚 / 分	100 枚 / 分
	216 × 305 mm (A4) 102 × 127 (A6弱)			216 × 350 mm (A4)	A 5 ~ A 4
	本體만 16 萬 / 月 (賃借) 온라인		90 萬 / 月 (賃借)		本體만 50 萬 / 月 (賃借)
					購入 約 500 萬
					本體만 103.3 萬 / 月 (賃借)
					200 ~ 250 枚 / 分 (片面읽기)
					200 ~ 250 枚 / 分 (兩面同時읽기 可能)
					257 × 364 mm (B4) 182 × 257 (B5)
					本體만 103.3 萬 / 月 (賃借)
					日本電氣 (株)
					日本電氣 (株)
					N 7815 (現有機)
					N 7813
					日本電氣 (株)
					200 ~ 250 枚 / 分 (片面읽기)
					257 × 364 mm (B4) 182 × 257 (B5)
					本體만 103.3 萬 / 月 (賃借)

② OCR · OMR 併用機

區分	仕			樣	
	機器名	製造會社	讀取速度	帳票사이즈	價格
	POM-400 시리즈	유니백	220 枚 / 分	V-595	M 2483N M 2487
				東芝	三菱電機
				80 枚 / 分	37 枚 / 分
	A 4, B 4			A 4	A 3, A 4, B 4
	購入本體만 700 萬 ~ 2000 萬				購入 530 萬, 478 萬
					本體만 103.3 萬 / 月 (賃借)
					76.2 × 165.1 mm (B4 判弱) 228.6 × 355.6
					日本 IBM
					220 枚 / 分
					IBM 1288

## IV. 日本의 鑛工業關聯指數

## IV. 日本의 鑛工業關聯指數

### 1. 作成機關

通商産業省 大臣官房 調査統計部

### 2. 鑛工業指數 作成沿革

- 1934年, 商工省이 처음으로 1931~33年 基準 「工業生産量指數」를 1930.1月까지 溯及 作成
  - 鑛工業製品 31個品目
  - 附加價值 加重值 生産指數
- 1950年(5月), 通商産業省이 1946年 基準 生産指數를 試算 公表
- GHQ經濟科學局에서도 占領政策修行 必要上 生産指數 作成
- 經濟安定本部(企劃廳 前身), 다이아몬드社, 東洋 經濟新報社, 國際經濟協會 등 諸機關에서도 生産指數 發表
- 通商産業省이 1950年 基準指數로 改編
- 1955年基準 改編時부터 通産省에 單一化되었고, 作成方法의 體系가 確立
  - 途中에 開發된 生産, 出荷, 在庫, 稼動率, 能力, 原材料指數의 基準年度가 1955年으로 統一
- 1960, '65, '70, '75, '80年基準 改編
- 製造工業 生産豫測指數는 1969年 基準으로 처음 作成되었으나 1970年 基準으로 改編된 후, 同一補助로 基準年度 改編
- 1985年 改編作業은 今年 下半期에 計劃草案을 樹立하여, 作業推進한 후 1988.1月부터 發表 豫定

## 2. 指數 作成方法

### 가. 指數의 種類

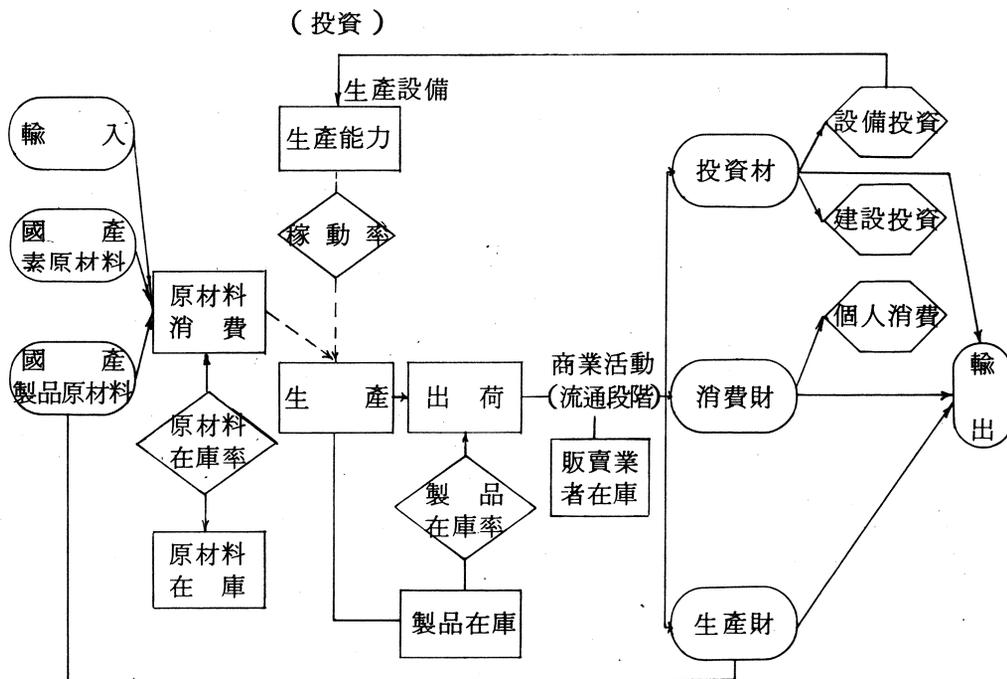
- (1) 生産指數(附加價值 加重值)
- (2) 生産指數(生産額 加重值)
- (3) 生産者 出荷指數
  - 國內用 出荷 • 輸出用 出荷
- (4) 生産者 製品 在庫指數
- (5) 生産者 製品 在庫率指數
- (6) 稼動率指數
- (7) 生産能力指數
- (8) 原材料 消費指數
- (9) 原材料 在庫指數
- (10) 原材料 在庫率指數
- (11) 販賣業者 在庫指數
- (12) 製造工業 生産豫測指數

### 나. 指數의 作成方法

- (1) 對象範圍
  - 生産・出荷指數 : • 鑛業, 製造業(鑛工業)
    - 電力, 가스 公益事業 追加(産業總合)
  - 在庫, 在庫率指數 : • 鑛業, 製造業
  - [ 稼動率・生産能力指數  
原材料 關聯指數 ] : 製造業

- 販賣業者 在庫指數：流通段階의 在庫
  - 生産豫測 指數：製造業
- (2) 基準年度
- 現行指數：1980年
  - 每5年 간격으로 基準年度 改編
- (3) 算式
- 基準年度 固定 加重 算術平均 等 (Laspeyres 算式)
- (4) 分類 (販賣業者 在庫指數以外)
- 業種分類：基本分類로서 日本標準 産業分類에 基礎함.

圖 1 鑛工業生産活動의 흐름



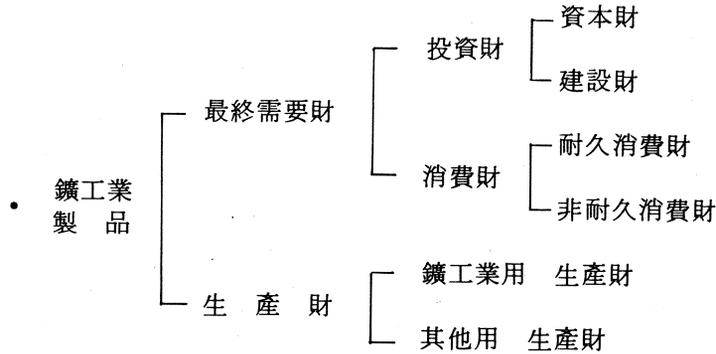
指數業種分類와 日本標準産業分類와의 對應

指 數	標 準 産 業 分 類
鑛 工 業	
鑛 業	大分類D 鑛業中 「131 採石業 및 자갈·玉石採取業」除外
製 造 工 業	大分類F 製造業
鐵 鋼 業	中分類「31 鐵鋼業」
非 鐵 金 屬 工 業	" 「32 非鐵金屬製造業」
金 屬 製 品 工 業	" 「33 金屬製品製造業」中 「3391 金庫製造業」 除外
機 械 工 業	" 「34 一般機械」 「35 電氣機器」 「36 輸送用機器」
	「37 精密機器」의 合計
一 般 機 械	" 「34」
電 氣 機 械	" 「35」
輸 送 機 械	" 「36」
精 密 機 械	" 「37」
窯業·土石製品	" 「30 窯業·土石製品製造業」
化 學 工 業	" 「26 化學工業」中 「264 化學纖維製造業」 除外
石油·石炭製品工業	" 「27 石油製品·石炭製品製造業」
펄프·紙·紙加工品	" 「24 펄프·紙·紙加工品製造業」
纖 維 工 業	" 「20 纖維工業」 「21 衣服·其他纖維製品」 「264 化纖」
木 材 · 木 製 品	" 「22 木材·木製品製造業」
食 料 品 · 담배工業	" 「18~19 食料·담배製造業」
其 他 工 業	
고무製品工業	" 「28 고무製品製造業」
皮 革 製 品 工 業	" 「29 原皮·同製品·毛皮製造業」
金 屬 製 家 具	細分「2312 金屬製家具」 「3391 全體」
프라스틱製品	小分「396 프라스틱製品 製造業」
其 他	中分「39 其他」中 「396 프라스틱製品」除外
公 益 事 業	中分類「70 電氣業」 「71 가스業」

※ 中分類「23 家具·裝置品製造業(2312 除外)」, 「25 出版·印刷業」은 非採擇業種임.

○ 特殊分類

- ① 財別 特殊分類 :  
 • 生産・出荷・在庫指數에 適用  
 • 財貨의 經濟的 用途 分類임



- ② 源泉別 特殊分類 : 原材料 關聯指數에 適用

(5) 採擇品目 및 加重值

< A. 生産・出荷・在庫・在庫率指數 >

① 採擇品目 選定

- 「生産動態統計調査」의 全品目を 生産額의 크기 順으로 나열하여 上位에서 加算하여 85%에 達하는 品目を 原則으로 一次 選定하고, 業種別・財別・特殊分類別 代表性을 고려하여 追加選定
- 「生産動態 統計調査」에서 調査 안되는 品目は 해당 省廳, 民間團體로부터 實績值 資料를 얻음.

○ 指數品目數

	生産・出荷	在 庫	在 庫 率
鑛 工 業	532	393	389
公 益 事 業	2	-	-
産 業 總 合	534	393	389

\* 代表率 : 鑛工業 約 60% (附加價值 基準)

② 採擇品目の 指數系列

- 原則적으로 數量系列을 指數系列로 하나, 33 個品目は 金額을 指數系列로 함.
- 33 個品目中 25 個品目は WPI 로 deflate 한 實質系列을, 8 個品目は 名目系列을 使用

③ 加重值 算定

- 1980 年 月平均 附加價值額, 生産額, 出荷額, 在庫額을 基礎로 算定
- 「工業統計調査」, 「本邦鑛業趨勢調査」를 中心的으로 使用하며, 「生産動態統計調査」 등 別途 資料를 補完, 加工 調整하여 算出
- 「工業統計調査」에서 生産額, 附加價值 計算
  - 生産額 = 製造業 出荷額 等 + ( 製造品 年末在庫額 - 製造品 年初在庫額 ) + ( 半製品・在工品 年末額 - 半製品・在工品 年初額 )
  - 附加價值額 = 生産額 - 製造業 出荷額에 포함된 內國消費稅額 - 原材料使用額 등 - 減價償却額
- 非採擇分の 加重值는 類似 採擇品目에 加算

< B. 稼働率・生産能力指數 >

① 對象範圍 및 分類

- 生産指數對比 除外 業種
  - 木材・木製品 製造業
  - 食料品・담배製造業

- 皮革製品 製造業
- 金屬製家具 製造業
- 프라스틱製品 "
- 其 他 "
- 窯業·土石製造業中 土石製造業
- 輸送用機器中 船舶, 鐵道車輛
- 化學工業中 醫藥品

○ 分類：業種分類만 있음.

② 採擇品目：• 「生産動態統計調査」에서 設備나 能力을 調査하고 있는 全品目 ( 146 個品目 )

• 代表率은 生産指數의 60 % 정도

• MITI 所管外 品目은 「生絲」(農林水産省)임

③ 加重値

• 稼動率指數：1980 年 月平均 附加價值額

• 生産能力指數：1980 年 月平均 生産能力 附加價值 評價額

(各 品目の 可能 生産數量을 計算하여 生産指數 作成때 適用한 平均單價 및 品目別 附加價值率 을 곱하여 推計)

④ 기 타

○ 實稼動率은 公表하지 않음.

○ 計算方法은 종합지수에서 算出하는 방법과 品目別 稼動率을 綜合하는 方法이 있는데, 1975 年 改編에 前者에서 後者로 變更함. 그러나 1985 年 指數改編作業에서 再檢討 豫定

〈 C. 原材料 消費・在庫・在庫率指數〉

① 對象範圍 및 分類

○ 除外業種

- 食料品・담배製造業
- 一部 其他製造業

② 分 類

○ 業種分類

○ 源泉別 特殊分類

- 原材料 {
  - 素原材料 (電力除外) {
    - 國產素原材料
    - 輸入素原材料
  - 製品原材料 (重油除外)
  - 電力
  - 重油

③ 採擇品目數斗 加重值

	原 材 料 消 費	原 材 料 在 庫 · 在 庫 率
品 目 數	262	203
加 重 值	1980 年 月 平均 原材料 消費額	1980 年 月 平均 在庫額

〈D. 販賣業者 在庫指數〉

- 一部業種 및 制限된 品目에 對하여 算出하므로 販賣業者의 在庫全體를 代表하지 못함.
- 流通 및 需給動態 統計調查에서 基礎資料 蒐集
  - 流通統計調查 :
    - 纖維, 洋紙, 機械器具 業種
    - 販賣業者를 對象으로 調查
  - 需給動態統計調查 :
    - 鐵鋼, 非鐵金屬, 石油製品, 石炭業種
    - 生産者, 販賣業者, 消費者를 對象으로 調查
- 採擇品目數 : 60 個 品目

表 1

生産・出荷・在庫指數の業種分類と細分類

<p>鑛業工業業 鑛業 石炭・亞炭鑛業業 金屬鑛業業 非金屬鑛業業 原油天然가스鑛業業 製造工業業 鐵鋼業 素製品(含鋼半製品) 熱間壓延鋼材 鋼管 冷間仕上鋼材 ㄷ ㄱ 鋼材 鑄鍛造品 特揭：普通鋼鋼材 非鐵金屬工業 非鐵金屬地金 非鐵金屬加工品 非鐵金屬鑄物 金屬製品工業 建設用金屬製品 建築用金屬製品 房熱機器 其他金屬製品 機械工業 同(除船舶・鐵道車輛) 一般機械工業 보 일 러 原動機 土木建設機械 化學機械 特殊產業機械 風水力機械・油壓機器 運搬機械 農業用機械 金屬加工機械 纖維機械 事務用機械 冷凍機・同應用製品 其他一般機械 一般機械部品 電氣機械部業 發電機 電動機</p>	<p>産業用電氣機械 民生用電氣機械 照明用器具 通信機械 라디오・TV・音響裝置 通信・電子部品 半導體素子・集積回路 電子計算機 醫用電子裝置 電氣計測器 電池 및 內燃機關電裝品 輸送機械工業 同(除船舶・鐵道車輛) 乘用車 버 트 스 리 크 自動車車體 自自動車部品 自輪自動 K D 세 트 自轉車 產業車 船舶 鐵道車輛 特揭：乘用車・버스・트럭 精密機械工業 計測機器 光熱機械・同部品 時 窯業・土石製品工業 유 리 ㆍ 유 리 製品 시 멘 트 製品 陶磁器 其他窯業・土石製品 化學工業 同(除醫藥品) 化學肥料 소 다 工業藥品 無機藥品・顏料 高壓가스 火藥類 石油系芳香族・콜타르製品 環式中間物・合成染料</p>	<p>有機藥品 纖維原스 티 크 合成고 무 寫眞感光材料 油脂製品・界面活性劑 塗料・印刷잉 크 醫藥品 特揭：石油化學製品 石油・石炭製品工業 石油製品 石炭製品 필프 ㆍ 紙 ㆍ 紙加工品工業 필프 紙 板紙 紙加工品 織維工業 製絲 化學織維 紡績 織物 染色整理 니 트 및 纖維二次製品 木材・木製品工業 食料品・담배工業 食料品(除飼料) 加工食品・調味料等 飲料 其他食料品 飼料 담배 其他工業 고 무 製品工業 皮革製品工業 金屬製家具工業 프 라 스틱 製品工業 其他製品工業 公益事業 産業總合 參考：鑛工業(除船舶) // : 化學工業(含化學纖維) // : 纖維工業(除化學纖維)</p>
--	---	---

表 2 生産・出荷・在庫・在庫率指数の業種別採擇品目數

業 種	生産・出荷	在 庫	在 庫 率
鑛 工 業	532	393	389
鑛 業	9	8	8
製 造 工 業	523	385	381
鐵 鋼 業	25	24	24
非 鐵 金 屬 工 業	16	13	13
金 屬 製 品 工 業	36	22	21
機 械 工 業	218	122	119
一 般 機 械 工 業	91	54	51
電 氣 機 械 工 業	81	38	38
輸 送 機 械 工 業	33	19	19
精 密 機 械 工 業	13	11	11
窯 業・土 石 製 品 工 業	25	25	25
化 學 工 業	79	77	77
石 油・石 炭 製 品 工 業	12	12	12
珪 三・紙・紙 加 工 品 工 業	12	12	12
織 維 工 業	31	31	31
木 材・木 製 品 工 業	3	3	3
食 料 品・飼 料 工 業	32	11	11
其 他 工 業	34	33	33
立 早 製 品 工 業	8	8	8
皮 革 製 品 工 業	2	2	2
金 屬 製 家 具 工 業	5	5	5
珪 三 製 品 工 業	12	12	12
其 他 製 品 工 業	7	6	6
公 益 事 業	2	—	—
産 業 總 合	534	393	389

表 3

## 生産・出荷・在庫・在庫率指數の業種別加重値

業 種	生 産 (附加價值額)	生 産 (生 産 額)	出 荷	在 庫
鑛 工 業	10,000.0	10,000.0	10,000.0	(9,933.0) 10,000.0
鑛 業	65.5	30.9	32.9	28.0
製 造 工 業	9,934.5	9,969.1	9,967.1	(9,905.0) 9,972.0
鐵 鋼 業	818.2	1,495.8	900.8	1,113.0
非 鐵 金 屬 工 業	265.3	367.3	372.2	384.9
金 屬 製 品 工 業	507.3	350.8	385.0	( 405.7) 445.7
機 械 工 業	3,811.4	3,089.5	3,384.5	(2,472.9) 2,499.9
一 般 機 械 工 業	1,200.5	802.4	870.2	( 768.4) 795.4
電 氣 機 械 工 業	1,380.5	1,024.4	1,120.3	1,003.9
輸 送 機 械 工 業	1,056.9	1,143.3	1,262.4	602.8
精 密 機 械 工 業	173.5	119.4	131.6	97.8
窯 業・土 石 製 品 工 業	585.8	418.9	447.9	586.4
化 學 工 業	943.8	908.0	899.7	1,198.2
石 油・石 油 製 品 工 業	251.6	900.7	934.7	1,492.9
필름・紙・紙加工品工業	308.8	362.0	353.9	279.3
織 維 工 業	747.8	485.4	534.3	634.4
木 材・木 製 品 工 業	265.8	257.0	282.1	259.1
食 料 品・食 料 工 業	811.7	864.1	955.9	572.7
其 他 工 業	617.0	469.6	561.1	505.5
고 무 製 品 工 業	154.3	115.1	126.8	83.2
皮 革 製 品 工 業	58.2	45.6	50.4	55.0
金 屬 製 家 具 工 業	30.4	22.4	24.6	44.9
프 라 스틱 製 品 工 業	290.9	241.1	264.3	256.4
其 他 製 品 工 業	83.2	45.4	50.0	66.0
公 益 事 業	609.8	534.6	586.6	0.0
産 業 總 合	10,609.8	10,534.6	10,586.6	(9,933.0) 10,000.0

註：( )内는 在庫率 加重値

表 4 稼働率 및 生産能力指數의 業種別 採擇品目數와 加重値

業 種	品 目 數	稼 働 率 加 重 値	生 産 能 力 加 重 値
製 造 工 業	146	10,000.0	10,000.0
鐵 鋼 業	5	867.0	1,078.6
非 鐵 金 屬 工 業	10	414.0	398.3
金 屬 製 品 工 業	4	313.4	370.4
機 械 工 業	53	4,480.8	4,098.6
一 般 機 械 工 業	14	1,379.5	1,418.2
電 氣 機 械 工 業	27	1,603.0	1,556.7
輸 送 機 械 工 業	7	1,254.3	919.3
精 密 機 械 工 業	5	244.1	204.4
窯 業	5	483.4	556.1
化 學 工 業	49	1,070.2	1,198.0
石 油 · 石 油 製 品 工 業	2	445.3	471.0
뽀프 · 紙 · 紙 加 工 品 工 業	4	546.5	550.4
纖 維 工 業	13	1,226.9	1,156.0
고 早 製 品 工 業	1	152.5	122.0

表 5 原材料消費・在庫・在庫率指數의 業種別 品目數와 加重値

業 種	品 目 數	消費加重値	在庫・在庫率 加 重 値
製 造 工 業	262	10,000.0	10,000.0
鐵 鋼 業	18	1,140.7	1,789.5
非 鐵 金 屬 工 業	21	532.9	539.1
金 屬 製 品 工 業	4	387.8	453.6
機 械 工 業	61	3,255.3	973.7
一 般 機 械 工 業	21	764.3	408.9
電 氣 機 械 工 業	21	918.2	321.9
輸 送 機 械 工 業	19	1,572.8	242.9
窯 業 · 土 石 製 品 工 業	24	449.3	440.0
化 學 工 業	53	1,075.0	724.7
石 油 · 石 油 製 品 工 業	9	1,340.4	2,442.2
펄프 · 紙 · 紙 加 工 品 工 業	13	461.2	558.0
纖 維 工 業	36	607.6	958.1
木 材 · 木 製 品 工 業	3	279.6	617.0
其 他 工 業	20	470.2	504.1
고 무 製 品 工 業	8	198.1	158.9
皮 革 製 品 工 業	3	15.9	16.8
프 라 스 틱 製 品 工 業	9	256.2	328.4

(6) 指數編製 基礎資料(生産・出荷・在庫・稼・能・原指數)

生産指數品目 532 個 品目中 493 個 品目は 生産動態 統計調査에서 調査되며, 나머지 39 個 品目は 該當 省廳의 調査資料를 利用

① 生産動態 統計調査

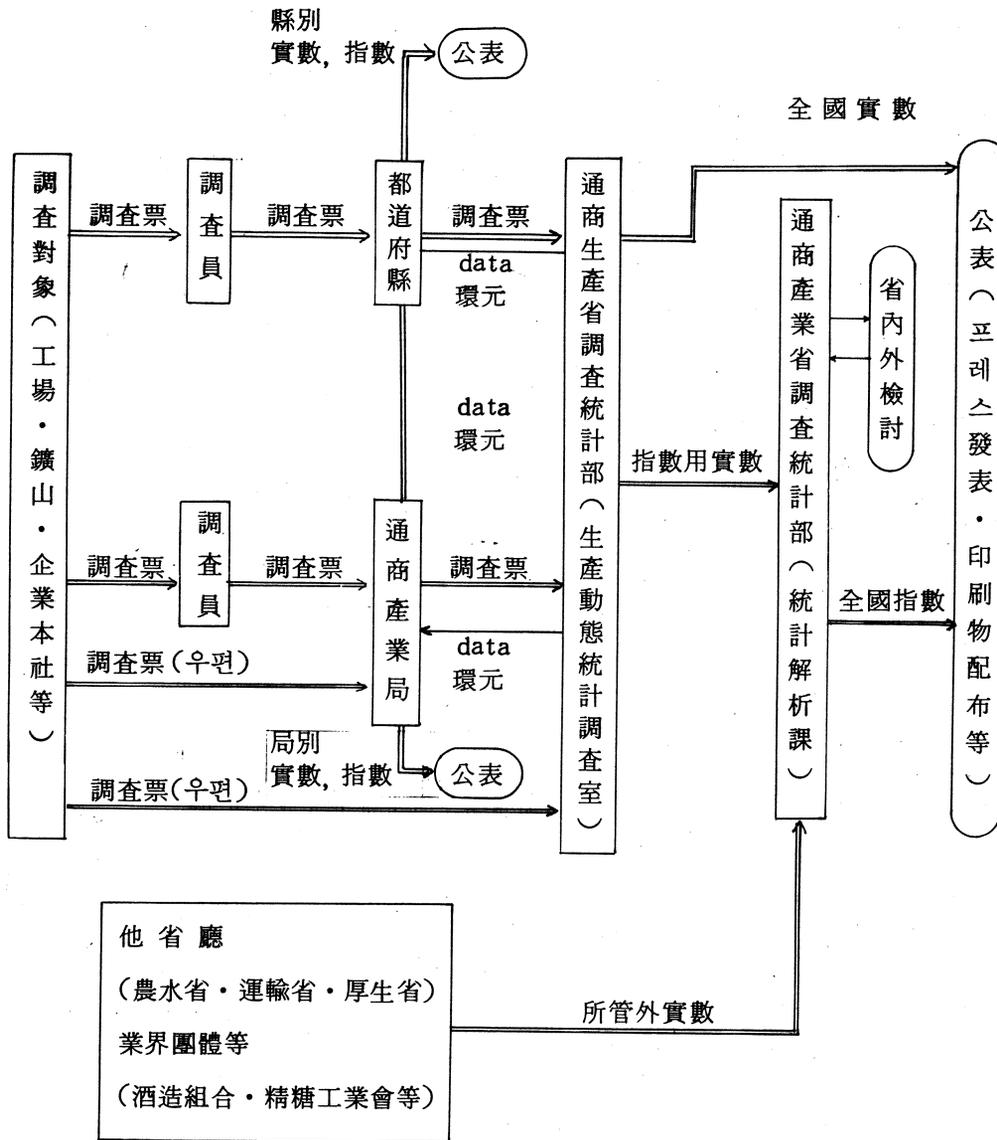
- 約 3,000 個 鑛工業 製品을 生産하는 事業體를 對象
- 生産, 出荷, 在庫, 原材料 消費・在庫, 生産能力을 每月 調査함.
- 業種의 生産活動 特性에 따라 150 種 以上の 調査票 樣式이 있음.
- 調査方法은 事業體의 自計申告方式이나 調査票 提出經路가 다양함.

- 調査員 蒐集
- 郵 送
- 都道府縣 經유
- 地方 MITI 經유

② 通産省 以外の 統計資料 利用

- 船 舶 : 「造船造機 統計調査」(運輸省)
- 鐵道車輛 : 「鐵道車輛 生産動態 統計調査」(運輸省)
- 醫藥品 : 「藥事工業 生産動態 統計調査」(厚生省)
- 生絲(1), 製材・合板(3) : 農林水産省
- 食料品(26 個品目) : 農林水産省 및 業界團體
- 酒 類 (5 個品目) : 各酒類組合
- 담 배 (1 個品目) : 日本담배産業株式會社

圖 2. 調査票 蒐集에서 指數公表까지의 흐름



(7) 公 表

① 「生産・出荷・在庫統計速報」

- 翌月 26～27日頃 公表
- 収録指数
  - 附加価値 加重値 生産指数
  - 出荷指数
  - 生産者製品 在庫指数
  - 生産者製品 在庫率 指数
  - 生産予測指数
- 例, '86.1月例 '85.12月分 発表

② 「生産・出荷・在庫指数 確報」

- 翌 翌月 15～16日頃 発表
- 収録指数
  - 附加価値 加重値 生産指数
  - 出荷指数
  - 生産者製品 在庫指数
  - " 在庫率 指数
  - 稼働率指数
  - 生産能力指数
- 例, '86.2月例 '85.12月分 発表

③ 「原材料 統計速報」

- 翌 翌月 15～16日頃 発表
- 収録指数
  - 原材料 消費指数
  - " 在庫
  - " 在庫率
  - 販賣業者 在庫指数:前月 分速報 吳 前前月分確報

- 例, '86.2 月에 原材料는 '85.12 月分, 販賣業者在庫는 '85.11 月分

④ 「通産統計」

- 毎月 25 日頃 發刊
- 各指數와 通産省 實施 他統計調査結果 收錄

⑤ 「鑛工業 生産動向」

- 分期別로 發刊(3, 6, 9, 12 月分 生産指數 確報公表時)
- 生産關聯指數의 綜合動向分析 報告書임.
- 出荷指數를 輸出用, 國內用指數로 區分한 “鑛工業 出荷內譯表” 를 分析 掲載함.
- 12 月分時에는 年間 動向分析이 掲載됨.

⑥ 「鑛工業指數 年報」

- 翌年 7 月 發刊(指數의 年間 補正後)
- “生産額 加重值 生産指數”도 掲載됨.

⑦ 「鑛工業 指數總覽」

- 5 年 週期의 指數 改編結果를 收錄 發刊

(8) 年間補正

- 生産動態 統計調査는 月別 既調査實績値를 年 1 回 決算書利用 全面的으로 確定値로 再調査함으로써 既調査數値(每月調査)를 修正
- 이에 따라 鑛工業指數도 全面 再計算하게 되며, 이때에 季節調整指數도 1 年間 data 를 追加하여 새로 算出하게 되는데 이러한 作業을 年間補正이라 하고 있음.
- 3 月分 確報公表時 公表함.

- 生産, 出荷, 在庫率, 稼働率, 生産能力指數
  - 翌年 5月中旬 公表
- 原材料 消費・在庫・在庫率, 販賣業者 在庫指數
  - 翌年 6月中旬 公表
- 年間補正後 諸指數 確定時系列을 「鑛工業 指數年報」로 發刊
  - 翌年 7月
  - “生産額 加重值 生産指數”도 掲載

(9) 基準年度 改編

- 5年週期임.(0,5字年度)
- 新基準指數는 基準時의 2年前까지 소급 作成
  - 1980年 基準指數 → 1978.1月分부터 新基準指數 計算
- 指數接續
  - 兩基準年度의 中間時點에서 接續
 

例  $\left[ \begin{array}{l} 1980\text{年 基準指數 : } 1978.1 \\ 1975 \quad \quad \quad \quad : 1973.1 \end{array} \right]$
  - 1980年 基準指數는 1987年까지 作成, 公表
  - 1985年 基準指數는 1983.1以後 系列을 作成, 1988初부터 公表
  - 이때 1980年 基準指數와 1985年 基準新指數가 重複되는 1983.1~1987.12까지는 廢棄되며 그 以前의 것은 接續指數가 됨.
  - 接續係數 =  $\frac{\text{'85年基準 '83.1~3月 平均指數(季節調整)}}{\text{'80年基準 '83.1~3月 平均指數(季節調整)}}$
  - 이 接續係數를 1980年基準의 1978.1~1982.12까지의 指數에 곱하여 1985 = 100 指數로 換算

- 1980年基準과 1975年基準指數와의 接續은 1978.1~3月比率로서 同一하게 計算함.
- 이를 反復하면 1985 = 100의 指數가 長期過去 계열까지 소급하여 작성됨.

(10) 季節調整

MITI法 Ⅲ으로 調整

※ MITI法 使用理由

- 특별한 이유는 없고, 계속 사용하였기 때문임.
- 그러나 컴퓨터 性能에 제약이 있었던 과거에는 MITI法이 census方法에 比하여 간단하므로, 처리기간이 短縮되며, 5年間の 指數系列로도 계산이 可能的 利點이 있음.
- Trading-day 調整은 없음.

(11) 製造工業 生産豫測 指數

生産指數의 向後 2個月에 對하여 每月 豫測하려는 指數로서 同指數 編製를 위하여 「製造工業 生産豫測指數 調査」를 實施하고 있음.

< 調査概要 >

○ 調査對象品目

生産動態 統計調査에 準하여 通産省 所管 製造業에 屬하는 主要 製品 133個 品目

○ 調査對象

企業體를 對象으로 하며, 調査品目別로 生産量의 上位에서부터 累計하여 約 80%를 包括하는 企業

- 調査内容
  - 前月の 生産実績, 当月 및 翌月の 豫測生産量
- 調査期日
  - 毎月 10日 現在
- 調査方法
  - 郵便調査에 의한 自計申告方式
- 集計方法
  - 마크-시트에 의한 集計方式

〈 豫測指數의 作成方法 〉

- 基準時
  - 1980年
- 採擇品目
  - 133個 品目
- 總合算式
  - 基準時 固定加重算術 平均算式
- 加重値
  - 附加價值 加重値
  - 採擇品目에서 豫測調査 非對象 企業分の 附加價值는 採擇品目に 包含되나, 非採擇 品目分の 附加價值는 加重値 算定에서 除外
- 季節調整方法
  - MITI法 III
- 公表分類
  - 製造業, 鐵鋼業, 非鐵金屬工業, 機械工業, 化學

- 輕工業( 고무, 紙, 纖維의 計), 紙, 펄프, 기타
- 公表內容
  - 當月豫測, 翌月豫測의 季節調整 前月比
  - 前月に 對한 實現率, 當月に 對한 豫測修正率
- 〈實現率과 豫測修正率〉
- 實現率
  - 前月に 豫測한 當月の 數值가 1個月 經過하여 前月の 實績值  
가 된 경우에 어느 程度 實現되었는가를 나타냄.
  - 實現率 = 
$$\frac{\text{當月調査에 의한 前月實績指數(季調)}}{\text{前月調査에 의한 當月豫測指數(季調)}}$$
- 豫測修正率
  - 前月に 豫測한 翌月の 數值가 1個月 經過하여, 前月の 實現率  
을 根據로 當月の 豫測值로서 어느 정도 修正되었는가를 나타  
냄.
  - 豫測修正率 = 
$$\frac{\text{當月調査에 의한 當月豫測指數(季調)}}{\text{前月調査에 의한 翌月豫測指數(季調)}}$$

(12) 地域別 鑛工業指數

① 通商産業局別 指數

- 通産省(MITI)의 地域機關인 8個의 通商産業局에서 當該管內의  
指數를 每月 作成
- 生産(V.A.加重值), 出荷, 在庫, 在庫率指數 作成

② 都府縣別 指數

- 46個縣에서 縣單位指數, 每月 作成
- “附加價值 加重值 生産指數” 作成

表 6

通商産業局の 所管地域과 指數의 公表時期

通商 産業局	所管 道府 縣	公 表 時 期	通 商 産 業 局	所 管 道 府 縣	公 表 時 期
札 幌	北海道	速報：翌月 29 日頃 確報：速報에서 1 個月 遅延	大 阪	福 井 滋 賀 京 都 大 阪 兵 庫 奈 良 和歌山	速報：翌月 5 日頃 確報：翌月 25 日頃
仙 台	青 森 岩 手 秋 田 宮 城 山 形 福 島	速報：翌月 6 日頃 確報：翌月 24 日頃		廣 島	鳥 取 島 根 岡 山 廣 島 山 口
東 京	茨 城 栃 木 群 馬 埼 玉 千 葉 東 京 神奈川 新 瀧 山 梨 長 野 靜 岡	速報：翌月末頃 確報：速報에서 1 個月 遅延	四 國	德 島 香 川 愛 媛 高 知	速報：翌月 30 日頃 確報：速報에서 3 個月 遅延
			福 岡	福 岡 佐 賀 長 崎 大 分 熊 本 宮 崎 鹿 兒 島	速報：翌月末 確報：速報에서 1 個月 遅延
名 古 屋	富 山 石 川 岐 阜 愛 知 三 重	速報：翌月末～ 翌月初 確報：翌月 15 日頃			

表 7

都府縣別指數の 作成狀況

都府縣	指數の種類	公表時期	都府縣	指數の種類	公表時期
青森	生	翌月 23 日頃	滋賀	生	翌月末
岩手	生	" 25 "	京都	生	" 26-27 日頃
宮城	生	" 25 "	大阪	生・出・在	" 末
秋田	生	" 25 "	兵庫	生	" 21 日頃
山形	生・在	" 25 "	奈良	生	" 中旬
福島	生・出・在	" 23 "	和歌山	生	" 25 日頃
茨城	生・出・在	翌月末	鳥取	生	翌月 16 日頃
栃木	生・出・在	"	島根	生	" 20 "
群馬	生・出・在	3 個月後 中旬～下旬	岡山	生・出・在	" 中旬
埼玉	生・出・在	翌月 中旬	廣島	生・出・在	" 第三月曜日
千葉	生・出・在	" 末	山口	生・出・在	" 中旬
東京	生・出・在	" "	徳島	生	翌月 15 日頃
神川	生・出・在	" 25 日頃	香川	生	" 15 "
新潟	生・出・在	" 25 "	愛媛	生	" 15 "
山梨	生・出・在	3 個月後の 中旬	高知	生	" 15 "
長野	生・出・在	翌月末	福岡	生・出・在	翌月 下旬
静岡	生	"	佐賀	生・出・在	" 10 日
富山	生・在	翌月 20 日頃	長崎	生	" 下旬
石川	生・出・在	" 25 "	熊本	生・出・在	" 10 日
崎阜	生・出・在	3 個月後の 6 日頃	大分	生・出・在	" 下旬
愛知	生・出・在	翌月 第二月曜日	宮崎	生・出・在	" 下旬
三重	生・在	" 末頃	鹿兒島	生・出・在	" 下旬
福井	生	" 20 日頃	沖繩	生・出	" 28 日頃

〈參考〉 生産動態 統計調査 調査票의 樣式 (通産省 所管業種)

1. 石炭月報
2. 코크스月報
3. 原油 및 天然가스月報
4. 金屬鑛物月報
5. 非金屬鑛物月報 ( 2種 )
6. 구리스月報
7. 石油製品月報 ( 2種 )
8. 非鐵金屬月報 ( 30種 )
9. 알미늄月報
10. 알미나月報
11. 非鐵金屬製品月報 ( 6種 )
12. 鑛鋼月報 ( 12種 )
13. 機械器具月報 ( 52種 )
14. 粉末冶金製品月報
15. 鍛工品月報
16. 銑鐵鑄物月報
17. 可鍛鑄鐵 및 精密鑄造品月報
18. 非鐵金屬鑄物月報
19. 다이카스트月報
20. 암모니아 및 암모니아 誘導品月報
21. 갈슘 카바이트 및 石灰窒素月報

22. 인산비료 및 複合肥料月報
23. 化學肥料中繼地月報
24. 硫酸月報
25. 소다工業 藥品月報 ( 2 種 )
26. 火藥類月報
27. 콜달製品月報
28. 有機藥品月報
29. 石油化學製品月報
30. 寫眞感光材料月報
31. 無機·藥品·顔料 및 觸媒月報
32. 石灰月報
33. 高壓가스月報
34. 環式中間物 및 合成染料月報
35. 프라스틱月報 ( 2 種 )
36. 油脂製品 및 界面活性劑月報 ( 2 種 )
37. 塗料月報
38. 印刷잉크月報
39. 고무製品月報 ( 4 種 )
40. 프라스틱 製品月報
41. 시멘트 月報
42. 板유리 月報
43. 安全유리 및 複層유리 月報

44. 耐火煉瓦月報
45. 炭素製品月報
46. 유리纖維月報
47. 研削砥石月報
48. 石膏製品月報
49. 石綿製品月報
50. 纖維板 및 파티클 보드月報
51. 金屬製建具月報
52. 프리워브 建築用 파넬月報
53. 시멘트製品月報
54. 化學纖維月報(2種)
55. 紡績絲月報(2種)
56. 織物生産月報(6種)
57. 敷物·펠트·不織布月報
58. 染色整理月報(3種)
59. 니트·衣服縫製品月報(3種)
60. 細幅織物·레스月報
61. 漁網月報
62. 麻網·合成纖維網月報
63. 製綿·이불月報
64. 팔프月報(3種)
65. 紙月報(4種)

66. 板紙月報 ( 3 種 )
67. 세로판月報
68. 段摺月報
69. 樂器月報
70. 金屬製家具月報
71. 輕金屬板製月報
72. 文具月報
73. 범랑鐵器月報
74. 金屬洋食器月報
75. 玩具月報
76. 工業用革製品月報
77. 革靴月報
78. 製革月報
79. 유리製品月報
80. 陶磁器月報

## 4. 指數系列의 維持管理問題

### 가. 統計調査 變更에 따른 指數의 連續性 維持

#### (1) 時系列의 斷層

調査對象이 되는 品目の 生産中斷, 새로운 調査品目新設, 定義變更, 調査規模의 變更 등으로 인하여 指數에 採擇되고 있는 個個品目の 實數에 對하여 지금까지의 實績値와 時系列로 연속되지 않는 경우가 생기는데 이를 時系列의 斷層이라 함.

#### (2) 斷層의 要因

- ① 調査規模의 變更
- ② 調査對象의 漏落
- ③ 品目の 定義變更
- ④ 項目의 定義變更:
  - 出荷에 販賣와 自家消費 包含→販賣와 其他로 區分
- ⑤ 調査對象이 되는 生産工程이나 去來形態등의 變更

#### (3) 斷層處理·링크係數의 作成方法

- 1월부터 修正한다고 假定

##### ① 新舊並行調査의 實施

$$\text{Link 係數}(\theta) = \frac{\text{舊實數}(12\text{月})}{\text{新實數}(12\text{月})} \quad \text{또는} \quad \frac{\text{舊實數}(1\text{月})}{\text{新實數}(1\text{月})}$$

$$\text{個別指數用 實數} = \text{新實數} \times \theta$$

##### ② 類似統計調査에 依한 推計

$$\text{Link 係數} = \frac{\text{舊實數}(12\text{月})}{\text{新實數}(1\text{月})} \times \frac{\text{類似統計}(1\text{月})}{\text{類似統計}(12\text{月})}$$

- 業界團體의 統計가 當該個別系列에 대하여 있으면 이를 使用하여 計算

- 生産에 의한 原材料 消費, 生産金額에서 生産數量의 推計등도 包含.
- 類似統計의 連續性이 維持될 수 있는지 兩者의 比例性(代表性)에 對한 充分한 檢討가 必要.

③ 連續하는 部分에서의 推計

- 몇個 品目の 合計를 個別系列로 하고 있고, 이미 特定部分에 對하여 斷層이 생기는 경우에는 그 部分을 除外한 것으로 Link 係數를 計算함. 調查對象中 특정의 對象에 對하여 斷層이 생기는 경우에도 方法論은 同一함.

이 경우 Link 係數의 作成方法은 ②와 同一함.

- 그러나 종래 2品目으로 調查되었기 때문에 別途 個別系列이었던것이 1品目に 統合되는 경우에는 다음과 같이 접속함.

(종래 A, B品目 → (A+B)에 統合)

$$\begin{aligned}
 & \bullet \text{ A品目 Link 係數 } (l_A) = \frac{A_{12}}{A_{12} + B_{12}} \\
 & \bullet \text{ A品目 個別指數用實數} = (A+B)_t \times l_A \\
 & \bullet \text{ B品目 Link 係數 } (l_B) = \frac{B_{12}}{A_{12} + B_{12}} \\
 & \bullet \text{ B品目 個別指數用實數} = (A+B)_t \times l_B
 \end{aligned}$$

- 종래 A와 B로 調查되었으나 分類의 變更으로 A', B'로 되어, (A+B)와 (A'+B')로는 連續되나 個別로는 連續되지 않는 경우는 다음과 같음.

$$\begin{aligned}
 & \bullet \text{ A品目 Link 係數 } (l_A) = \frac{(A'+B')_1}{(A+B)_{12}} \times \frac{A_{12}}{A_1} \\
 & \bullet \text{ A品目 個別指數用實數} = A'_t \times l_A \\
 & \bullet \text{ B品目 Link 係數 } (l_B) = \frac{(A'+B')_1}{(A+B)_{12}} \times \frac{B_{12}}{B_1} \\
 & \bullet \text{ B品目 個別指數用實數} = B'_t \times l_B
 \end{aligned}$$

④ 漏落回收 및 Cut-off 등의 경우

(i) 漏落回收

$$\text{Link 係數} = \frac{\text{公表値(1月)} - \text{回收分(1月)}}{\text{公表値(1月)}}$$

(ii) Cut-off

$$\text{Link 係數} = \frac{\text{公表置(12月)}}{\text{公表値(12月)} - \text{Cut-off分(12月)}}$$

(iii) 兩者가 同時に 發生하는 경우

$$\text{Link 係數} = \frac{\text{公表値(1月)} - \text{回收分(1月)}}{\text{公表値(12月)} - \text{Cut-off分(12月)}} \times \frac{\text{公表値(12月)}}{\text{公表値(1月)}}$$

(iv) 12月の 漏落回收分 數値가 使用 가능한 경우

$$\text{Link 係數} = \frac{\text{公表置(12月)}}{\text{公表値(12月)} + \text{回收分(12月)}}$$

(v) 마찬가지로 同時に Cut-off이 된 경우

$$\text{Link 係數} = \frac{\text{公表置(12月)}}{\text{公表値(12月)} + \text{回收分(12月)} - \text{Cut-off分(12月)}}$$

⑤ 保合推計

調査方式의 變更이나 Sample 調査設計 變更등 調査內容등이 대폭 變化하여 ① ~ ④方式의 適用이 不可能한 경우에 증지된 1月은 12月과 같다고 假定하여 處理(物價指數에서의 保合處理)하며 季節變動이 크기때문에 季節調整 系列에서 保合推計를 함.

$$\text{Link 係數} = \frac{\text{舊實數(12月)} \times \text{季節指數 前月比(1月)}}{\text{新實數(1月)}}$$

나. 新規 등장 品目에 대한 指數의 中間補正

(1) 中間補正 必要性

- 鑛工業 生産指數가 生産活動의 實勢를 反映하는 代表性이 저하되는 要因의 하나로, 新製品의 出現과 採擇品目的 質的 變化에 의한 代表率의 變化를 들 수 있음.
- 特히 地域指數에서는 新規工場의 立地에 의해 産業構造가 大폭 變化하여 基準時의 品目構成에 의한 指數의 有效性이 大폭 저하되는 경우가 있으며, 이 경우에는 基準을 改編하여 새로운 指數에 의하여 動向을 觀察하는 것이 基本的인 方法이나 이는 事實上 困難하므로 指數의 代表性을 維持하기 위하여 指數를 補正함.

(2) 補正方法

- ① 當該 新規製品의 數值를 類似採擇品目에 換算하여 包含
- ② 當該 新規製品이 그 地域에서는 新規産業이 되어 ①이 困難한 경우에는 總和法的인 基本原則下에 新規分을 從來의 指數水準에서 올려줌.

A. 類似 採擇品目에 換算하여 合算하는 方法

例 1 新規로 大量 VTR이 生産되는 경우 (중래는 칼라 TV 生産)

• 칼라 TV			
1980 (基準時)	1個月平均	生産數量	2,000台
		單價	64,000円
		weight	20.0 (1萬分比)

1985 (比較時)	1個月平均	生産數量	3,500臺
		單價	54,000円
		個別指數	175.0
• VTR			
1985	1個月平均	生産數量	1,500臺
		單價	83,000円

- ① 1985年 VTR 과 칼라TV의 單價의 比率을 구하면

$$\frac{83,000}{54,000} = 1.537$$

이 되는데, 이는 VTR 1대의 生産金額이 칼라TV 1.537臺의 生産金額에 相當함을 意味함.

- ② 따라서, VTR 1,500臺의 生産은 칼라TV 換算으로

$$1,500 \times 1.537 = 2,306 \text{ 臺}$$

生産한 것이 되어, 칼라TV와 VTR (칼라TV換算)의 合計 生産數量은  $3,500 + 2,306 = 5,806$ 臺가 됨.

- ③ 修正後의 個別指數는

$$\frac{5,806}{2,000} \times 100.0 = 290.3 \text{ 이 됨.}$$

- ④ 이는 칼라TV · VTR 合計 個別指數로서, weight 20.0으로 加重 平均하여 總合指數를 算出

- ⑤ 月別指數에 대하여도 같은 方法으로 計算함.

즉 當該月の VTR 生産數量에 換算比率 1.537을 곱한 數量을 칼라TV의 生産數量에 더해, 칼라TV · VTR 合計數量으로 통상의 指數計算을 함.

B. 종래의 指數水準을 올리는 方法

例 2 輸送機械工業生産이 거의 없었던 地域에서 새로이 乘用  
車가 生産된 경우

< 總和法 >

• 修正前 鑛工業總合		
• 80年 月平均 附加價值額	2,000,000 千円	
• 85年 鑛工業 總指數	190.0	
• 修正前 機械工業		
• 80年 平均 附加價值額 ( weight 基準額 )	600,000 千円	
• 加重值	3,000.0 (1萬分比)	
• 85年 機械工業 生産指數	250.0	
• 乘用車의 85年 月平均 生産數量	1,000 台	
• 1台當 單價	810,000 円	
• 附加價值率	20.0 %	
• 1台當 附加價值額		
	$810,000 \times 0.2$	$= 162,000 円$

① 乘用車의 85年 月平均 附加價值額

$$162,000 \text{ 円} \times 1,000 \text{ 台} = 162,000 \text{ 千円}$$

② 修正前 機械工業의 85月平均 附加價值額

$$600,000 \times 2.500 = 1,500,000 \text{ 千円}$$

③ 修正後 機械工業의 85月平均 附加價值額

$$1,500,000 + 162,000 = 1,662,000 \text{ 千円}$$

④ 修正後 85年 機械工業 生産指數는

$$\frac{1,662,000}{600,000} \times 100.0 = \boxed{277.0}$$

<加重平均法>

修正後 85年의 機械工業 生産指數는

$$\begin{aligned} & \frac{600,000 \times 2.500 + 162,000 \times \frac{1,000}{1,000}}{600,000} \times 100.0 \\ &= 250.0 + \frac{162,000 \times 1,000}{600,000} \times 100.0 \\ &= 250.0 + 0.27 \times 100.0 = \boxed{277.0} \end{aligned}$$

<修正後 85 鑛工業 總指數>

$$\begin{aligned} & \frac{2,000,000 \times 1.900 + 162,000 \times \frac{1,000}{1,000}}{2,000,000} \times 100.0 \\ &= 190.0 + \frac{162,000 \times 1,000}{2,000,000} \times 100.0 \\ &= 190.0 + 0.081 \times 100.0 = \boxed{198.1} \end{aligned}$$

만약, 

86年 1月의 乘用車 生産量	1,200 台	}	이 라 면
86年 1月의 修正前 機械工業 生産指數	260.0		
86年 1月의 修正前 鑛工業 總指數	195.0		

〈修正後 86.1月 機械工業 生産指數〉

$$260.0 + \frac{162,000 \times \frac{1,200}{1,000}}{600,000} \times 100.0$$

$$= 260.0 + \frac{162,000 \times 1.2}{600,000} \times 100$$

$$= 260.0 + 0.27 \times 120.0 = \boxed{292.4}$$

〈修正後 86.1月 鑛工業 總指數〉

$$195.0 + \frac{162,000 \times \frac{1,200}{1,000}}{2,000,000} \times 100.0$$

$$= 195.0 + 0.081 \times 120.0 = \boxed{204.7}$$

(一般化) ↓↓

修正前指數 + (新規品目的 加重値) × (新規品目指數)

- 新規品目加重値 =  $\frac{\text{新規品目的 追加年度の 附加價值額}}{\text{當該業種(or 總指數)의 基準時 weight 基準額}}$
- 新規品目指數 =  $\frac{\text{當該月の 生産量}}{\text{追加年度の 月平均生産量}} \times 100.0$

C. 採擇品目內的 構成變化에 따라 修正

例3 「샷쉬(合計重量)」을 採擇品目으로 하고 있는 경우, 基準時에는 steel 샷쉬 生産에 비하여 알미늄샷쉬 生産이 적었는데 그후 스틸샷쉬에서 알미늄샷쉬로 代替됨에 따라 「샷쉬(合計重量)」로는 實勢를 反映하지 않게 됨.  
(∵ 알미늄샷쉬가 스틸샷쉬보다 가벼움)

- 알미늄샷쉬

80年 月平均 生産量 200 t

t 當 單價 1,200 千円

85年 月平均 生産量 500 t

- 스틸샷쉬

80年 月平均 生産量 1,000 t

t 當 單價 500 千円

85年 月平均 生産量 1,100 t

- 샷쉬 (合計重量)

80年 月平均 生産量 1,200 t

t 當 單價 616.7 千円

85年 月平均 生産量 1,600 t

① 修正前 샷쉬 (合計重量)의 '85年의 個別指數는

$$\frac{1,600}{1,200} \times 100.0 = 133.3 \text{ 임.}$$

② 알미늄샷쉬와 스틸샷쉬가 別個의 採擇品目이라고 하면 샷쉬  
合計의 生産額 weight 指數 (附加價値率이 같다면 附加價値  
加重值指數와 같음)는

$$\frac{1,200 \times 500 + 500 \times 1,100}{1,200 \times 200 + 500 \times 1,000} \times 100 = 155.4 \text{ 가 됨.}$$

換算比率

$$\text{알미늄샷쉬} \quad \frac{1,200}{616.7} = 1.946$$

$$\text{스틸 샷취} \frac{500}{616.7} = 0.811$$

$$\therefore 85 \text{年 換算數量} = 500 \times 1.946 + 1,100 \times 0.811 = 1,865 \text{ t}$$

$$\text{修正後 샷취 個別指數} = \frac{1,865}{1,200} \times 100 = \boxed{155.4}$$

#### D. 中間補正의 判斷

전혀 새로운 品目이 生産指數에 包含될 경우

$$Q = \frac{\sum p_o q_t}{\sum p_o q_o} = \sum \frac{p_o q_o}{\sum p_o q_o} \times \left( \frac{q_t}{q_o} \right) \dots\dots\dots \text{修正前 指數}$$

$$Q' = \frac{\sum p_o q_t + p_{e'} q_{t'}}{\sum p_o q_o} = \frac{\sum p_o q_o \times \left( \frac{q_t}{q_o} \right) + \sum p_{e'} q_{m'} \times \left( \frac{q_{t'}}{q_{m'}} \right)}{\sum p_o q_o}$$

$$= \sum \frac{p_o q_o}{\sum p_o q_o} \times \left( \frac{q_t}{q_o} \right) + \frac{p_{e'} q_{m'}}{\sum p_o q_o} \times \left( \frac{q_{t'}}{q_{m'}} \right)$$

$$= Q + \frac{p_{e'} q_{m'}}{\sum p_o q_o} \times \frac{q_{t'}}{q_{m'}} \dots\dots\dots \text{修正後 指數}$$

- $p_{e'}$  : 새로 包含될 品目的 單位當 附加價值額
- $\frac{p_{t'}}{q_{m'}}$  : m 시점을 基準으로 t 시점에서 의 새로운 品目的 個別指數

- 이때의 問題는 單位當 附加價值額  $p_{e'}$  에 대하여 어떤 시점의 것을 使用하느냐 하는 것으로  $p_{e'}$  는 다른 品目的  $p_o$  와의 相對的 크기에 있어서 問題가 되나, 基準時 當該地域의 單位當 VA은 計測 困難하므로 全國이나 他地域의 것을, 質的 變化를

考慮하여 使用할 수 밖에 없음.

※ 新規로 出現한 製品의 全體에 대한 影響이 커서, 修正前 指數로서는 代表性이 確保되지 않는다고 判斷될 때는 新品目的 價格評價에 다소의 問題가 있어도 앞의 方法에 依해 修正하는 편이 實際 움직임을 더욱 가깝게 反映하는 것임.

## 5. 鑛工業 出荷指數의 出荷內譯表

### 가. 作成 目的

需要動向을 判斷하는 指標인 出荷指數를 輸出用과 國內用으로 區分하여 把握함으로써 鑛工業製品에 對한 內外需 動向을 定量的으로 分析하기 爲하여 作成

### 나. 作成 沿革

- 1968 年부터 1965 年基準 「鑛工業出荷內譯表」作成, 公表
  - 時系列은 1963 年以後
- 1970, 1975, 1980 年 基準年度改編

### 다. 作成 週期

- 分期別( 3, 6, 9, 12 月 確定指數 作成時)

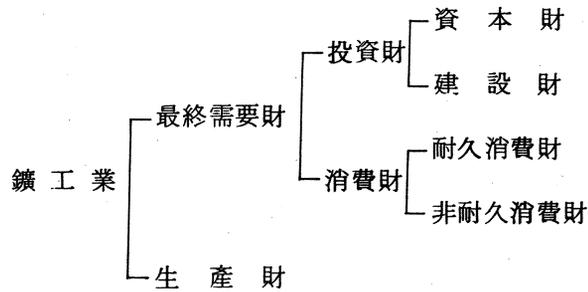
### 라. 作成 方法

#### (1) 基本原則

- 出荷指數를 輸出用과 國內用으로 分割.
- 出荷指數와 通關統計(大藏省)를 基礎로 出荷指數品目에 對應하는 通關統計品目を 選定하여 品目別로 輸出用, 國內用으로 分割한 후, 이를 加重平均하여 業種別, 財別(特殊分數)指數作成.

(2) 分類

① 財別分類



② 業種別 分類

- 鑛工業指數와 同一한 業種分類 使用.
- 輸出比重이 낮은 鑛業과 輸出系列에 制約이 있는 木材·木製品工業, 食料品, 담배工業, 其他 製造業의 數値는 公表하지 않음.
- 公表業種

鑛工業

鐵鋼業

非鐵金屬工業

金屬製品工業

機械工業

一般機械

電氣機械

輸送機械

精密機械

窯業·土石製品

化學工業

石油·石炭製品

펄프·紙·紙加工品

纖維工業

③ 採擇品目

- 532 個 品目 ( 出荷指數와 同一 )
- 通關統計와 出荷指數品目은 概念, 分類가 다르므로 完全한 對應은 어려우나, 가능한한 對應을 시킨 결과 出荷指數品目에 對應하는 通關統計品目 ( CCCN 7 자리 ) 은 약 1,500 品目

④ 指數算式

- 基準時 固定 加重平均算式

$$Q_t = \sum \frac{W_o^i}{\sum W_o^i} \cdot q_t^i$$

Q : 總, 財 · 業種別 指數

q : 品目別 指數

W : 品目別 加重值

o : 基準時

t : 比較時

i : 採擇品目

⑤ 加重值

- 1980 年 基準 出荷指數加重值, 1980 年 通關輸出額을 基礎로 算出.

- 品目別 輸出用 加重值 (W)

$$W = \frac{\text{當該品目輸出額}}{\text{出荷指數對應品目輸出額計}} \times \frac{\text{當該品目を 포함하는 業種輸出額}}{\text{出荷指數加重值基準額}} \times 10,000$$

- 通關輸出額 ( FOB 價格 ) 에는 流通 Margin 이 포함되어 있으므로 通關輸出額에서 流通 Margin 除外하여 生産者價格評價의 輸出額 使用

○ 品目別 國內用 加重値

品目別 出荷指數加重値－品目別 輸出用加重値

⑥ 季節調整

• MITI 法 III 을 사용하여 個個의 指數系列別로 季節調整

⑦ 公 表

○ 分期別로 「鑛工業生産動向」에 季節調整指數를 公表.

⑧ 作成方法

i. 輸出用 出荷指數(原指數)의 作成

• 通關統計 data에서 流通마진分을 除外한 후, 1980年 平均 값으로 나누어 通關統計分類의 輸出用出荷指數를 作成함.

• 이를 「鑛工業 出荷指數分類와 通關統計品目分類와의 對應表」를 사용하여 鑛工業指數分類의 輸出用出荷指數 作成함.

通關統計의 여러品目이 指數分類의 한 品目에 對應하는 경우, 指數分類로 總合時的 加重値는 1980年 通關統計分類의 輸出額을 使用.

ii. 國內用 出荷指數(原指數)의 作成

• 出荷指數에서 輸出用出荷指數를 빼어서 國內用出荷指數 算出함. 여기서 暱때에는 「品目別 內外需加重値」를 使用함.

iii. 財·業種分類指數의 作成

ii에서 作成한 品目別 內外需別指數를 加重平均하여 鑛工業 總合, 財·業種分類指數를 作成함.

財·業種과 品目の 對應表인 「IIP 品目코드마스타」로 品目を 財·業種分類에 對應시켜, 「品目別 內外需加重値」를 使用하여 加重平均한 鑛工業總指數, 財·業種別 輸出用, 國內用出荷指數를 구함.

iv. 季節調整

鑛工業總指數, 財·業種別 內外需別指數(原指數)를 季節指數로 나누어 季節調整을 한다.

季節指數는 年間補正時 作成하며, MITI 法 Ⅲ에 의함.

⑧ 年間補正

- 鑛工業指數 : 每年 3 月分 作成時 年間指數의 確定值 算出
- 通關統計 : 12 月分 公表時 過去 1 年分 數值가 確定值로 修正
- 出荷內譯表도 過去 1 年分 再計算
- 前年實績 追加하여 새로운 季節指數計算
  - 當年 2 月까지 5 年 4 個月 系列使用 → 翌年 2 月까지 季節指數計算

⑨ 接續指數

- 財別분류는 1963.1/4 分期, 業種別分類는 1971.1/4 分期까지 소급 가능함.
- 1980 年 기준지수는 1978.1/4 以後를 計算期間으로 하고 있기 때문에 그 以前 基準指數와 接續하여 利用하기 위해서는 接續指數에 의한 接續이 必要.

舊 基準指數	計算期間	接 속 계 수 ( $\ell$ )
○ 1975 年 基準指數	1973 ~ 1977	$\ell_{75} = \frac{80 \text{ 年 기준 } 78.1/4}{75 \text{ 年 기준 } 78.1/4}$
○ 1970 年 基準指數	1968 ~ 1972	$\ell_{70} = \frac{80 \text{ 年 기준 } 73.1/4}{75 \text{ 年 기준 } 68.1/4}$
○ 1965 年 基準指數	1963 ~ 1967	$\ell_{65} = \frac{75 \text{ 年 기준 } 68.1/4}{70 \text{ 年 기준 } 68.1/4}$

## 마. 利用上의 주의

### (1) 季節調整系列間의 整合性 問題

- 舊出荷內譯表의 國內用出荷의 季節調整은 季節調整出荷指數에서 季節調整 輸出用出荷指數를 빼어서 함.

따라서 輸出用 出荷指數(季節調整)와 國內用 出荷指數(季節調整)을 加重平均하면 出荷指數(季節調整)이 됨.

또 中間分類도 構成要素의 加重平均値가 됨.

- 1985年 改正에서는 鑛工業出荷指數와 同一한 계절조정方法을 採擇하여 系列別로 獨立的으로 調整.

즉, 國內用, 輸出用別로 各各 季節調整을 하므로 原指數는 輸出用, 國內用出荷指數의 加重平均이 總指數가 되는데도 불구하고, 季節調整系列에서는 內外需指數의 움직임과 出荷總指數의 움직임이 一致하지 않는 境遇가 생김.

### (2) Laspeyres bias

- 舊出荷內譯表

出荷總指數: 라스파이레스식	} 系列間 整合性 問題가 있었음.
輸出用出荷指數: Fisher 식	
國內用出荷指數: 兩者의 差異	

- 1985年 改正에서는 各 系列의 算式을 라스파이레스식으로 함.

- 그러나 L式은 基準時에서 떨어질수록 上向 bias가 있음.



## V. 蒐集資料目錄

## V. 蒐集資料目錄

資 料 名	作成機關	備 考
• 1985年國勢調查 調查票類, 要領書, 調查用品, 弘報資料, 集計樣式等	總務廳統計局	1985人口센서스를 爲한 모든 油印物및 調查用品
• 1985年 國勢調查 事後調查票, 要領書, 結果表(案)等	〃	1985人口센서스 事後調査를 위한 모든 油印物
• 1985年 國勢調查 製表計劃	〃	1985人口센서스 資料處理計劃 및 日程등
• 1984年度 事業概況	〃	내 부 자 료
• 統計研修所 概要	〃	〃
• 統計行政의 中長期構想	全國統計協會 聯合會	統計審議會 檢討報告書
• 總務廳 소개서	總 務 廳	總務廳조직소개
• 鑛工業指數의 作成方法과 보는法	通 產 省	
• 生産動態 統計調査 生産能力 記入要領	〃	
• 生産·出荷·在庫 統計速報	〃	1985.12月分
• 生産·出荷·在庫 指數確報	〃	1985.12月分
• 原材料 統計速報	〃	〃

資 料 名	作 成 機 關	備 考
• 鑛工業 生産動向	通 産 省	1985 年分
• 第 3 次 産業活動指數의 概要	"	
• 第 3 次産業活動指數	"	1985.4 分期
• 第 3 次産業活動指數의 動向	"	1985 年分
• 景氣動向指數	經 濟 企 劃 廳	月別 DI, CI 公表速報
• 日本景氣指數	"	
• 景氣レポート	"	내 부 자 료
• 經濟變動觀測資料年報	"	
• 地域別 景氣動向指數 作成方法과 利用	"	
• 機械受注統計調査報告	"	1986.1 分期豫測
• 機械受注統計調査報告	"	1985.12 月分
• 東京都統計部の 組織과 事業概要	東 京 都	
• 統計調査要覽 (1985)	"	
• 統計 Tokyo	"	統 計 月 報
• 世界 大都市 比較 統計年報	"	
• 東京都社會指標	"	
• Statistical Profile of Tokyo	"	

資 料 名	作 成 機 關	備 考
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大阪府 統計事務 概要(1985)</li> <li>• 統計로 본 大阪의 모습</li> <li>• 1986 統計調査概要</li> <li>• 統計레포트</li> <li>• 奈良縣勢要覽(1985)</li> </ul>	<p>大 阪 府</p> <p>”</p> <p>奈 良 縣</p> <p>奈良縣통계협회</p> <p>”</p>	<p>통 계 월 보</p>

〈參 考〉

I. 日本의 指定統計一覽

## 〈參考 1〉 日本의 指定統計一覽

- 日本의 指定統計는 136種('85.3 現在)으로서, 이를 各 部門別로 分類한 것임(複數部門에 關係되는 調査는 重複掲載).
- 指定番號欄에 \*表示가 있는 것은, 調査規則이 廢止되었거나, 統計調査實施가 中止 또는 調査가 1回限인 것임.

### ① 人 口

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
1	國勢調査	總 務 廳	5年(10月1日)	
5	人口動態調査	厚 生 省	每 月	
* 8	東京都晝間人口調査	東 京 都	—	
* 12	1948年 常住人口調査	總 務 廳	—	
* 25	北海道常住人口調査	北 海 道	每 年	
30	勞動力調査	總 務 廳	每 月	
* 44	玉島町常住人口調査	玉 島 町	—	
* 45	中津川町常住人口調査	中 津 川 町	—	
* 50	柳川町常住人口調査	柳 川 町	—	
* 52	鹿兒島縣大島郡十島村人口調査	總 務 廳	—	
* 63	廣島市晝間人口調査	廣 島 市	—	
* 70	奄美群島人口統計	總 務 廳	—	
87	就業構造基本調査	總 務 廳	3年(7月1日)	
* 104	門眞町常住人口統計	門 眞 町	—	
* 104-2	東村山町常住人口統計	東 村 山 町	—	

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
* 104-3	保谷町常住人口統計	保 谷 町	3年(7月1日)	
* 104-4	日野町常住人口統計	日 野 町	—	
* 104-5	國分寺町常住人口統計	國 分 寺 町	—	
* 107	美陵町常住人口統計	美 陵 町	—	
* 107-2	流山町常住人口統計	流 山 町	—	
* 107-3	八千代町常住人口統計	八 千 代 町	—	
* 107-4	鳩ヶ谷町常住人口統計	鳩 ヶ 谷 町	—	
* 109	四條畷町常住人口統計	四 條 畷 町	—	
* 109-2	取手町常住人口統計	取 手 町	—	
* 109-3	松任町常住人口統計	松 任 町	—	
* 109-4	桶川町常住人口統計	桶 川 町	—	
* 109-5	足立町常住人口統計	足 立 町	—	
* 109-6	村山町常住人口統計	村 山 町	—	
* 109-7	旭町常住人口統計	旭 町	—	
* 109-8	高濱町常住人口統計	高 濱 町	—	
* 109-9	知立町常住人口統計	知 立 町	—	
* 109-10	下田町常住人口統計	下 田 町	—	
* 109-11	裾野町常住人口統計	裾 野 町	—	
* 111	岩沼町常住人口統計	岩 沼 町	—	
* 111-2	豊明町常住人口統計	豊 明 町	—	
* 111-3	伊達町常住人口統計	伊 達 町	—	
* 111-4	秋多町常住人口統計	秋 多 町	—	
* 112	羽幌町常住人口統計	羽 幌 町	—	

② 勞動·賃金

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
------	-----	------	---------	-----

(勞動一般)

55	勞動生產性統計	農林水產省 通商産業省 勞 動 省	每年(2月1日)	
----	---------	-------------------------	----------	--

(雇 傭)

30	勞動力調査	總 務 廳	每 月	
* 80	地域別等就業調査	勞 動 省	—	
87	就業構造基本調査	總 務 廳	3年(7月1日)	(人口)

(賃 金)

7	每月勞動統計調査	勞 動 省	每 月	
* 17	船員每月勤勞統計	總 務 廳	每 月	90番調査 에 引繼
53	屋外勞動者職種別賃金調査	勞 動 省	每 年	
* 72	個人別賃金調査	勞 動 省	—	
* 73	職種別等賃金實態調査	勞 動 省	每年(4月30日)	
76	地方公務員給與實態調査	自 治 省	5年(4月1日)	
77	民間給與實態調査	國 稅 廳	每年(12月31日)	
90	船員勞動統計	運 輸 省	分 期	
94	賃金構造基本統計	勞 動 省	每年(6月30日)	

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
------	-----	------	---------	-----

(勞働條件)

7	毎月勞働統計調査	勞 動 省	每 月	(賃金)
* 88	中小企業勞働實態調査	勞 動 省	—	

③ 農林・水産

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
------	-----	------	---------	-----

(農 業)

* 3	農林水産業調査	農 林 省	—	
* 18	1949年 家畜센서스	農 林 省	—	
* 20	1949年 農地統計	農 林 省	—	
26	農林業센서스	農林水産省	5年(2月1日)	
33	牛乳乳製品統計	農林水産省	毎月, 毎年	
36	農家經濟調査	農林水産省	每 月	
37	作物統計	農林水産省	毎年, 收穫期	
38	養蠶收穫量統計	農林水産省	每 年	
* 39	農業動態調査	農 林 省	—	
* 59	緊急養蠶業基本調査	農 林 省	—	
* 75	1955年 臨時農業基本調査	農 林 省	—	
* 78	奄美群島の 農業 및 漁業 基本調査	農 林 省	—	
* 92	緊急畜産센서스	農 林 省	—	
* 100	水生産費統計	農 林 省	毎年(4月1日)	

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
* 102	1956年 果樹基本統計	農 林 省	—	
* 106	1966年 食糧消費總合統計	農 林 省	—	

(林 業)

* 3	農林水產業調查	農 林 省	—	(農業)
26	農林業센서스	農林水産省	10年(8月1日)	//
* 41	林野利用狀況調查	農 林 省	—	

(水産業)

* 3	農林水產業調查	農 林 省	—	(農業)
* 16	漁業權調查	農林水産省	—	
54	海面漁業生産統計	農林水産省	每 月	
67	漁業센서스	農林水産省	5年(11月1日)	
* 78	奄美群島の 農業 및 漁業基本調査	農 林 省	—	(農業)
* 96	沿岸漁業臨時調査	農 林 省	—	

④ 鑛 工 業

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
------	-----	------	---------	-----

(工業一般)

10	工業統計調査	通商産業省	毎年(12月31日)	
11	通商産業省生産動態統計	通商産業省	每 月	
46	工作機械設備等統計調査	厚生省 通商産業省 運輸省	5 年	

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
93	工業實態基本調查	通商產業省	5年(12月31日)	

(鑛 業)

40	埋藏鑛量統計	通商產業省	每年(4月1日)	
----	--------	-------	----------	--

(纖維・紙)

19	纖維流通統計	通商產業省	每 月	
95	紙流通統計	通商產業省	每 月	

(木 材)

69	製材統計	農林水產業	隔月，每年	
----	------	-------	-------	--

(化 學)

48	藥事工業生產動態統計調查	厚 生 省	每 月	
27	石炭等需給動態統計	通商產業省	每 月	
31	埋藏炭量炭質統計調查	通商產業省	5年(4月1日)	
51	石油製品需給動態統計	通商產業省 運 輸 省	每 月	

(金 屬)

49	非鐵金屬等需給動態統計	通商產業省	每 月	
----	-------------	-------	-----	--

(機械器具)

29	造船造機統計	運 輸 省	每 月	
71	鐵道車輛等生產動態統計調查	運 輸 省	每 月	

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
101	機械器具流通統計	通商産業省	每 月	

(가 스)

43	가스事業生産動態統計	通商産業省	每 月	
----	------------	-------	-----	--

(에너지消費)

115	商鑛工業에너지消費統計	通商産業省	毎年(12月31日)	
-----	-------------	-------	------------	--

⑤ 建 設

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
------	-----	------	---------	-----

(建設一般)

32	建築着工統計	建 設 省	每 月	
84	建設工事統計	建 設 省	毎月, 毎年	

(住 宅)

* 4	宅地制度調査	戰災復興院	—	
14	住宅統計	總 務 廳	5年(10月1日)	

⑥ 運輸・通信

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
------	-----	------	---------	-----

(陸 運)

71	鐵道車輛等生産動態統計 調査	運 輸 省	每 月	
99	自動車輸送統計	運 輸 省	//	

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
------	-----	------	---------	-----

(海 運)

6	港灣調查	運 輸 省	每月，每年	
* 21	海難統計	運 輸 省	每 月	
28	船舶船員統計	運 輸 省	每 年	
29	造船造機統計	運 輸 省	每 月	
103	內航船舶輸送統計	運 輸 省	每月，每年	

⑦ 商 業

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
------	-----	------	---------	-----

(商業·서비스業)

23	商業統計	通商產業省	2 年	
23-2	青森縣商業統計	青 森 縣	—	
34	百貨店販賣統計	通商產業省	每 月	
64	商業動態統計調查	通商產業省	//	
98	商業實態基本調查	通商產業省	6年(6月1日)	
113	特定서비스産業實態調查	通商產業省	每年(11月1日)	
19	纖維流通統計	通商產業省	每 月	(鑛工業)
27	石炭等需給動態統計	通商產業省	//	//
49	非鐵金屬等需給動態統計	通商產業省	//	//
51	石油製品需給動態統計	通商產業省	//	//
95	紙流通統計	通商產業省	//	//
101	機械器具流通統計	通商產業省	//	//

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
------	-----	------	---------	-----

(에너지消費)

115	商鑛工業에너지消費統計	通商産業省	毎年(12月31日)	(鑛工業)
-----	-------------	-------	------------	-------

⑧ 貿 易

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
58	貿易業態統計調査	通商産業省	每 年	

⑨ 家計・物價

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 期 間	備 考
------	-----	------	---------	-----

(家 計)

36	農家經濟調査	農林水産省	每 月	(農業)
56	家計調査	總 務 廳	"	
86	1970年國富調査의 家計 資産調査	總 務 廳	10 年	
97	全國消費實態調査	總 務 廳	5年(9~11月)	

(物 價)

* 22	特別消費者價格調査	總 務 廳	—	
* 24	生産財實效價格統計	經濟審議廳	每 月	
35	小賣物價統計	總 務 廳	"	
108	全國物價統計	總 務 廳	"	

⑩ 企 業

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
2	事業所統計	總 務 廳	5年(7月1日)	
57	個人企業經濟調查	總 務 廳	每 年	
81	1970年國富調查의 法人 資産調査	經濟企劃廳	10 年	
85	1970年國富調查의 個人 企業資産調査	經濟企劃廳	〃	
89	1970年國富調查의 公共 團體資産調査	經濟企劃廳	〃	
* 91	法人企業投資實績統計調查	經濟企劃廳	每 年	
110	法人企業統計	大 藏 省	分 期	

⑪ 社 會 · 文 化

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
(社會福祉)				
60	厚生行政基礎調查	厚 生 省	每 年	
* 105	1966年厚生省生活總合 統計	厚 生 省	—	

(保健·衛生)

15	學校保健統計	文 部 省	每 年	
65	醫療施設統計	厚 生 省	〃	
66	患者調査	厚 生 省	〃	
68	國民健康調査	厚 生 省	〃	
* 79	社會醫療調査	厚 生 省	每年3回	

指定番號	名 稱	作成機關	調 查 週 期	備 考
82	學校給食調查	文 部 省	不 定 期	

(教育・文化)

* 9	學校教員調查	文 部 省		
13	學校基本調查	文 部 省	每年(5月1日)	
47	產業教育調查	文 部 省		
61	科學技術研究調查	總 務 廳	每年(4月1日)	
62	學校教員統計	文 部 省		
74	學校設備統計	文 部 省		
83	社會教育調查	文 部 省		

(社會生活・餘暇生活)

42	國際觀光統計	運 輸 省	每 月	
114	社會生活基本統計	總 務 廳	每 年	